

Forum 011



2008

Information Technology

第7回情報科学技術フォーラム

プログラム

インフォメーション	1
交通案内図	2
キャンパス図	4
プログラム概要	7
講演論文集の内容	11
各種イベントのご案内	12
会場別スケジュール	13
イベント企画講演概要	16
一般講演プログラム	45
FIT委員名簿	67

平成20年9月2日(火)～4日(木)
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(神奈川県藤沢市遠藤5322)

懇親会 9月3日(木) 18:00より
Σ館B1階 生協食堂・South Wing(会場キャンパス内)

FIT2008本部 Ω棟1階 Ω12教室
電話・FAX:(0466) 49-3635(大会会期中のみ)

【共催】



社団法人 電子情報通信学会

The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

情報・システムソサイエティ (ISS) ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)

Information and Systems Society

Human Communication Group



社団法人 情報処理学会

Information Processing Society of Japan

【協力】



慶應義塾大学
Keio University

ーインフォメーションー

■総受付（インフォメーションコーナー） Ω棟 1F廊下
 受付時間：2日（火）8:30-17:00 3日（水）8:30-17:00 4日（木）8:30-15:00
 各種受付、講演論文集・CD-ROM販売、問合せ窓口

■FIT2008本部・手荷物預かり Ω棟 Ω12教室
 臨時電話（FAX兼用）0466-49-3635（会期中のみ）

■聴講参加費【プログラム・参加章・CD-ROM付き】（税込）
 会 員：8,500円 非会員：17,000円 学生：無料（プログラム・参加章のみ）

■講演論文集・CD-ROM（税込）
 講演論文集セット（全論文集・CD-ROM・カバー付き）：個人・法人共57,000円
 講演論文集各分冊：個人購入12,000円／法人購入15,000円
 講演論文集CD-ROM：個人購入8,000円／法人購入55,000円／学割会場販売：2,500円
 ※CD-ROMには一般講演全論文とプログラム収録

■懇親会
 日時：9月3日（水）18:00-20:00
 会場：Σ館B1階 生協食堂 South Wing
 参加費（税込）：社会人5,000円 学生2,000円

■講演件数

講演種別	イベント企画			査読付き論文	一般講演論文
	委員会提案	研究会提案	現地提案		
件 数	3	13	3	71	651*

*但し、講演取消を含む

■お知らせ事項

〔連絡掲示板〕

FITに関する周知および伝言等は、総受付前に設置する「連絡掲示板」に掲示しますのでご注意ください。
 各会場への個別の連絡や館内アナウンス等は致しません。

〔無線LANコーナー〕

〔食堂〕

生協食堂 営業時間 11:30～14:00
 タブリエ（ファカルティ食堂） 営業時間 11:00～14:30（ラストオーダー14:30）
 サブウェイ 営業時間 9:00～17:00

〔売店〕

生協購買 営業時間 10:00～15:00

〔喫煙について〕

大学構内は禁煙です。喫煙は指定の喫煙場所をお願いします。

■今後のFIT・大会情報

FIT2009 第8回情報科学技術フォーラム

会期：2009年9月2日（水）～4日（金） 会場：東北工業大学 八木山キャンパス（宮城県仙台市）

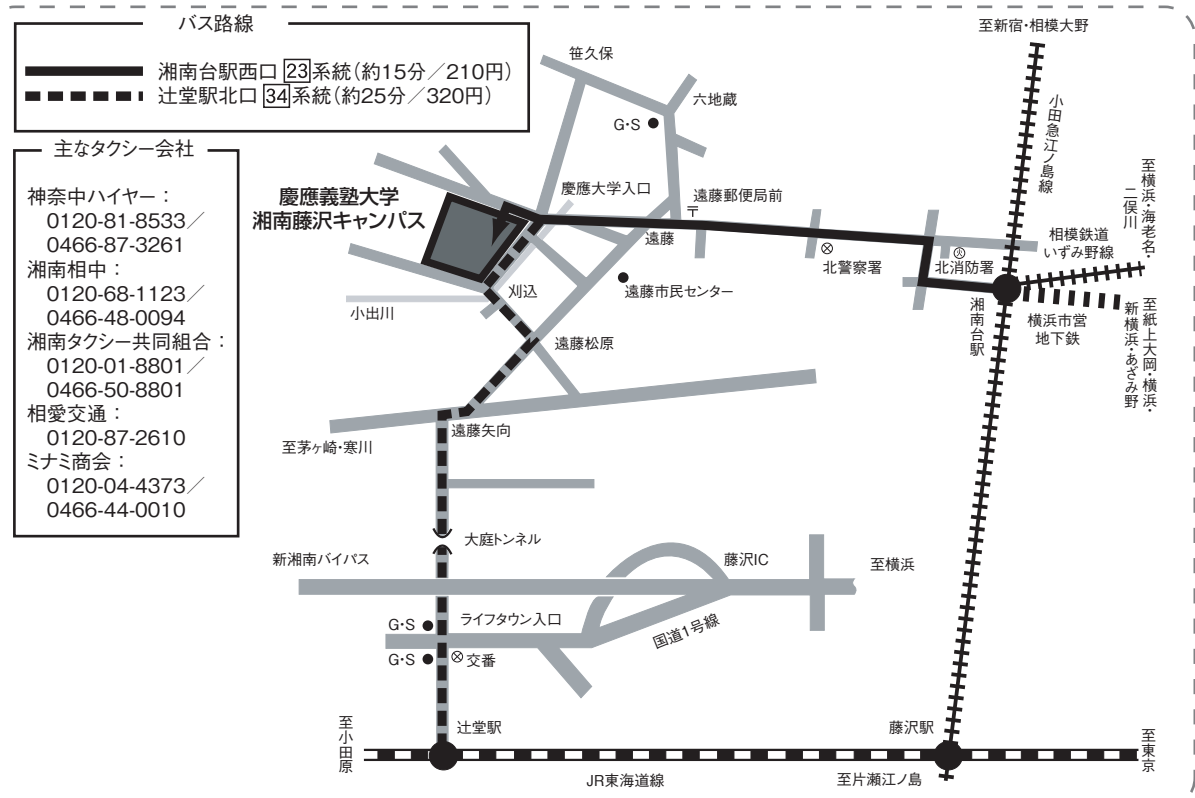
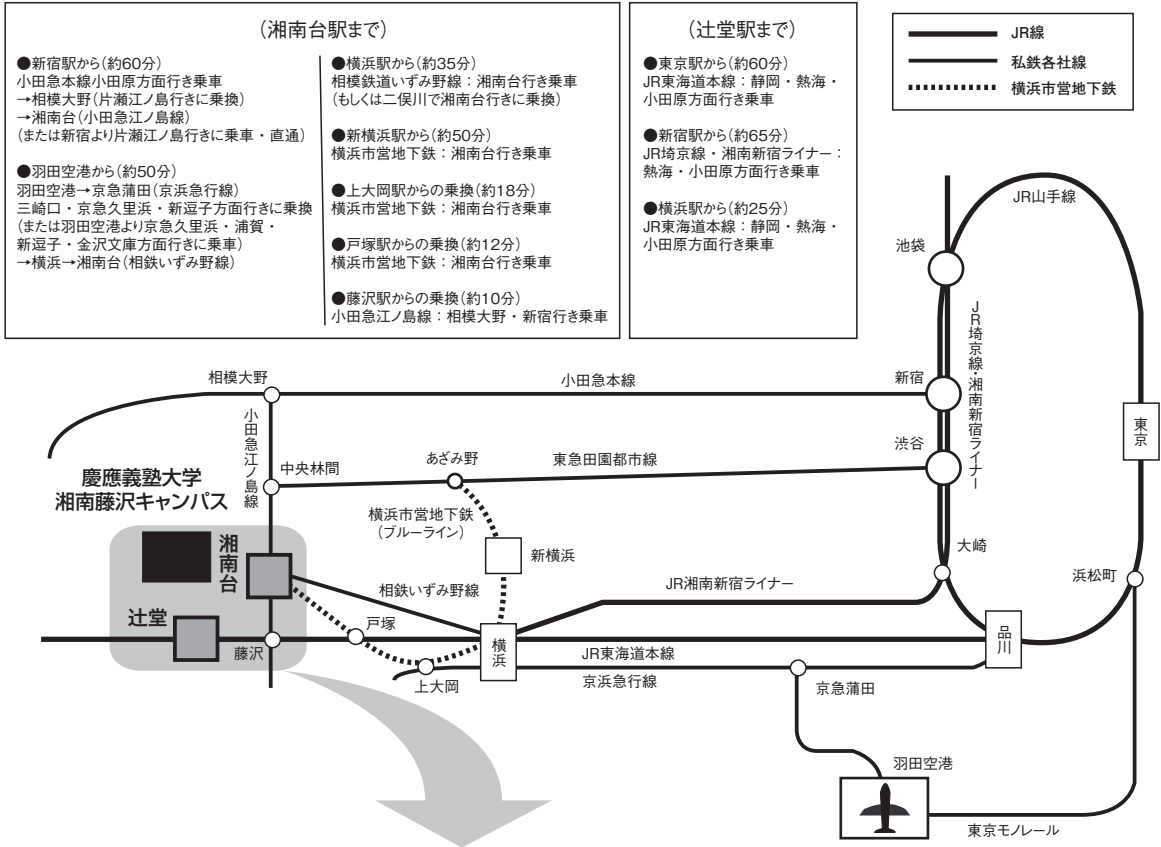
2009年総合大会（電子情報通信学会）

会期：2009年3月17日（火）～20日（金） 会場：愛媛大学（愛媛県松山市）

第71回全国大会（情報処理学会）

会期：2009年3月10日（火）～12日（木） 会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）

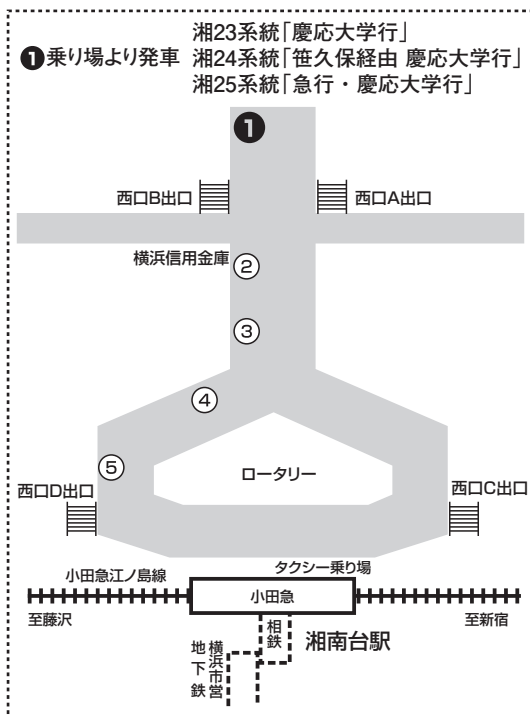
交通案内図



バス案内

湘南台駅からバスでご来場の際、バスロータリーの「慶応大学」バス停からさらにキャンパス内に入りα館(本館)前の「慶応大学本館前」バス停(終点)で降りて下さい。
終点手前の「慶応大学」で降りないようにご注意ください。

湘南台駅西口バス停時刻表	
行先	慶応大学本館前行・慶応大学行
系統	湘23／湘24／湘25 (急行)
7	10 17 [24 ^急] 30 39 48 [53 ^急] 56
8	01 [09 ^急] 15 20 24 28 [35 ^急] 40 47 [55 ^急]
9	02 08 12 16 [22 ^急] 30 38 46 55
10	00 05 [12 ^急] 17 26 35 40 45 50 55
11	00 10 20 30 40 50
12	[00 ^急] 10 20 25 35 [45 ^急] 55
13	15 25 35 45 55
14	05 15 20 35 45 55
15	05 15 25 35 45 52
16	[00 ^急] 05 15 [21 ^急] 29 [39 ^急] 45 55
17	[08 ^急] 15 [27 ^急] 33 45 [51 ^急] 57
18	[09 ^急] 15 30 [38 ^急] 45 [57 ^急]
19	03 15 [21 ^急] 30 39 45 55
20	05 15 25 35 50
21	05 20 35 50(最終)



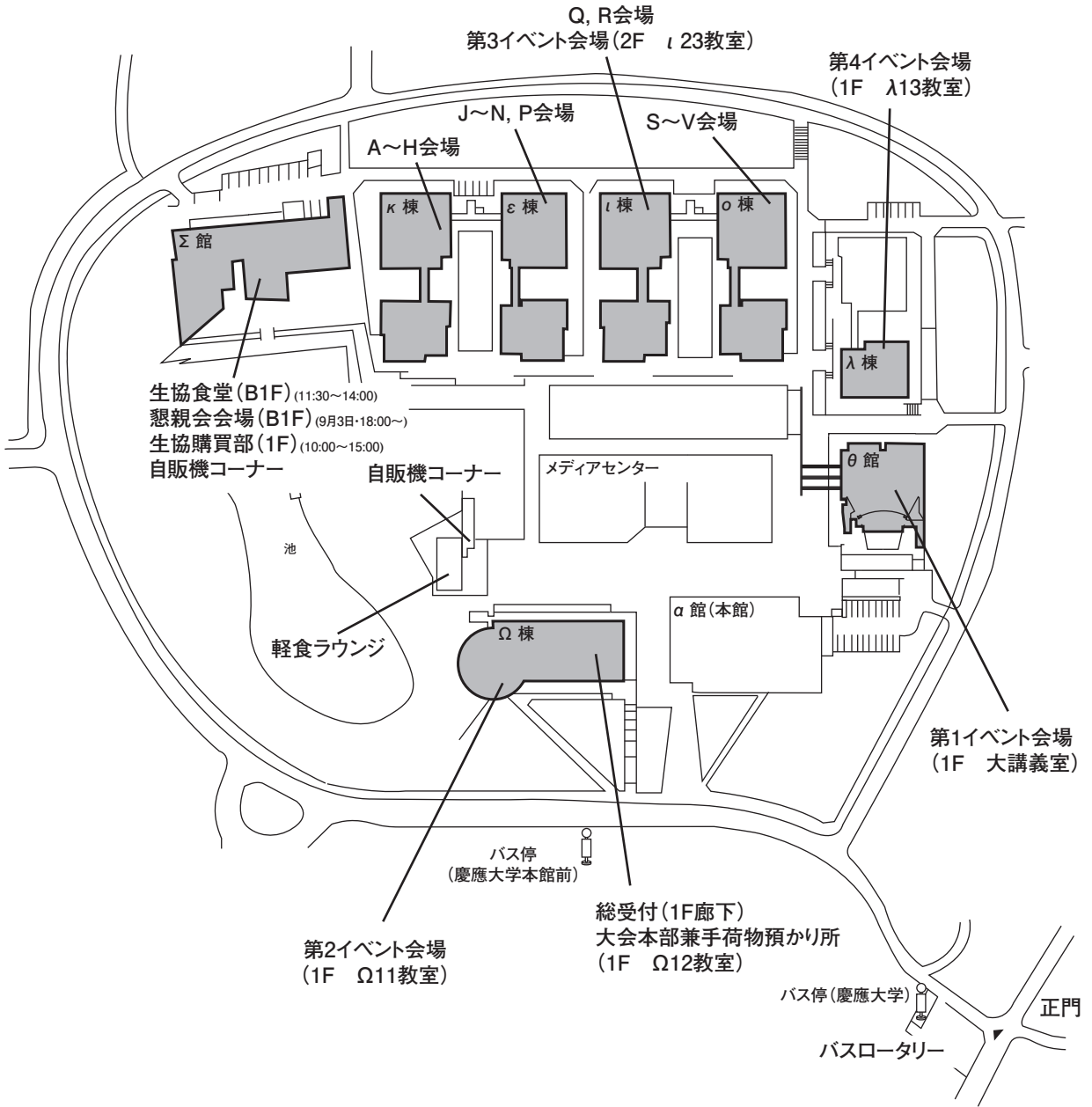
慶応大学本館前バス停時刻表	
行先	湘南台駅西口行
系統	湘23／湘25 (急行)／湘26
15	16 21 26 31 [38 ^急] 47 56
16	[03 ^急] 08 13 [20 ^急] 25 35 [45 ^急] 50
17	[05 ^急] 10 20 [30 ^急] 37 [50 ^急] 59
18	08 [15 ^急] 20 [35 ^急] 44 53
19	[00 ^急] 07 20 30 40 50
20	00 10 20 30 40 50
21	00 15 30 50
22	10 30 50
23	15 (最終)

慶応大学バス停時刻表	
行先	湘南台駅西口行
系統	湘23／湘24／湘25 (急行)／湘26
7	[00 ^急] 05 28 [32 ^急] 37 [45 ^急] 47
8	02 08 [12 ^急] 19 24 [32 ^急] 41 50 [55 ^急]
9	00 20 35 [50 ^急]
10	07 20 27 40 50
11	00 07 25 [40 ^急] 50
12	00 10 [20 ^急] 30 45
13	00 10 25 40 55
14	10 20 25 40 55
15	02 09 17 22 27 32 [39 ^急] 48 57
16	[04 ^急] 09 14 [21 ^急] 26 36 [46 ^急] 51
17	[06 ^急] 11 21 [31 ^急] 38 [51 ^急]
18	00 09 [16 ^急] 21 [36 ^急] 45 54
19	[01 ^急] 08 21 31 41 51
20	01 11 21 31 41 51
21	01 16 31 51
22	11 31 51
23	16 (最終)

* 15:09まではバスロータリーの「慶応大学」バス停始発

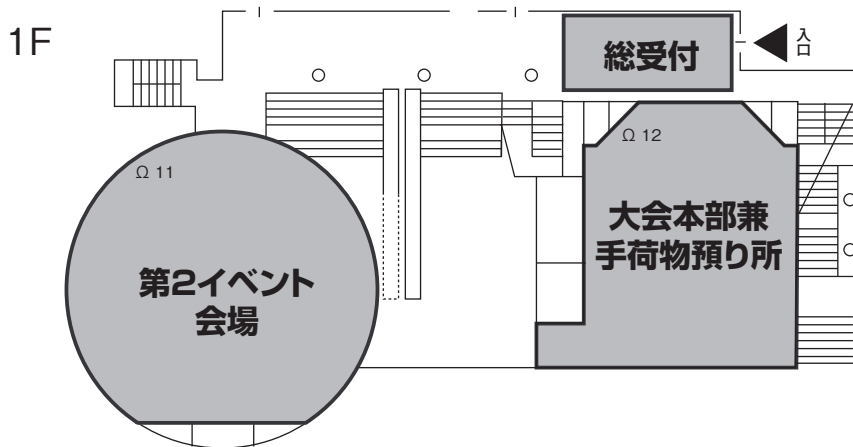
* 15:16以降はα館(本館)前の「慶応大学本館前」バス停始発

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス図

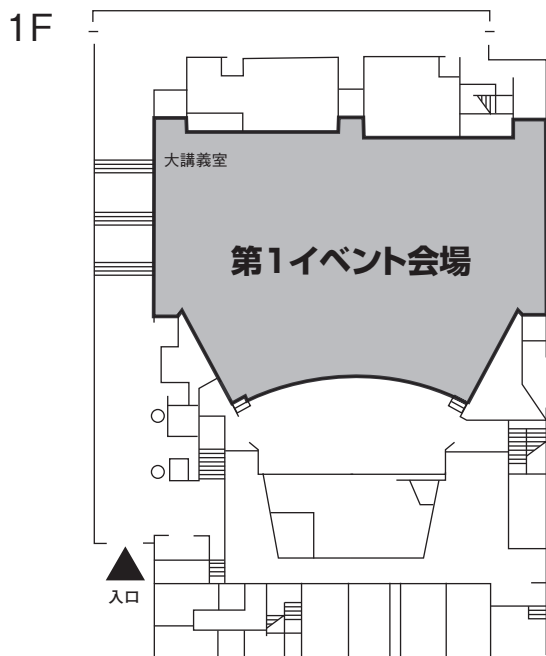


館内案内図

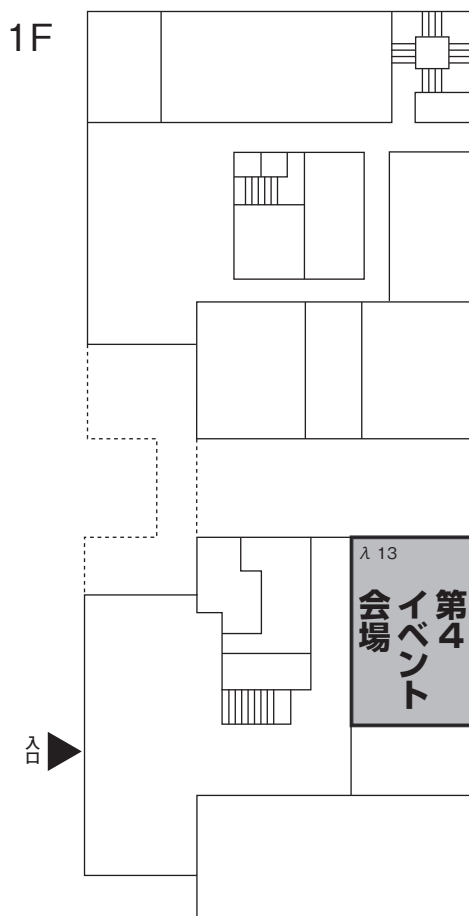
Ω 棟

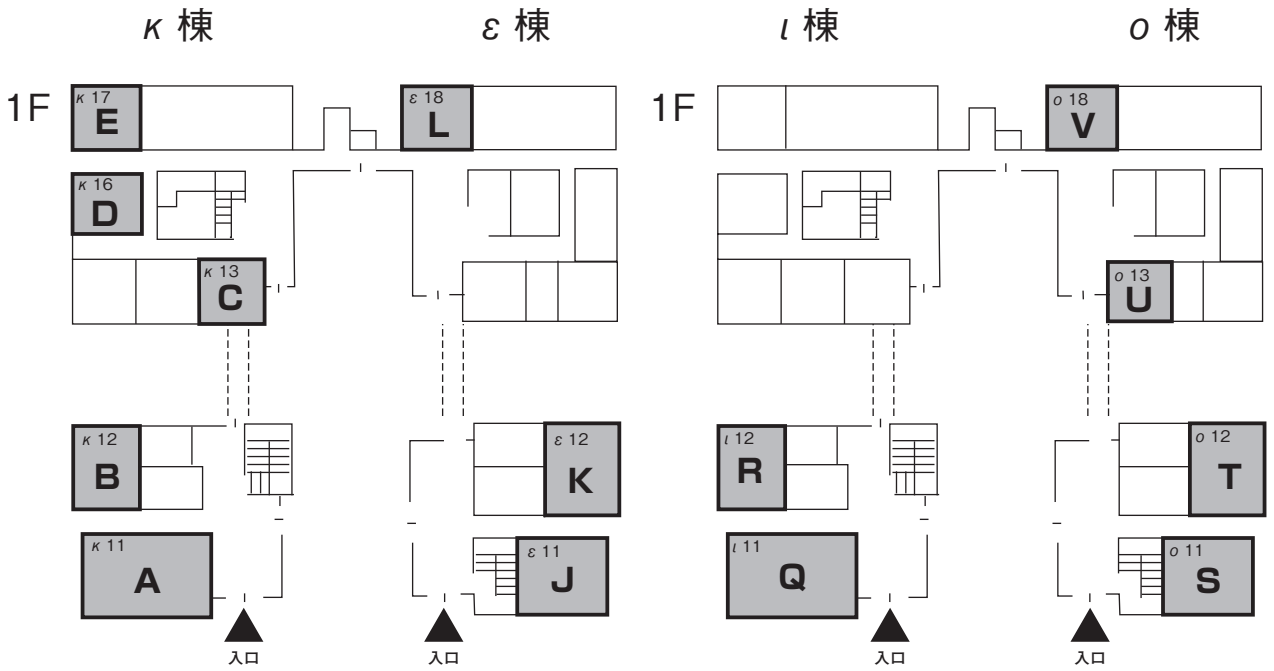
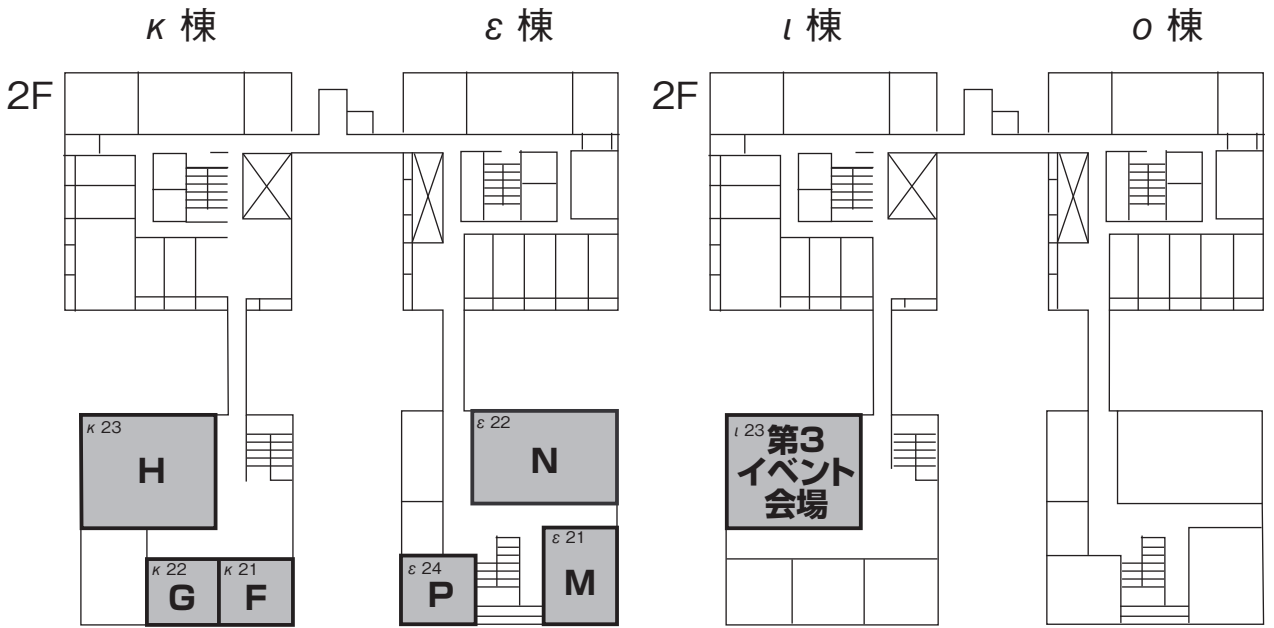


θ 館



λ 棟





FIT2008 プログラム概要

日	会場 時間	第1イベント会場 θ館 1階 大講義室	第2イベント会場 Ω棟 1階 Ω 11教室	第3イベント会場 ι棟 2階 ι 23教室	第4イベント会場 λ棟 1階 λ 13教室
9月2日 (火)	9:30 1	9:30 - 12:00 慶應義塾創立150年記念講演 情報 "実学" 実践の 場としてのSFC	9:30 - 12:00 データサイエンスで活躍する 列挙アルゴリズム -設計技法とその応用-	9:30 - 12:00 医療現場における 異文化間コラボレーション	/
	12:00	16	24	31	
	13:00 2	13:00 - 17:30 情報爆発時代の 自然言語処理の新展開 -大規模ウェブソースは 対話を賢くするか?-	13:00 - 15:30 ボリュームデータをめぐる 「医」と「工」のインタラクション	13:00 - 16:20 サイバーワールドと リアルワールドとの接点 -ロケーションサービスを 中心として-	13:00 - 16:00 FIT2008 論文賞セッション
15:00 3	15:30	17	25	34	
17:30					
9月3日 (水)	9:30 4	9:30 - 12:00 これでいいのか、ユビキタス -今後のユビキタス コンピューティングの 研究を考える-	9:30 - 12:00 パネル討論： 情報科学教育の未来	9:30 - 12:00 エンターテインメント 産業における モーションキャプチャ技術の 将来展望	/
	12:00	19	27	36	
	13:00	13:00 - 13:50 FIT学術賞表彰式	/	/	/
	13:50	20			
	14:00 5	14:00 - 15:15 船井業績賞受賞記念講演 川人 光男 (ATR脳情報研究所 所長) ブレイン・ネットワーク・ インタフェース(BNI)技術の 最前線	/	/	/
15:15	16				
15:30	15:30 - 17:30 パネル討論： 情報処理で社会を守る	15:30 - 17:30 情報・システム 研究開発の今昔 -若者の夢を どこまで膨らませる-	15:30 - 17:30 EIPの10年	/	
17:30	21	28	39		
9月4日 (木)	9:30 6	9:30 - 16:30	9:30 - 12:00 パネル討論： コ・モビリティ社会の 創生に向けて	10:30 - 12:00 KIISE会長招待講演 International Collaboration between KIISE and Japanese Organizations	/
	12:00	22	29	40	
	13:00 7	コンピュータ囲碁最前線	13:00 - 16:00 パターン認識・メディア理解 アルゴリズムコンテスト	13:00 - 15:30 イノベーターが語る オブジェクトの世界 -いかに生まれ、浸透し、 そしてどこに向かうのか?-	13:00 - 16:20 ユビキタスWeb -これからのWebのために 必要な技術は何か-
16:00	22	30	41	42	

※右下の数字は当プログラム冊子の掲載ページ番号です。

日	会場 時間	A κ棟1階 κ11教室	B κ棟1階 κ12教室	C κ棟1階 κ13教室	D κ棟1階 κ16教室	E κ棟1階 κ17教室	F κ棟2階 κ21教室	G κ棟2階 κ22教室
		9月2日(火)	9:30	エージェント・学習 藤田 悟 (法政大)	/	社会と 情報システム 刀川 眞 (室蘭工大)	授業支援 田中 雅章 (鈴鹿短大)	バイオと医用画像 田口 善弘 (中央大)・ 増谷 佳孝 (東大) G分野 52
	12:00	F分野 51	/	O分野 66	N分野 65	/	/	/
	13:00	モバイル・ ユビキタス 大須賀昭彦 (電通大)	文字・ 文書画像解析 井手 一郎 (名大)	医療とコンテンツの 情報システム 辻 秀一 (東海大)	プログラミング教育 高岡 詠子 (千歳科技大)	/	実装支援 吉田 敦 (和歌山大)	データ管理 大西 仁 (メディア教育 開発センター)
	15:00	F分野 51	H分野 54	O分野 66	N分野 65	/	B分野 45	J分野 58
	15:30	統計・ フィルタリング 松原 繁夫 (京大)	画像検索・分類 嶋 好博 (明星大)	オフィス情報 システムと評価 関 良明 (NTT)	人文・社会系応用 松村 敦 (筑波大)	/	プロダクト管理 岡野 浩三 (阪大)	コラボレーション 片桐 恭弘 (はこだて未来大)
	17:30	F分野 51	H分野 54	O分野 66	N分野 65	/	B分野 45	J分野 58
9月3日(水)	9:30	人工知能一般 栗原 聡 (阪大)	画像解析基礎 堀内 隆彦 (千葉大)	アルゴリズム 山田 敏規 (埼玉大)	知的財産・ 社会基盤 一戸 信哉 (敬和学園大)	医用生体工学 内山 孝憲 (慶大)	要求工学・WEB 松浦佐江子 (芝浦工大)	ヒューマン コンピュータ インタラクション 青木 義満 (慶大)
	12:00	F分野 52	H分野 54	A分野 45	N分野 65	G分野 53	B分野 46	J分野 58
	13:00	/	/	/	/	/	/	/
	13:50	/	/	/	/	/	/	/
	14:00	/	/	/	/	/	/	/
	15:15	/	/	/	/	/	/	/
	15:30	マイニング 市瀬龍太郎 (国立情報学研)	画像解析応用 森本 雅和 (兵庫県大)	コンピューテーション 堀山 貴史 (埼玉大)	/	ニューロ コンピューティング 池田 和司 (京大)	ソフトウェア開発 奥野 拓 (はこだて未来大)	ヒューマン コミュニケーション 支援 松田 昌史 (NTT)
	17:30	F分野 52	H分野 55	A分野 45	/	G分野 53	B分野 46	J分野 58
9月4日(木)	9:30	表情・感情・ 感性 大和田 茂 (ソニーCSL)	画像認識・ 物体検出 今井 順一 (電通大)	プログラミング 西崎 真也 (東工大)	情報教育支援 奥村 晴彦 (三重大)	/	高性能計算 南里 豪志 (九大)	入力インタフェース 梶本 裕之 (電通大)
	12:00	J分野 59	H分野 55	A分野 45	N分野 65	/	B分野 46	J分野 59
	13:00	ヒューマン 情報処理 朝倉 暢彦 (金沢工大)・ 西野由利恵 (NICT/ATR)	/	数理モデル化と 問題解決 堀田 一弘 (電通大)	/	/	OS 笹田 耕一 (東大)	コミュニケーション ロボット 西尾 修一 (ATR)・ 篠沢 一彦 (ATR)
	16:00	J分野 59	/	A分野 45	/	B分野 46	J分野 59	J分野 59

プログラム概要

H κ棟2階 κ23教室	J ε棟1階 ε11教室	K ε棟1階 ε12教室	L ε棟1階 ε18教室	M ε棟2階 ε21教室	N ε棟2階 ε22教室	P ε棟2階 ε24教室
	複雑システム 山下 倫央 (産総研) F分野 51	三次元計測 國田 豊 (NTT) I分野 55		モデリング 小堀 研一 (阪工大) I分野 55	画像符号化 (1) 高村 誠之 (NTT) I分野 56	10:40 - 12:00 サイバーワールド 青木 義満 (慶大) K分野 59
映像解析 (1) 大谷 淳 (早大) H分野 54	情報論的学習 加藤 毅 (お茶の水女子大) F分野 51	画質 川田 亮一 (KDDI研) I分野 56	専用システム 佐藤 真琴 (日立) C分野 46	レンダリング 齋藤 剛 (電機大) I分野 56	画像処理 八島 由幸 (NTT) I分野 56	
映像解析 (2) 北澤 仁志 (農工大) H分野 54	ゲーム・AI 橋本 剛 (北陸先端大) F分野 52		メモリ・システム 橋本 幹生 (東芝) C分野 46	画像とマッピング 土橋 宜典 (北大) I分野 56	動画処理 筒口 拳 (NTT) I分野 56	
顔画像解析 高野 博史 (富山県大) H分野 54	統計的学習 樺島 祥介 (東工大) F分野 52		システムLSI 設計技術 小松 聡 (東大) C分野 47			10:20 - 12:00 福祉情報工学(1) 高齢者 中山 剛 (国立身体障害者 リハビリテーション センター) K分野 60
人物画像処理 平野 靖 (名大) H分野 55	ネットワーク科学 福田 健介 (国立情報学研) F分野 52		アーキテクチャ 鳥居 淳 (NEC) C分野 47	キャラクタ アニメーション 栗山 繁 (豊橋技科大) I分野 57	画像符号化(2) 甲藤 二郎 (早大) I分野 57	マルチメディア・ 仮想環境基礎 椋木 雅之 (広島市大) K分野 60
3次元解析 西尾 孝治 (阪工大) H分野 55	10:00 - 12:00 福祉情報工学(2) 聴覚 西本 卓也 (東大) K分野 60	コンピュータ・ ビジョン 内海 章 (ATR) I分野 57	デイベンダビリティ・ ストレージ 米田 友洋 (国立情報学研) C分野 47	エンタテインメント コンピューティング 齋藤 英雄 (慶大) I分野 57	透かし 越前 功 (国立情報学研) I分野 57	教育工学 (1) 赤倉 貴子 (東理大) K分野 60
	福祉情報工学(3) 視覚・一般 今井 篤 (NHK エンジニアリング サービス) K分野 60	CG 境田 慎一 (NHK技研) I分野 57	組み込みシステム 天野 英晴 (慶大) C分野 47		画像復元 久保田 彰 (東工大) I分野 58	教育工学 (2) 鈴木 栄幸 (茨城大) K分野 61

FIT2008 プログラム概要

日	会場 時間	Q	R	S	T	U	V
		棟1階 i11教室	棟1階 i12教室	棟1階 o11教室	棟1階 o12教室	棟1階 o13教室	棟1階 o18教室
9月2日 (火)	9:30	Web (1) 加藤 直人 (NHK技研)	抽出 吉田 稔 (東大)	MANETと センサーネット 岩井 将行 (電機大)	マルチメディア 通信 藤田 茂 (千葉工大)	セキュリティ (1) 梶窪 孝也 (日大)	XML・ マルチメディア 島川 博光 (立命館大)
	12:00	E分野 49	E分野 49	M分野 63	M分野 63	L分野 62	D分野 48
	13:00			状況認識 大内 一成 (東芝) M分野 63	ユーザ指向 ネットワーク 北形 元 (東北大) M分野 63	セキュリティ (2) 三宅 優 (KDDI研) L分野 62	情報推薦・ データマイニング 渡辺知恵美 (お茶の水女子大) D分野 48
	15:00			ユビキタス アプリケーション 今野 将 (千葉工大) M分野 64	位置推定 原 晋介 (大阪市大) M分野 64	システム評価と セキュリティ 岸場 清吾 (広島大) L分野 62	ユビキタス 相良 毅 (東大) D分野 48
15:30							
17:30							
9月3日 (水)	9:30	10:10 - 12:00 多言語処理 大熊 智子 (富士ゼロックス)	音声言語処理 伊藤 克巨 (法政大)	10:20 - 12:00 音楽情報科学(1) 松島 俊明 (東邦大)		ネットワーク技術 計 宇生 (国立情報学研)	問合せ 河合由起子 (京産大)
	12:00	E分野 49	E分野 49	E分野 49		L分野 62	D分野 48
	13:00						
	13:50						
	14:00						
	15:15						
15:30	情報検索・要約 橋本 泰一 (東工大)	リソース・システム 井ノ上直巳 (ATR)	音楽情報科学(2) 長嶋 洋一 (静岡芸術文化大)			P2P 地引 昌弘 (NEC)	検索結果 大塚 真吾 (物質・材料 研究機構)
17:30	E分野 50	E分野 50	E分野 50			L分野 62	D分野 48
9月4日 (木)	9:30	意味解析 中川 哲治 (NICT)	Web (2) 木村 泰知 (小樽商科大)	ユビキタス ネットワーク 今井 尚樹 (KDDI研)	Webサービスと インターネット 井上 智雄 (筑波大/ 国立情報学研)	WWWとメール 山井 成良 (岡山大)	索引構造 山口 実靖 (工学院大)
	12:00	E分野 50	E分野 50	M分野 64	M分野 64	L分野 62	D分野 48
	13:00	コミュニケーション 松吉 俊 (奈良先端大)		実世界 インタフェース 福地健太郎 (JST) M分野 64	協調と共有 金井 秀明 (北陸先端大) M分野 64	インターネットと 運用技術 安東 孝二 (東大) L分野 63	特徴抽出 原田 隆史 (慶大) D分野 49
16:00	E分野 50						

講演論文集の内容

発行日 平成 20 年 8 月 20 日

講演論文集 第 1 分冊

査読付き論文

分野 A：モデル・アルゴリズム・プログラミング

分野 C：ハードウェア・アーキテクチャ

一般論文

分野 A：モデル・アルゴリズム・プログラミング

分野 B：ソフトウェア

分野 C：ハードウェア・アーキテクチャ

講演論文集 第 2 分冊

査読付き論文

分野 D：データベース

分野 E：自然言語・音声・音楽

分野 F：人工知能・ゲーム

分野 G：生体情報科学

一般論文

分野 D：データベース

分野 E：自然言語・音声・音楽

分野 F：人工知能・ゲーム

分野 G：生体情報科学

講演論文集 第 3 分冊

査読付き論文

分野 I：グラフィクス・画像

分野 J：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

分野 K：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

一般論文

分野 H：画像認識・メディア理解

分野 I：グラフィクス・画像

分野 J：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

分野 K：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

講演論文集 第 4 分冊

査読付き論文

分野 L：ネットワーク・セキュリティ

分野 M：ユビキタス・モバイルコンピューティング

分野 N：教育・人文科学

分野 O：情報システム

一般論文

分野 L：ネットワーク・セキュリティ

分野 M：ユビキタス・モバイルコンピューティング

分野 N：教育・人文科学

分野 O：情報システム

講演論文集 CD-ROM

上記全論文およびプログラムを収録

ー各種イベントのご案内ー

■船井業績賞受賞記念講演

第1 イベント会場 (θ館 1F 大講義室) 3日 (水) 14:00-15:15
 「ブレイン・ネットワーク・インタフェース (BNI) 技術の最前線」
 川人 光男 (ATR 脳情報研究所 所長)

■FIT 学術賞表彰式

第1 イベント会場 (θ館 1F 大講義室) 3日 (水) 13:00-13:50
 ・FIT2008 船井業績賞 ・FIT2008 船井ベストペーパー賞 ・FIT2008 論文賞
 ・FIT2007 ヤングリサーチャー賞

■イベント企画

第1 イベント会場 (θ館 1F 大講義室)
 ・2日 (火) 9:30-12:00 慶應義塾創立 150 年記念講演: 情報 "実学" 実践の場としての SFC
 ・2日 (火) 13:00-17:30 情報爆発時代の自然言語処理の新展開
 ー大規模ウェブリソースは対話を賢くするか?ー
 ・3日 (水) 9:30-12:00 これでもいいのか, ユビキタス
 ー今後のユビキタスコンピューティングの研究を考えるー
 ・3日 (水) 15:30-17:30 パネル討論: 情報処理で社会を守る
 ・4日 (木) 9:30-16:30 コンピュータ囲碁最前線

第2 イベント会場 (Ω棟 1F Ω 11 教室)
 ・2日 (火) 9:30-12:00 データサイエンスで活躍する列挙アルゴリズム
 ー設計技法とその応用ー
 ・2日 (火) 13:00-15:30 ボリュームデータをめぐる「医」と「工」のインタラクション
 ・3日 (水) 9:30-12:00 パネル討論: 情報科学教育の未来
 ・3日 (水) 15:30-17:30 情報・システム研究開発の今昔ー若者の夢をどこまで膨らませるー
 ・4日 (木) 9:30-12:00 パネル討論: コ・モビリティ社会の創生に向けて
 ・4日 (木) 13:00-16:00 パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト

第3 イベント会場 (ι棟 2F ι 23 教室)
 ・2日 (火) 9:30-12:00 医療現場における異文化間コラボレーション
 ・2日 (火) 13:00-16:20 サイバーワールドとリアルワールドとの接点
 ーロケーションサービスを中心としてー
 ・3日 (水) 9:30-12:00 エンターテイメント産業におけるモーションキャプチャ技術の
 将来展望
 ・3日 (水) 15:30-17:30 EIP の 10 年
 ・4日 (木) 10:30-12:00 KIISE 会長招待講演:
 International Collaboration between KIISE and Japanese Organizations
 ・4日 (木) 13:00-15:30 イノベータが語るオブジェクトの世界
 ーいかに生まれ, 浸透し, そしてどこに向かうのか?ー

第4 イベント会場 (第4 イベント会場 (λ棟 1F λ 13 教室)
 ・2日 (火) 13:00-16:00 FIT2008 論文賞セッション
 ・4日 (木) 13:00-16:20 ユビキタス Web ーこれからの Web のために必要な技術は何かー

－会場別スケジュール－

一般講演会場 (κ棟, ε棟, ι棟, ο棟)
2日(火) 9:30～12:00, 13:00～15:00, 15:30～17:30 3日(水) 9:30～12:00, 15:30～17:30 4日(木) 9:30～12:00, 13:00～16:00

懇親会会場 (Σ館 B1F 生協食堂 South Wing)
3日(水) 18:00～20:00

第1 イベント会場 (θ館 1F 大講義室)		
日	時 間	内 容
2 日 (火)	慶應義塾創立150年記念講演：情報“実学”実践の場としてのSFC	
	9:30-12:00	相磯 秀夫 (東京工科大学 理事 (前学長) / 慶應義塾大学 名誉教授)
	情報爆発時代の自然言語処理の新展開－大規模ウェブリソースは対話を賢くするか？－	
	13:00-13:10	オープニング 村上 浩司 (奈良先端大)
	13:10-14:00	講演1「行動データに基づくインタラクティブシステムのデザイン」 中野 有紀子 (成蹊大)
	14:00-14:50	講演2「コミュニケーションエージェントによるメッセージ理解とモバイル情報提供」 奥村 明俊 (NEC)
	15:00-15:50	講演3「対話的情報探索支援のための統合分類体系の構築」 清田 陽司 (東大)
	15:50-16:40	講演4「対話でユーザの希望を引き出して検索する『ラダリング型検索サービス』」 村田 稔樹 (沖電気)
3 日	これでいいのか、ユビキタス－今後のユビキタスコンピューティングの研究を考える－	
	9:30-9:40	オープニング 中島 秀之 (はこだて未来大)
	9:40-10:00	講演1「ユビキタスコンピューティング研究の停滞とその将来」 佐藤 一郎 (国立情報学研)
	10:00-10:20	講演2「遊戯的生活環境とユビキタスコンピューティング」 武山 政直 (慶大)
	10:20-10:40	講演3「これからのユビキタスコンピューティング－本当のインパクトはこれからだ！－」 徳田 英幸 (慶大)
	10:40-11:00	講演4「脳に学ぶ遇有性の設計原理」 茂木 健一郎 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
	11:00-12:00	パネル討論「これでいいのか、ユビキタス－今後のユビキタスコンピューティングの研究を考える－」 司 会: 中島 秀之 (はこだて未来大) パネリスト: 佐藤 一郎 (国立情報学研), 武山 政直 (慶大), 徳田 英幸 (慶大), 茂木 健一郎 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
	FIT学術賞表彰式	
13:00-13:50	FIT2007 ヤングリサーチアワード 表彰 FIT2008 論文賞 表彰 FIT2008 船井ベストペーパー賞 表彰 FIT2008 船井業績賞 表彰	
(水)	船井業績賞受賞記念講演	
	14:00-15:15	ブレイン・ネットワーク・インタフェース (BNI) 技術の最前線 川人 光男 (ATR 脳情報研究所 所長)
	パネル討論：情報処理で社会を守る	
15:30-17:30	司 会: 土井 美和子 (東芝) パネリスト: 加藤 和彦 (筑波大), 小谷 誠剛 (Fujitsu Laboratories of America, Inc.), 佐々木 元 (NEC), 重木 昭信 (NTT データ), 三浦 一朗 (住友商事)	
4 日 (木)	コンピュータ囲碁最前線	
	9:30-10:40	講演1「ゲーム情報学の中のコンピュータ囲碁」 飯田 弘之 (北陸先端大)
	10:50-12:00	講演2「コンピュータ囲碁の現状」 村松 正和 (電通大)
	13:00-15:00	公開対局「CrazyStone VS 青葉かおり四段」 対 局 者: 青葉 かおり (日本棋院プロ棋士四段) 対局解説者: 王 銘エン (日本棋院プロ棋士九段) 聞 き 手: 村松 正和 (電通大)
	15:10-16:30	パネル討論「コンピュータ囲碁はいつトッププロに勝てるか?」 司 会: 伊藤 毅志 (電通大) パネリスト: 王 銘エン (日本棋院プロ棋士九段), 清 慎一 (富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ), 中村 貞吾 (九工大), 松原 仁 (はこだて未来大), 山下 宏 (囲碁プログラマー)

第2 イベント会場 (Ω棟 1F Ω 11 教室)		
日	時間	内 容
データサイエンスで活躍する列挙アルゴリズム-設計技法とその応用-		
2	9:30-10:05	講演1「部分グラフ列挙と頻出パターンマイニング」 宇野 毅明 (国立情報学研)
	10:05-10:40	講演2「大規模半構造データからの系列, 木, グラフのマイニング」 有村 博紀 (北大)
	10:40-10:50	意見交換
	10:50-11:25	講演3「列挙, 教え上げ, ランダム生成」 来嶋 秀治 (京大)
	11:25-12:00	講演4「列挙型アルゴリズムのバイオインフォマティクスへの応用」 阿久津 達也 (京大)
ボリュームデータをめぐる『医』と『工』のインタラクション		
日	13:00-13:10	イントロダクション 増谷 佳孝 (東大)
	13:10-13:40	講演1「3次元医用画像における薄面・細線構造の精密計測」 佐藤 嘉伸 (阪大)
	13:40-14:10	講演2「現物融合型エンジニアリングを支える形状処理技術」 道川 隆士 (東大)
	14:10-14:40	講演3「医用画像計測の実例」 濱口 ちさ (GE 横河メディカルシステム)
	14:40-15:10	講演4「工業用CT画像計測の実例」 定岡 紀行 (日立)
(水)	15:10-15:30	パネル討論「ボリュームデータをめぐる『医』と『工』のインタラクション」 司 会: 増谷 佳孝 (東大) パネリスト: 定岡 紀行 (日立), 佐藤 嘉伸 (阪大), 濱口 ちさ (GE 横河メディカルシステム), 道川 隆士 (東大)
パネル討論: 情報科学教育の未来		
3	9:30-12:00	パネリスト: 田邊 則彦 (慶應湘南藤沢中・高), 中村 修 (慶大) 上記ほか, パネリスト1名および大学生/高校生各2名参加予定
	情報・システム研究開発の今昔-若者の夢をどこまで膨らませる-	
日	15:30-15:45	題材発表1「ロボットカメラ協調撮影システムにおける撮影ショット決定手法」 奥田 誠 (NHK 技研)
	15:45-16:10	意見交換1
	16:10-16:25	題材発表2「動き領域の見えに基づく物体認識」 細井 利憲 (NEC)
	16:25-16:50	意見交換2
	16:50-17:05	題材発表3「唇および口内領域形状に基づくトラジェクトリ特徴量による読唇」 齊藤 剛史 (鳥取大)
(水)	17:05-17:30	意見交換3
パネル討論: コ・モビリティ社会の創生に向けて		
4	9:30-12:00	司 会: 植原 啓介 (慶大) パネリスト: 金子 郁容 (慶大), 川嶋 弘尚 (慶大), 清水 浩 (慶大), 村井 純 (慶大)
	パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト	
日	13:00-13:05	開会挨拶 馬場口登 (阪大)
	13:05-13:15	課題概要説明, 審査結果発表
	13:15-13:20	入賞者表彰
	13:20-14:50	入賞者によるアルゴリズム紹介
	15:00-15:50	講演「画像照合から始まる画像認識への道程」 佐藤 真一 (国立情報学研)

第3 イベント会場 (I棟 1F I 23 教室)		
日	時間	内 容
医療現場における異文化間コラボレーション		
2	9:30-9:40	講演1「医療現場における相互理解へのアプローチ-異文化理解から多文化共生へ-」 新垣 智子 (りんくう総合医療センター市立泉佐野病院)
	9:45-9:55	講演2「電話でつなぐ医療コミュニケーション-電話通訳にできること・できないこと-」 鈴木 亮子 (AMDА 国際医療情報センター)
	10:00-10:05	講演3「言語グリッドを利用した多言語医療支援システム」 重野 亜久里 (多文化共生センターきょうと)
	10:05-10:10	講演4「多言語医療受付支援システムの導入に関する試み」 吉野 孝 (和歌山大)
	10:15-10:25	講演5「地域医療のコミュニケーションと情報技術」 秋山 美紀 (慶大)
日	10:30-12:00	パネル討論「医療現場における異文化間コラボレーション」 司 会: 喜多 千草 (関西大) コメンテータ: 片桐 恭弘 (はこだて未来大) パネリスト: 秋山 美紀 (慶大), 重野 亜久里 (多文化共生センターきょうと), 新垣 智子 (りんくう総合医療センター市立泉佐野病院), 鈴木 亮子 (AMDА 国際医療情報センター), 吉野 孝 (和歌山大)
	サイバーワールドとリアルワールドとの接点-ロケーションサービスを中心として-	
	13:00-13:10	オープニング 成田 雅彦 (産業技術大)
	13:10-14:00	講演1「車社会の利便性向上と環境保全を実現する ITS」 竹内 久治 (三菱重工)
	14:00-14:50	講演2「携帯電話を利用した位置情報システム活用の可能性-情報大航海での実証実験を踏まえて-」 佐治 信之 (NEC)
(火)	15:00-15:50	講演3「ユビキタスマュージアム-位置情報システムの活用を含めて-」 池本 修悟 (慶大), 荒川 健介 (Earth Literacy Program)
日	15:50-16:20	パネル討論「サイバーワールドとリアルワールドとの接点-ロケーションサービスを中心として-」 司 会: 鈴木 純二 (三菱重工), 成田 雅彦 (産業技術大) パネリスト: 池本 修悟 (慶大), 佐治 信之 (NEC), 竹内 久治 (三菱重工)

第3 イベント会場 (I棟 1F I 23 教室)		
日	時間	内容
3 日	エンターテインメント産業におけるモーションキャプチャ技術の将来展望	
	9:30-9:35	講演者紹介 栗山 繁 (豊橋技科大)
	9:35-9:50	講演1「プリビジュアライゼーションにおけるモーションキャプチャ技術の活用」 福本 隆司 (リンクス・デジワークス)
	9:50-10:05	講演2「モーションキャプチャと舞踊動作、ロボットによる表現」 中澤 篤志 (阪大)
	10:05-10:20	講演3「モーションキャプチャ・データライブラリーの構築」 荒木 シゲル (アクトバート)
	10:20-10:35	講演4「ロボット視覚としてのモーションキャプチャ」 山根 克 (東大)
	10:35-10:50	講演5「劇団とモーションキャプチャで早10年」 海賀 孝明 (わらび座)
日	10:50-11:05	講演6「モーションキャプチャを用いたアニメ制作プロセスの効率化プロジェクト」 森島 繁生 (早大)
	11:05-12:00	パネル討論「モーションキャプチャ技術の今後と新エンターテインメントの展望」 司 会: 栗山 繁 (豊橋技科大) パネリスト: 荒木 シゲル (アクトバート), 海賀 孝明 (わらび座), 中澤 篤志 (阪大), 福本 隆司 (リンクス・デジワークス), 森島 繁生 (早大), 山根 克 (東大)
(水)	EIPの10年	
	15:30-16:00	基調講演「コンテンツ流通の足跡を見る10年」 安田 浩 (電機大)
	16:10-17:30	パネル討論「EIPの過去、現在そして未来」 司 会: 井出 明 (首都大) パネリスト: 亀山 渉 (早大), 岸上 順一 (NTT), 名和 小太郎 (情報セキュリティ大), 安田 浩 (電機大)
4 日	KIISE 会長招待講演: International Collaboration between KIISE and Japanese Organizations	
	10:30-12:00	Yanghee Choi (KIISE 会長)
	イノベータが語るオブジェクトの世界—いかに生まれ、浸透し、そしてどこに向かうのか?—	
	13:00-14:00	講演1「並列オブジェクト—その始まりと将来—」 米澤 明憲 (東大)
	14:00-14:20	講演2「オープンシステムとオブジェクト指向」 所 眞理雄 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
(木)	14:30-15:30	パネル討論「イノベータが語るオブジェクトの世界—いかに生まれ、浸透し、そしてどこに向かうのか?—」 司 会: 柴山 悦哉 (東大) パネリスト: 小野寺 民也 (日本IBM), 千葉 滋 (東工大), 所 眞理雄 (ソニーコンピュータサイエンス研究所), 米澤 明憲 (東大)

第4 イベント会場 (λ棟 1F λ 13 教室)			
日	時間	内容	
2 日	FIT2008 論文賞セッション		
	13:00-13:30	講演1「3DCGによる浮世絵構図への変換法」 久保 友香 (東大)	
	13:30-14:00	講演2「クリックスルーに基づく探検型検索サイトの設計と開発」 酒井 哲也 (ニューズウォッチ)	
	14:00-14:30	講演3「ブロック歪みを考慮した時空間コントラスト感度特性に基づくH.264/AVC符号化器設計」 坂東 幸浩 (NTT)	
	日	14:30-15:00	講演4「ソフトウェア不正コピー対策のためのLANアクセス制御システム」 山本 賢 (岡山大)
		15:00-15:30	講演5「LiNeSにおける仮想ネットワーク間接続機能の開発と実用可能性の検討」 立岩 佑一郎 (名大)
(火)	15:30-16:00	講演6「A Counting-Based Approximation of the Distribution Function of the Longest Path Length in Directed Acyclic Graphs」 安藤 映 (九大)	
4 日	ユビキタス Web—これからのWebのために必要な技術は何か—		
	13:00-13:30	講演1「W3Cにおけるマルチモーダル対話処理の標準化」 芦村 和幸 (W3C/慶大)	
	13:30-14:00	講演2「Webにおけるビデオコンテンツの利用」 Felix Sasaki (W3C/慶大)	
	14:00-14:30	講演3「Webアプリケーションにおける地理位置情報の活用」 Michael Smith (W3C/慶大)	
	日	14:30-15:00	講演4「わが国におけるマルチモーダル対話記述標準化—現状と将来への期待—」 荒木 雅弘 (京都工繊大)
15:20-16:20		パネル討論「ユビキタス Web 実現にあたっての課題」 司 会: 芦村 和幸 (W3C/慶大) パネリスト: 荒木 雅弘 (京都工繊大), 桂田 浩一 (豊橋技科大), 西本 卓也 (東大), Felix Sasaki (W3C/慶大), Michael Smith (W3C/慶大)	

イベント企画 講演概要

船井業績賞受賞記念講演：ブレイン・ネットワーク・インタフェース (BNI) 技術の最前線

9月3日(水) 14:00-15:15 [第1イベント会場 (θ館1F 大講義室)]

【講演概要】

脳の機能を解き明かし、情報通信に役立てるためには、脳の中に情報がどのように表現され、処理されているのかを調べなくてはならない。しかし、これは生物学がこれまで得意としてきた物質や場所に関する研究に比べて格段に難しくなる。このような困難を克服するために、脳を創ることによって脳を理解する研究を続けてきた。その結果、ヒトの脳を傷つけずに、脳の外側から活動を記録し、必要な情報を抽出して、ロボットを動かすことができるようになった (BNI 技術)。この技術は、工学として革新的なだけでなく、脳内の情報を実時間で抽出し、解読し、計算理論の予測に基づいてこれに操作を加え、直接または間接に操作した情報を脳にフィードバックする新しい方法論も可能にする。

今回の講演では、急速に発展しつつある、BNI やサイボーグ技術と、それに基づく未来の情報通信に関して解説したい。



川人 光男 (ATR 脳情報研究所 所長)

1976年東京大学物理卒、1981年大阪大学博士課程修了、同年助手、1987年同講師、1988年(株)ATRに移る。2003年よりATR脳情報研究所所長、2004年ATRフェロー、電子情報通信学会フェロー、JST-ICORP「計算脳プロジェクト」研究総括兼任。1996～2001年JST-ERATO「川人学習動態脳プロジェクト」総括責任者兼任。2008年3月よりJST さきがけ「脳情報の解読と制御」領域研究総括兼任。計算論的神経科学の研究に従事。米澤賞、大阪科学賞、科学技術長官賞、塚原賞、志田林三郎賞、朝日賞などを受賞。著書に「脳の仕組み」、「脳の計算理論」等。HFSP (Human Frontier Science Program) Journal 編集委員、日本神経科学会理事。

慶應義塾創立150年記念講演：情報 "実学" 実践の場としてのSFC

9月2日(火) 9:30-12:00 [第1イベント会場 (θ館1F 大講義室)]

【企画概要】

SFC Open Research Forum 2007で、我々は次のようなメッセージを送った。「未来創造、すなわち、未来を構想しその実現に向けて新しい実践を生み出すこと。それが、開設以来揺るぐことのない、慶應義塾湘南藤沢キャンパス (SFC) の使命である。未来を創造するチカラとは、『並大抵でない』スケールや価値観、『見えないものを見えるようにする』技術と技法、そして『何が起きて動く』地に足のついた行動力である」と、まさに実学の実践である。これら未来創造力は、SFCの教育理念ともなっており、それらのチカラに裏付けを与えるものとして、情報科学は欠くことのできないものである。そのSFCもまもなく開設20年を迎えようとしている。本フォーラムを湘南藤沢キャンパスで開催するこの機会に、環境情報学部設立にご尽力された相磯秀夫氏 (初代環境情報学部長) をお招きし、「慶應義塾創立150年記念イベント」の一環として、慶應義塾関係者、SFC関係者をまじえ、実学実践の場としての湘南藤沢キャンパス (特に環境情報学部) 設立の意義、キャンパス開校から約20年を経た現状の評価、さらには、これからの情報科学の在り方などについて幅広いテーマでご講演いただく。

【講演概要】

学術の急速な進歩ならびに社会の急激な変革は、大学の教育・研究のあり方にも大きな影響を与えている。中でも将来の高度情報社会における学術・産業・社会・生活のあらゆる基盤を支える情報科学系学問分野には抜本的なパラダイム・シフトが求められている。この場合のパラダイム・シフトは大学の改革と同義語であり、情報科学系以外の学問分野にも多くの共通点をもっている。慶應義塾大学では、1980年代半ばから新しい実践的な学問の創設を目指して、(1) 学術の進歩、(2) 産業・社会との関連、(3) 教育の本質、(4) 大学の体質改善、(5) 社会環境の変化、(6) 大学運営の刷新、(7) 大学の未来像策定などの視点から、その実現に挑戦してきた。慶大SFCはその成果を世に示したものである。ここでは、その概要を伝えると同時に、将来検討すべき課題について概観する。沈滞さみの情報科学系学問分野の活性化に役立つことを願っている。



講演：相磯 秀夫 (東京工科大学 理事 (前学長) / 慶應義塾大学 名誉教授)

1932年生まれ。1957年慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了。同年大阪大学工学部助手、同年通産省電気試験所技官。1960年イリノイ大学計算機研究所研究助手。1971年慶應義塾大学工学部教授。1983年ケンブリッジ大学計算機研究所訪問教授。1990年慶應義塾大学環境情報学部学部長。1994年同大学大学院政策・メディア研究科委員長。1999年東京工科大学メディア学部学部長、同年同大学学長。2008年同大学理事。1968年工学博士 (慶應義塾大学)。1992年情報処理学会副会長。



司 会：高汐 一紀 (慶大)

1967年生まれ。1995年慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程単位取得退学。電気通信大学電気通信学部情報工学科助手を経て、現在、慶應義塾大学環境情報学部准教授。主に、分散実時間システム、小型デバイス向けモバイルアプリケーション、ユビキタスコンピューティングの研究に従事。情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、ACM、IEEE 各会員、博士 (工学)。

情報爆発時代の自然言語処理の新展開－大規模ウェブリソースは対話を賢くするか？－ 9月2日(火) 13:00-17:30 [第1イベント会場(θ館1F 大講義室)]

【企画概要】

コーパスからの知識獲得はこれまでも行われてきたが、現在、さらに大規模なデータを対象として真に必要な情報の取得を目指す研究を行っている科研費特定領域研究、「情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究」がある。

この科研費の元で進められている研究から、大規模な知識、情報を利用、獲得するための研究を研究代表者の方々から紹介いただき、研究パラダイム、得られる結果の可能性について考察する。

そして知識を利用する応用側からの、知識の規模や質に対するニーズ、得られた知識を用いたアプリケーションのブレイクスルーを含めた未来像について議論する。



司 会：二宮 崇 (東大)

1996年3月東京大学理学部情報科学科卒。1998年3月同大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。2001年3月同大学院博士課程修了。2001年3月理学博士(東京大学)。その間1999年2月～2000年1月にドイツDFKIで客員研究員、1998年4月～2001年3月に日本学術振興会特別研究員(DC1)。2001年4月～2006年3月科学技術振興機構CREST研究員。2006年4月に東京大学情報基盤センター講師となり、現在に至る。



司 会：村上 浩司 (奈良先端大)

1973年生。2003年北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻博士課程単位取得退学。同年ニューヨーク大学コンピュータ科学科アシスタントリサーチサイエンティスト。2006年東京工業大学統合研究院イノベーションシステム研究センター特任助教。2008年より奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科特任助教。博士(工学)。自然言語処理における意味処理の研究に従事。

● [13:00-13:10] オープニング

村上 浩司 (奈良先端大)

写真および略歴は「情報爆発時代の自然言語処理の新展開－大規模ウェブリソースは対話を賢くするか？－」司会紹介を参照。

● [13:10-14:00] 講演1「行動データに基づくインタラクティブシステムのデザイン」

【講演概要】

人は言語行動に加え、ジェスチャ、視線、表情等の様々な非言語行動を通して意思疎通を図っているが、人間のように非言語情報を認識・解釈できるインタラクティブシステムは未だ実現していない。しかし、センシング技術や認識技術のめざましい発展により、人間の身体運動を精密に計測できるようになってきており、計測された膨大な行動データをユーザ対システムのコミュニケーションに有用な情報へと変形し、利用する技術は、情報爆発時代のコミュニケーション技術として重要である。本講演では、「ユーザの様子に気づく」会話エージェントに焦点をあて、会話時のユーザの身体運動データを解釈し、システムの動作決定に利用する方法を紹介するとともに、インタラクティブシステムにおける非言語情報の重要性と有用性について議論する。



中野 有紀子 (成蹊大)

1990年東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。同年、日本電信電話株式会社入社。2002年MIT Media Arts & Sciences 修士課程修了。2002-2005年科学技術振興機構社会技術研究開発センター専門研究員。2005-2008年東京農工大学大学院工学府特任准教授。2008年4月より成蹊大学理工学部情報科学科准教授。知的ユーザインタフェース、会話エージェントの研究に従事。博士(情報理工学)。

● [14:00-14:50] 講演2「コミュニケーションエージェントによるメッセージ理解とモバイル情報提供」

【講演概要】

本発表では、要求内容の明確化と要求を充足する簡便な手段を統合的に提供するコミュニケーションエージェントについて説明する。コミュニケーションエージェントの実現に向けた取組みとして、相手にメッセージを理解させたいという要求充足をターゲットとしてリアルな対話型コミュニケーションロボットPaPeRo上に実現したリッチメディアメッセージクリエーションシステムについて述べる。そして、PaPeRoをバーチャル化してモビリティを向上し、リアルロボットからカーナビや携帯端末など端末間を移動しながら利用者の履歴情報を蓄積し、利用者に対話しながら情報推薦を行うモバイル情報エージェントについて説明する。



奥村 明俊 (NEC)

1986年、京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同年、NEC入社。

機械翻訳や情報抽出など自然言語処理、音声翻訳、ロボットエージェントの研究開発に従事。現在、共通基盤ソフトウェア研究所にてメディアプロセッシング、情報センシング、音声言語、情報セマンティクスの研究グループを統括、工学博士。

● [15:00-15:50] 講演3「対話的情報探索支援のための統合分類体系の構築」

[講演概要]

Web検索サービスの普及に伴い、一般の人々にとって情報検索は身近な存在となったが、情報検索の効率は利用者が持っているノウハウによって大きく左右される。必要なノウハウを獲得するには、Webや図書館に存在する多様な情報資源へインタラクティブにアクセスすることが有効である。本講演では、図書館情報資源とWeb情報資源との中間的な性質を持つ「Wikipedia」を活用し、Wikipediaと図書館分類体系を統合的に活用する手法について論じる。また、本手法を応用し、さまざまなキーワードから図書館の有用な情報資料に誘導する情報探索支援ツール「Littel Navigator」を紹介し、図書館の現場での利用状況などについて報告する。



清田 陽司 (東大)

1998年京都大学工学部電気工学第二学科卒。2004年同大学院情報学研究科知能情報学専攻博士後期課程修了。

JST さきがけポスドク研究員などを経て、2004年より東京大学情報基盤センター助手(助教)、現在に至る。自然言語処理技術を応用した実用システムとして、ダイアログナビ(マイクロソフト(株)との共同研究)、図書館レファレンス業務支援ツールなどを開発。図書館の現場への支援ツールの普及を目的として(株)リッテルの設立に参画し、サービス開発に関するアドバイスをを行っている。

● [15:50-16:40] 講演4「対話でユーザの希望を引き出して検索する『ラダリング型検索サービス』」

[講演概要]

平成19年度情報大航海プロジェクトに採択されたラダリング型検索サービスは、システムがユーザに質問を投げかけることで、ユーザが単独では表現できなかった、求めるサービスやコンテンツに関する情報を引き出し、多種多様でかつ大量のサービスやコンテンツの中からそれとマッチするものを探し出す次世代型検索サービスである。最初はあいまいとしたイメージしかなかったとしても、システムとの対話の中で徐々に刺激を受けて、明らかにしていくことができる。

昨年度、検索対象のドメインとして人材分野を選び、転職希望者に対して求人情報を紹介するシステムを構築し、約1000人に対して実証実験を行ったので、その成果と課題を述べる。



村田 稔樹 (沖電気)

1991年大阪府立大学大学院修了。同年沖電気工業株式会社入社。同社研究開発本部関西総合研究所にて機械翻訳システムの研究開発に従事。1995年世界初のWeb翻訳システム「PENSEE for Internet」を考案、開発。

2004年コミュニティ機械翻訳サイト「訳してねっと」を公開。2007年経済産業省平成19年度情報大航海プロジェクトにおける「ラダリング型検索サービス」のプロジェクトマネージャに従事。

● [16:40-17:30] 講演5「Web質問応答システム：自然言語による答の検索」

[講演概要]

質問応答とは、利用者が入力した自然言語による質問文に対し、情報源となる文書群からその答となる部分を見つけ出す技術である。検索要求に適合する文書を見つけ出す情報検索とは異なり、質問文に現われる「誰」、「なぜ」等の表現で示される回答の種類を考慮した上で、必要十分な文書部分を回答候補として抽出して利用者に提示する点に特長がある。利用者は質問文により自然な形で情報要求を記述できるので、情報爆発時代における人に優しい情報アクセス手法として期待されている。

本講演では、質問応答システムに関して、概説を行なうとともに、Web上に存在する膨大な量の文書情報を対象として我々が行なっている研究事例を紹介し、情報爆発時代における質問応答システムの役割について論じる。



森 辰則 (横浜国大)

1991年横浜国立大学大学院工学研究科博士課程後期修了。工学博士。同年、同大学工学部助手着任。同講師、同助教を経て、現在、同大学大学院環境情報研究院教授。この間、1998年2月より11月までStanford大学CSLI客員研究員。自然言語処理、情報検索、情報抽出などの研究に従事。言語処理学会、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、ACM各会員。

これでいいのか、ユビキタス—今後のユビキタスコンピューティングの研究を考える— 9月3日(水) 9:30-12:00 [第1イベント会場(θ館1F 大講義室)]

[企画概要]

Mark Weiser がユビキタスコンピューティングの概念を提唱してから、およそ20年が経過した。その間に機器、部品の高機能化と小型低消費電力化、無線通信技術の進歩などにより、その概念が現実のものとなりつつある。しかし、その一方で、ユビキタスコンピューティング発祥の米国では、ここ数年で急激に関心が低下してきており、現在活発に研究活動が行われているのは、欧州、日本、韓国という状況である。このような背景を踏まえ、現在のユビキタス研究における課題と、今後のユビキタス研究社会はどうあるべきかについて、情報分野以外の分野の専門家も交えて幅広い視点で討論する。



司 会：戸辺 義人 (電機大)

1986年東京大学大学院修士修了。2000年慶應義塾大学博士(政策・メディア)。

現在、東京電機大学未来科学部情報メディア学科教授。実世界指向センサネットワークの研究に従事。

● [9:30-9:40] オープニング



中島 秀之 (はこだて未来大)

1983年、東大情報工学専門課程修了(工学博士)。同年、電総研入所。2001年より産総研サイバーアシスト研究センター長。2004年より公立はこだて未来大学学長。産総研サービス工学研究センター研究顧問。認知科学会元会長、ソフトウェア科学会元理事、人工知能学会元理事、情報処理学会フェロー、同元副会長。マルチエージェントシステム国際財団元理事。日本工学アカデミー会員、電子情報通信学会会員、日本学術会議連携会員。

主要編著書：知能の謎(講談社ブルーバックス)、AI事典第2版(共立出版)、知的エージェントのための集合と論理(共立出版)、思考(岩波講座認知科学8)、Prolog(産業図書)。

● [9:40-10:00] 講演1「ユビキタスコンピューティング研究の停滞とその将来」

[講演概要]

ユビキタスコンピューティングの概念が提唱されてから15年以上が経過し、これまでに国内外でユビキタスコンピューティングに関する数多くの研究プロジェクトが行われた。

しかし、残念ながらユビキタスコンピューティングは実用化されているとは言い難いし、多くの研究プロジェクトは似たようなプロトタイプと簡易実験・評価を繰り返しており、まさにデジャブ状態にある。

この結果、10年前のユビキタスコンピューティングの研究と現在の研究を比べたときに大きな発展があるかという点と疑わしい。なぜユビキタスコンピューティングの研究が進歩しないのかを議論していく。



佐藤 一郎 (国立情報学研)

1991年慶應義塾大学理工学部電気工学科卒、1996年同大学院理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程修了。博士(工学)。現在、国立情報学研究所・アーキテクチャ科学研究系・教授。このほか科学技術振興事業団さきかけ研究21研究員、Rank Xerox 研究所客員研究員などに従事。

専門は分散システム及びユビキタスコンピューティング向けの中ドキュメント。

平成18年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 若手科学者賞他多数受賞。

● [10:00-10:20] 講演2「遊戯的生活環境とユビキタスコンピューティング」

[講演概要]

集合知やピアプロダクションと呼ばれるように、今日のインターネットの世界では、多数の人々の遊戯的かつ社交的な振舞いを通じて、様々な情報やコンテンツがつなぎ合わされ、書き換えられ、そこから新たな知識や価値が生み出されている。

今後は、ユビキタスコンピューティングの技術が物理的な生活環境と融合し、日常生活で利用される様々な物や空間が、それらと接する人々の遊び心や想像力を喚起し、また人々によって、物や空間に仕込まれた機能の書き換えや読み替えがなされるようになるのではないか。バーベシブゲームや代替現実ゲーミング等の事例を参考にして、そのような可塑的で遊戯性に満ちた生活環境や暮らしの姿を展望してみたい。



武山 政直 (慶大)

1988年慶應義塾大学経済学部卒業。1990年同大学院経済学研究科修士課程修了。1992年～1994年カリフォルニア大学大学院留学(Ph.D.取得)。1994年慶應義塾大学環境情報学部助手。1997年武蔵工業大学環境情報学部講師。1999年同助教授。2003年慶應義塾大学経済学部准教授。2008年同教授。

専門は都市生活者のメディア利用に関する調査分析とサービスのデザイン。

● [10:20-10:40] 講演3「これからのユビキタスコンピューティングー本当のインパクトはこれからだ!ー」

【講演概要】

我が国におけるユビキタスコンピューティングの研究開発は、着実な進歩を遂げている。従来のIT技術が人や組織のエンパワーメントを可能にしてきたのに加え、ユビキタス技術は、人間中心主義的な視点に立つて、モノや空間、都市や環境のエンパワーメントを加速する技術である。しかし、いくつかの課題が見えていることも事実である。本講演では、乗り越えるべき技術的課題と社会的課題について議論する。



徳田 英幸 (慶大)

1975年慶應義塾大学工学部卒。同大学院工学研究科修士。ウォータールー大学計算機科学科博士。米国カーネギーメロン大学計算機科学科研究准教授を経て、1990年慶應義塾大学環境情報学部にて勤務。慶應義塾常任理事を経て現職。主に、ユビキタスコンピューティングシステム、オペレーティングシステム、分散システムに関する研究に従事。現在、情報通信審議会委員、日本学術会議連携会員、情報処理学会理事などを務める。研究教育業績に関して Motorola Foundation Award、IBM Faculty Award、経済産業大臣賞、総務大臣賞などを受賞。

● [10:40-11:00] 講演4「脳に学ぶ遇有性の設計原理」

【講演概要】

インターネットなどの新しいメディアにおいて「遇有性」をどのように設計したらよいか、脳科学の知見に基づき検討する。



茂木 健一郎 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)

脳科学者。ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー。東京工業大学大学院連携教授(脳科学、認知科学)、東京芸術大学非常勤講師(美術解剖学)。その他、東京大学、大阪大学、早稲田大学、聖心女子大学などの非常勤講師もつとめる。1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現職。主な著書に「脳とクオリア」(日経サイエンス社)、「生きて死ぬ私」(徳間書店)、「心を生み出す脳のシステム」(NHK出版)、「意識とはなにかー<私>を生成する脳」(ちくま新書)、「脳内現象」(NHK出版)、「脳と仮想」(新潮社)、「脳と創造性」(PHP研究所)、「スルメを見てイカがわかるか!」(角川書店、養老孟司氏との共著)、「脳の中の小さな神々」(柏書房、歌田明宏氏との共著)、「『脳』整理法」(ちくま新書)、「クオリア降臨」(文藝春秋)、「脳の中の人生」(中央公論新社)、「プロセス・アイ」(徳間書店)、「ひらめき脳」(新潮社)、The Future of Learning (共著)、Understanding Representation (共著)がある。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」(感覚の持つ質感)をキーワードとして脳と心の関係を研究するとともに、文芸評論、美術評論にも取り組んでいる。「脳と仮想」で、第四回小林秀雄賞<<http://www.shinchosha.co.jp/kobayashisho>>を受賞。2006年1月より、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」<<http://www.nhk.or.jp/professional/>>キャスター。

● [11:00-12:00] パネル討論「これでいいのか、ユビキタスー今後のユビキタスコンピューティングの研究を考えるー」

【討論概要】

Mark Weiser がユビキタスコンピューティングの概念を提唱してから、およそ20年が経過した。その間に機器、部品の高機能化と小型低消費電力化、無線通信技術の進歩などにより、その概念が現実のものとなりつつある。しかし、その一方で、ユビキタスコンピューティング発祥の米国では、最近、関心が低下してきており、現在活発に研究活動が行われているのは、欧州、日本、韓国という状況である。このような背景を踏まえ、現在のユビキタスコンピューティングの研究を見つめ直し、今後のユビキタスコンピューティング研究・社会はどうあるべきか、情報分野以外の分野の専門家も交えて幅広い視点で討論する。

討論司会：中島 秀之 (はこだて未来大)

写真および略歴は「オープニング」を参照。

パネリスト：佐藤 一郎 (国立情報学研)

写真および略歴は「講演1：ユビキタスコンピューティング研究の停滞とその将来」を参照。

パネリスト：武山 政直 (慶大)

写真および略歴は「講演2：遊戯的生活環境とユビキタスコンピューティング」を参照。

パネリスト：徳田 英幸 (慶大)

写真および略歴は「講演3：これからのユビキタスコンピューティングー本当のインパクトはこれからだ!ー」を参照。

パネリスト：茂木 健一郎 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)

写真および略歴は「講演4：脳に学ぶ遇有性の設計原理」を参照。

FIT 学術賞表彰式

9月3日(水) 13:00-13:50 [第1 イベント会場 (θ館 1F 大講義室)]

- ・ FIT2007 ヤングリサーチャー賞 表彰
- ・ FIT2008 論文賞 表彰
- ・ FIT2008 船井ベストペーパー賞 表彰
- ・ FIT2008 船井業績賞 表彰

パネル討論：情報処理で社会を守る

9月3日(水) 15:30-17:30 [第1イベント会場(θ館1F 大講義室)]

【討論概要】

情報システムは社会インフラとして我々の生活を支えている。しかし、目に見えないため、その恩恵がなかなかわかりにくい。しかし、航空機、鉄道、通信の情報システムにおいて、ひとたび事故がおこると、その事故が与える影響の大きさは多大であり、やっとそのありがたみがわかる。ライフライン化した情報システムをさらに進化させていくために、研究者も技術者もユーザが抱える真のニーズを知ることが重要と考える。

本パネルを通じて、ユーザからの要望、開発の現状を共有化するための対話を促進したい。



討論司会：土井 美和子（東芝）

1979年東京大学工学系修士課程修了。同年（株）東芝入社。

WPやVR、道案内システムなどのヒューマンインタフェース研究開発に従事。博士（工学）。

2004.05年度情報処理学会理事。情報処理学会会誌編集委員会委員、日本学術会議、総務省、文部科学省などの委員や電子情報通信学会理事などを務める。全国発明表彰発明賞など受賞。



パネリスト：加藤 和彦（筑波大）

1985年筑波大学第三学群情報学類卒業。1989年東京大学大学院理学系研究科博士課程中退。1992年博士（理学・東京大学）。1989年東京大学理学部情報科学科助手、1993年筑波大学電子・情報工学系講師、1996年同助教授、2004年より筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻教授。

オペレーティングシステム、仮想計算環境、分散システム、セキュリティに興味を持つ。



パネリスト：小谷 誠剛（Fujitsu Laboratories of America, Inc.）

1980年東北大理・物理卒、1982年筑波大学院理工・修士了、富士通研入社。超伝導回路研究に従事、当時の半導体LSIより二桁高速で動作する8-bit Digital Signal Processorを開発、工学博士（名古屋大）。超高速LSI応用から発展して暗号、著作権保護、生体認証、Secure通信などを研究開発。TCG（Trusted Computing Group）仕様準拠の国際標準システム研究の過程で2005年経産省Projectを担当し2006年TCG理事に当選。富士通米国研でTrusted Infrastructureを研究。これを世界規模で確立し運用する事で、無辜の民が悪事の片棒を担がされる（DDoSの踏み台）こと無く、安心してInternetの利便性を享受できる世界平和の実現を熱望している。



パネリスト：佐々木 元（NEC）

1961年東京大学大学院数物系研究科修了、日本電気株式会社入社。88年取締役支配人、96年代表取締役副社長、99年代表取締役会長就任、現在に至る。

情報通信ネットワーク産業協会、電子情報技術産業協会、日本工学会、日本工学教育協会の会長を歴任し、内閣府総合科学技術会議科学技術システム改革専門調査会委員を務め、現在日本規格協会、九州半導体イノベーション協議会、ナノテクノロジービジネス推進協議会、情報処理学会の会長に就任。



パネリスト：重木 昭信（NTTデータ）

1973年日本電信電話公社に入社、データ通信機器の開発に従事。

1988年のNTTデータ通信株式会社分社以降、公共分野における大規模システム開発の責任者を歴任し、2001年株式会社エヌ・ティ・ティ・データ取締役、2005年同常務執行役員、2007年6月より現職。CISOとしてセキュリティ戦略を練るとともに、プロジェクト管理手法、開発プロセスの改善、システムの品質保証問題に取り組む。また、日本経団連高度情報通信人材育成部会長を務める。



パネリスト：三浦 一郎（住友商事）

1974年3月京都大学法学部卒。同年4月住友商事入社。

1984年3月米国住友商會社ヒューストン支店（ヒューストン駐在）。1987年1月米国住友商會社（ニューヨーク駐在）。1998年7月人事グループ人事第一部長。2004年4月執行役員人材・情報グループ長。2007年4月常務執行役員人材・情報グループ長。2008年4月常務執行役員内部監査部分掌、同コーポレート・コーディネーショングループ分掌補佐。

コンピュータ囲碁最前線

9月4日(木) 9:30-16:30 [第1イベント会場(θ館1F 大講義室)]

[企画概要]

チェス界では、1997年にDeepBlueが当時の世界チャンピオンカスパロフ氏に勝利し、近年将棋界では、コンピュータ将棋がプロ棋士に肉薄する実力になっている。一方、コンピュータ囲碁は、合法手の多さと終了手数の長さなどからチェス、将棋に比べはるかに探索範囲が広く、従来の手法ではなかなか強いプログラムが作れない状態が長く続いていた。しかし、近年モンテカルロ法を用いた新しい考え方のプログラムが出現し、急速な進歩を遂げている。

本企画では、コンピュータ囲碁の研究としての位置づけと現状に関して講演を行い、実際にコンピュータとプロ棋士による公開対局を行うことにより、急速に実力をつけてきたコンピュータ囲碁の実力を実感していただくと共に、パネル討論で囲碁プログラム界の将来について展望していく。



司 会：伊藤 毅志（電通大）

1994年、名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程修了。工学博士。1994年より電気通信大学電気通信学部情報工学科助手。2007年より同助教。

一貫して、人間の問題解決、学習過程に興味をもち、認知科学、人工知能の手法を用いて、学習支援、教育工学、ゲーム情報学の研究に従事。ここ数年は、将棋や囲碁を題材とした熟達者の思考に関する認知科学的研究を行っている。情報処理学会、電子情報通信学会、ICGA、日本認知科学会各会員。コンピュータ囲碁フォーラム理事、UEC杯コンピュータ囲碁大会実行委員長。

● [9:30-10:40] 講演1「ゲーム情報学の中のコンピュータ囲碁」

[講演概要]

チェスやチェッカーといった西洋の伝統的なゲームを舞台として、コンピュータと名人の闘いが繰り広げられてきた。チェスでは名人を打ち負かし、チェッカーでは理論値（引き分け）を解明するまでに至っている。現在、コンピュータ将棋は急ピッチで強くなり、名人に迫る勢いである。一方、コンピュータ囲碁ではモンテカルロ法に基づくゲームプログラミングの台頭により今後の急速な進展が期待される。本講演では、伝統的なゲームを舞台として繰り広げられてきたコンピュータと人間のこれまでの闘いを振り返り、囲碁を舞台とすることの意義を問いたい。コンピュータが名人に勝つことは、コンピュータサイエンスの進歩の貴重なマイルストーンとなるゆえ、チェッカー、チェス、将棋と次々に舞台を模様替えて、コンピュータと人間の闘いは延々と続いてきた。囲碁をもってその闘いも終焉を迎えようとしている。つまり、囲碁は最後の舞台になると筆者は認識する。



飯田 弘之（北陸先端大）

日本将棋連盟プロ棋士六段、静岡大学助教授、マーストリヒト大学客員教授、科学技術振興機構さきがけ研究員などを経て、2005年より北陸先端科学技術大学院大学教授。

名人を超えるコンピュータ将棋の開発に関心を持つ一方、スリル観を説明するゲーム洗練度の理論を提唱。当該分野関連の多数の国際会議プログラム委員長、国際ジャーナル編集委員、国際学会（ICGA）事務局長などを歴任。現在、ゲーム情報学研究会主査。

● [10:50-12:00] 講演2「コンピュータ囲碁の現状」

[講演概要]

コンピュータにとって囲碁は、探索範囲が広く、盤面評価も難しいので、チェスや将棋で培った技法があまりうまく働かず、長らく鬼門であった。ところが近年、今までは全く異なるアプローチによるブレイクスルーが生まれ、広まりつつある。それがモンテカルロ囲碁である。モンテカルロ囲碁では、確率的シミュレーション技法を用いることにより最善手を計算するが、その裏には精緻な理論と、大胆なヒューリスティクスがある。本講演では、コンピュータ囲碁に関する基本知識（従来手法を含む）を述べた後、モンテカルロ囲碁に関してその考え方、性質、現在の強さなどについて解説する。



村松 正和（電通大）

1994年総合研究大学院大学数物科学研究科博士課程統計科学専攻修了。博士（学術）取得。

1994年上智大学機械工学科管理工学講座助手。

2000年電気通信大学電気通信学部情報工学科講師。

2002年同助教、2008年同教授。

● [13:00-15:00] 公開対局「CrazyStone VS 青葉かおり四段」



対局者：青葉 かおり（日本棋院プロ棋士四段）

1978年7月11日生，愛知県出身。羽根泰正九段門下。1996年入段。日本棋院中部総本部に所属。1998年二段，1999年三段，2002年四段。早稲田大学卒業。2008年5月，日本棋院東京本院に移籍。2004年4月から2年間「NHK杯テレビ囲碁トーナメント」の聞き手を務める。2005年11月より，日本棋院携帯サイト「碁パイルセンター」で、『青葉かおりのfrom名古屋だぎゃ』を連載中。2008年4月より NHK 囲碁講座出演中。



対局解説者：王 銘エン（日本棋院プロ棋士九段）

1961年11月22日生，台湾・台北市出身。1975年11月来日，同年院生。1977年入段，1978年二段，1979年三段，1981年5月四段，同年12月五段，1984年六段，1986年七段，1988年八段，1992年九段。日本棋院東京本院所属。1993年棋聖戦九段戦優勝，ほか多数の棋戦で優勝歴あり，2000年～2001年第55期本因坊。2002年第50期王座獲得。2007年第2回大和証券杯ネット囲碁オープン優勝。著書に，「我間違えるゆえに我あり」（マイコミ），「読みの地平線」（マイコミ），「攻めの三原則」（NHK出版）など。

聞き手：村松 正和（電通大）

写真および略歴は「講演2：コンピュータ囲碁の現状」を参照。

● [15:10-16:30] パネル討論「コンピュータ囲碁はいつトッププロに勝てるか？」

【討論概要】

囲碁は，チェスや将棋などと同様の二人完全情報確定ゼロ和ゲームに分類されるが，その中でも圧倒的に合法手が多く，探索に基づくこれまでの手法では組み合わせ爆発を起こしてしまい，なかなか強いプログラムを作ることが困難であると言われてきた。実際，チェスや将棋に比べて強いプログラムの開発は大幅に遅れ，数年前まではアマチュア初段にもなかなか到達しないレベルであった。しかし，一昨年前に現れたモンテカルロ法に新しい改良を加えたプログラムの出現が一つの大きなブレイクスルーとなった。そして，この数年で，これまでの進歩とは桁違いの進歩を見せ，アマチュア有段者レベルのプログラムが数多く出現するようになってきている。本パネル討論では，討論の前に実施するプロ棋士とコンピュータ囲碁との対局を受けて，コンピュータ囲碁の現状と展望について概観し，人間のトップ棋士に追いつくために必要な技術について討論していく。

討論司会：伊藤 毅志（電通大）

写真および略歴は「コンピュータ囲碁最前線」司会紹介を参照。

パネリスト：王 銘エン（日本棋院プロ棋士九段）

写真および略歴は「公開対局：CrazyStone VS 青葉かおり四段」対局解説者紹介を参照。



パネリスト：清 慎一（富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ）

1986年日本大学文理学部応用数学科卒業。同年（株）富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ入社。1988～1993年（財）新世代コンピュータ技術開発機構出向。現在は情報セキュリティ業務に従事。開発した囲碁対局プログラム「勝也」は2007年第1回UEC杯コンピュータ囲碁大会にて準優勝。著書：「コンピュータ囲碁の入門」。



パネリスト：中村 貞吾（九工大）

1984年九州大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了。1987年九州大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程満期退学。同年九州大学工学部助手。自然言語処理研究に従事。1992年より九州工業大学情報工学部講師。自然言語処理，および，ゲームプログラミングに関する研究に従事。最近，組合せゲーム理論を用いた囲碁局面解析を行なう。

工学博士。情報処理学会，人工知能学会，電子情報通信学会，Computer Go Forum 各会員。



パネリスト：松原 仁（はこだて未来大）

1981年東大理学部情報科学科卒業。1986年同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。同年通産省工技院電子技術総合研究所（現産業技術総合研究所）入所。2000年から公立はこだて未来大学教授。現在に至る。ゲーム情報学，エンタテインメントコンピューティング，観光情報学などに携わる。

コンピュータ囲碁フォーラム副会長。



パネリスト：山下 宏 (囲碁プログラマー)

1995年3月東北大学工学部資源工学科卒。

1997年将棋プログラム YSS(市販名は AI 将棋)がコンピュータ将棋選手権で優勝。以下2004年, 2007年にも優勝。

2003年 Computer Olympiad 9路盤部門で囲碁プログラム彩が優勝。2004年岐阜チャレンジ (19路盤) で彩が準優勝。著書「コンピュータ将棋の進歩2」, 「コンピュータ将棋の進歩5」, 「コンピュータ囲碁の入門」。

コンピュータ囲碁フォーラム理事。

データサイエンスで活躍する列挙アルゴリズム—設計技法とその応用— 9月2日(火) 9:30-12:00 [第2イベント会場 (Ω棟 Ω11教室)]

[企画概要]

近年広まっているデータ解析の手法として、基礎的な手法の組合せにより高い精度の解を短時間で出すものが注目されている。特に列挙アルゴリズムは指定された条件を満たすものをすべて見つけるため、他の手法との相性が良く、パターンマイニングをはじめとする多くの問題で利用されている。しかし、アルゴリズム理論の研究対象として、列挙問題はさほど中心的な存在ではなく、基礎的な事柄でさえも広く知られていないのが実情である。本チュートリアルでは、データサイエンス、アルゴリズムの研究者およびデータ解析での利用を考えている方々を対象にして、列挙アルゴリズムの設計技法とその応用を解説する。



司 会：岡本 吉央 (東工大)

2005年3月スイス連邦工科大学チューリヒ校情報科学部大学院課程修了。Ph.D.

2005年4月豊橋技術科学大学情報工学系助手。2007年4月同助教。

2007年12月東京工業大学大学院情報理工学研究科特任准教授。現在に至る。

専門は離散数学、離散アルゴリズム、離散最適化。

● [9:30-10:05] 講演1「部分グラフ列挙と頻出パターンマイニング」

[講演概要]

近年データベースの巨大化と情報処理の多様化により、列挙手法を候補補の生成ツールとして利用するアプローチが増えている。問題を基礎的な部分と応用的な部分に切り分けることにより、効率的なシステム開発を容易にし、モデル化を含めた研究開発の見通しを良くしているのである。本講演では、実社会での事例があるものとして、部分グラフ列挙と頻出パターンマイニングを取り上げ、列挙手法の基礎から応用を簡単に紹介する。



宇野 毅明 (国立情報学研)

1970年生。1998年東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士課程修了。博士(理学)を取得。

同年東京工業大学経営工学専攻助手着任。2001年国立情報学研究所助教授に着任。2005年から2006年にかけて

スイス連邦工科大学客員研究員。現在情報・システム研究機構国立情報学研究所准教授。アルゴリズム理論とその応用研究に従事。特に、離散アルゴリズム、列挙アルゴリズム、データマイニング、組合せ最適化など。

日本オペレーションズリサーチ学会、情報処理学会、各会員。

● [10:05-10:40] 講演2「大規模半構造データからの系列、木、グラフのマイニング」

[講演概要]

1990年代以降の高速ネットワークと大規模記憶装置の急速な発展を背景として、蓄積された大量のデータから有用な規則性やパターンを見つけるための効率よい手法であるデータマイニングの研究が盛んになっている。データマイニング研究は、1994年のビジネスデータにおける結合規則発見の研究を契機として顕在化し、データベースや、数理統計学、機械学習の境界分野として発展してきた。2000年以降の大きな流れとして、ウェブや、ゲノム、ストリームに代表される半構造データと呼ばれる多様な大規模データに対する高速なアルゴリズムの研究が注目されている。本講演では、この半構造データマイニングの基本的手法と最先端技術を紹介する。特に、半構造データを系列、木、グラフ等の離散構造としてモデル化し、列挙の観点から、高速なアルゴリズムの実現方法を解説する。また、半構造マイニングの知識発見への応用についてふれる。



有村 博紀 (北大)

北海道大学大学院情報科学研究科教授。博士(理学)。1988年九州大学理学部物理学科卒。1990年九州大学大学院

総合理工学研究科修士課程修了。1990年九州工業大学助手、同助教、九州大学助教授等を経て、2004年より現職。

この間に1996年ヘルシンキ大学客員研究員。1999-2002年JST さきがけ研究員。1996年リヨン大学第1客員研究員。

データマイニングと、情報検索、機械学習等の大規模データ処理アルゴリズムの研究に従事。ACM、情報処理学会、

人工知能学会各会員。2005年より文科省科研費特別推進研究「知識基盤形成のための大規模半構造データからの

超高速パターン発見」研究代表者(-2007)。2007年よりグローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」(-2011) 拠点リーダー。

● [10:40-10:50] 意見交換

● [10:50-11:25] 講演3「列挙，数え上げ，ランダム生成」

【講演概要】

近年の計算機パワーの増大により，様々な分野において以前には計算不可能であった大規模な問題が扱えるようになってきている。列挙算法もその例に漏れず，近年のアルゴリズムの高速化と相俟って，実用データを扱う汎用手法となりつつある。

列挙算法は，対象とする要素を目的に沿って吟味し，所望の要素を取りこぼすことなく見つける。反面，計算時間は出力サイズに敏感である。この問題を回避する一つの方法に乱択近似(randomized approximation)がある。すなわち，取りこぼしを許す代わりに，欲しい数だけの要素を確率的に抽出する手法である。特に，出力の分布を能動的に実現することで，所望の要素の取りこぼしの軽減が図れる。

マルコフ連鎖モンテカルロ(MCMC: Markov chain Monte Carlo)法は，数値積分，シミュレーションなどに用いられる強力な確率的計算法である。特に，所望の分布を比較的容易に実現できる利点がある。本講演ではMCMC法を中心に，列挙とランダム生成の関連，ランダム生成の難しさ，ランダム生成の技法とその応用について述べる。



来嶋 秀治 (京大)

2007年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。

同年より京都大学数理解析研究所助教。

● [11:25-12:00] 講演4「列挙型アルゴリズムのバイオインフォマティクスへの応用」

【講演概要】

バイオインフォマティクスは情報科学と生物学の境界領域であり，DNA配列をはじめとする生物情報データの情報解析手法の開発を目的の一つとしている。バイオインフォマティクスには計算困難(NP困難)な問題が多いが，個々の遺伝子やタンパク質のサイズは限られているため，分枝限定法などを用いて最適解を計算できる場合も少なくない。分枝限定法の高速化のためには解の候補を重複なしに効率良く列挙することが有用である。そのため，近年，バイオインフォマティクスの様々な問題に対し，列挙型のアルゴリズムが応用されつつある。本講演では，列挙型アルゴリズムのバイオインフォマティクスへの主要な応用例を紹介するとともに，演者らの取り組んでいる列挙型アルゴリズムに基づく特徴ベクトルからの化学構造推定手法などについて説明する。



阿久津 達也 (京大)

1984年東京大学工学部航空学科卒業。1989年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。同年通産省機械技術研究所入所。1994年群馬大学工学部情報工学科助教授。1996年東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター助教授を経て，2001年京都大学化学研究所バイオインフォマティクスセンター教授。

バイオインフォマティクスおよび離散アルゴリズムの研究に従事。情報処理学会，電子情報通信学会などの会員。

ボリュームデータをめぐる「医」と「工」のインタラクション

9月2日(火) 13:00-15:30 [第2イベント会場(Ω棟 Ω11教室)]

【企画概要】

医用画像に基づく診断支援。治療支援においては，X線CT，MRIなどの3次元画像，すなわちボリュームデータが従来より情報ソースの中核をなしてきた。一方，近年の工業用CT装置の普及に伴い，CAD/CAM/CAEなど，いわゆる生産技術の分野でのボリュームデータの利用が盛んとなってきており，医用画像分野とは異なるニーズに基づく処理技法の開発や研究が行われている。本シンポジウムは，医療支援，工業支援の双方の立場の講演者が，ボリュームデータの利用に関する討論を通して情報交換を行い，両技術の共通点や相違点の発見によって相互の発展を目指すものである。



司 会：増谷 佳孝 (東大)

1997年東大・院・工学系・精密修了/博士(工学)。1997～1998年独ハンブルグ大客員研究員。1998～2000年米シカゴ大常任研究員。2000～2001年東大・院・リサーチアソシエイト。2001～現在年東大病院放射線科講師。画像解析/グラフィクス/ビジョン技術の診断・治療への応用に従事。

電子情報通信学会，日本医用画像工学会，日本磁気共鳴医学会，IEEEなど会員。

● [13:00-13:10] イントロダクション

● [13:10-13:40] 講演 1 「3次元医用画像における薄面・細線構造の精密計測」

【講演概要】

CTやMRIなどの3次元医用画像から薄面構造（関節軟骨など）や細線構造（細血管など）の幅・径を計測する際の、撮像系解像度限界に起因する計測精度限界について議論する。さらに、撮像系点広がり関数および撮像対象モデルを含む画像生成過程をモデル化し、幅・径推定の問題を、画像生成過程の逆問題として定式化することにより精度限界を克服するための方法について議論する。



佐藤 嘉伸（阪大）

1982年大阪大学・基礎工学部・情報工学科卒業。1988年同・大学院博士課程修了。工学博士。1988年-1992年NTTヒューマンインタフェース研究所勤務。1992年大阪大学・医学部・機能画像診断学・助手。現在、大阪大学・大学院医学系研究科・画像解析学（旧機能画像診断学）・准教授、および、大学院情報科学研究科・コンピュータサイエンス専攻兼任准教授。この間、1996年-1997年米国ハーバード大学・医学部・Brigham and Women's 病院・Surgical Planning Laboratory 客員研究員。医用画像解析、手術支援システムの研究に従事。Medical Image Analysis 誌 Editorial Board Member。

● [13:40-14:10] 講演 2 「現物融合型エンジニアリングを支える形状処理技術」

【講演概要】

近年、現物の工業製品をX線CTスキャナで計測し、それをエンジニアリングに活用する「現物融合型エンジニアリング」が製造業界で盛んに行われている。ここで問題となるのは、測定データとCAD/CAM/CAEといったデジタルエンジニアリングをつなげる形状処理技術である。本講演では、このような現物融合型エンジニアリングを支える形状処理技術を研究成果を交えて紹介する。



道川 隆士（東大）

1999年慶應義塾大学環境情報学部卒業、2006年東京大学大学院精密機械工学専攻博士課程修了。博士（工学）。2006年理化学研究所VCADモデリングチーム研究員。同年東京大学先端科学技術研究センター助手。2007年同助教。デジタルエンジニアリングに関する研究に従事。

● [14:10-14:40] 講演 3 「医用画像計測の実例」

【講演概要】

現在医療現場において、画像処理ワークステーションは臨床依頼科にとって画像診断装置にて得られる高精細な情報をベネフィットあるものへと変換する重要な位置づけになっている。今回は実際にワークステーションを使用して、実践的処理の講演を行う予定である。



濱口 ちさ（GE 横河メディカルシステム）

2000年3月鈴鹿医療科学大学保健衛生学部卒業。2000年4月国立近畿中央病院放射線科入社。2002年4月国立大阪南病院放射線科転勤。2002年6月退職。2003年8月NY州立FIT大学のCertificateコース入学。2004年9月同卒業。2005年2月GE横河メディカルシステム株式会社。CT sales&Marketing部アプリケーションGr.に入社。2006年1月同部署 Marketing Gr.に異動し Advanatage Workstation の製品担当。現在にいたる。

● [14:40-15:10] 講演 4 「工業用 CT 画像計測の実例」

【講演概要】

工業製品の放射線を用いた非破壊検査では、自動車用エンジンブロックの鑄巣分析など、透過能力を必要とする被検体に対しては高エネルギー X 線 CT が必要となる。日立では高エネルギー X 線 CT 用の薄型半導体センサを開発し、エンジンブロックサイズの被検体に対して 10 秒 / 断面で撮像可能な高エネルギー X 線 CT 装置を開発した。また、得られる CT 画像からの高精度な内部欠陥分析手法、画像データから CAD データへの変換手法、等 CT 画像データをエンジニアリング活用する技術を開発している。本講演では、装置概要と各種の撮像事例および画像データ活用技術を紹介する。



定岡 紀行（日立）

1981年京都大学工学部化学工学科卒業、1983年同大学院工学研究科博士前期課程修了。1983年日立製作所エネルギー研究所入社。原子力/熱流動数値解析関連研究に従事。1999年以降、日立製作所電力・電機開発研究所にて高エネルギー産業用 X 線 CT 装置および画像データ分析活用技術の開発に従事。

● [15:10-15:30] パネル討論「ボリュームデータをめぐる『医』と『工』のインタラクション」

討論司会：増谷 佳孝（東大）

写真および略歴は「ボリュームデータをめぐる『医』と『工』のインタラクション」司会紹介を参照。

パネリスト：定岡 紀行（日立）

写真および略歴は「講演4：工業用CT画像計測の実例」を参照。

パネリスト：佐藤 嘉伸（阪大）

写真および略歴は「講演1：3次元医用画像における薄面・細線構造の精密計測」を参照。

パネリスト：濱口 ちさ（GE 横河メディカルシステム）

写真および略歴は「講演3：医用画像計測の実例」を参照。

パネリスト：道川 隆士（東大）

写真および略歴は「講演2：現物融合型エンジニアリングを支える形状処理技術」を参照。

パネル討論：情報科学教育の未来

9月3日（水）9:30-12:00 [第2イベント会場（Ω棟 Ω11教室）]

【討論概要】

高校生、大学生、高校教員、そして大学教員によるパネルディスカッションを実施し、今後の情報教育のあり方を考える。

1990年代に日本が「情報社会」と呼ばれる時代に入ってからだいぶ経つ。情報社会の進展にともない、情報社会で生きていくのに必要な知識（情報リテラシー）、そして情報社会を構築し支えるのに必要な知識（情報科学）を若者が身につける必要性が生じ、「情報教育」が注目されるようになった。本企画では、情報教育を受ける側の視点、担当する側の視点の双方から、今後の情報教育のあり方を考える。情報リテラシー、情報科学の楽しさ、重要性をお互いに交換することによって、一貫性があり、加速できる情報教育のあるべき姿を高校、大学を通して、議論する。



パネリスト：田邊 則彦（慶應湘南藤沢中・高）

慶應義塾湘南藤沢中・高等部教諭。1952年生まれ。1975年慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科心理学専攻卒業。1975年慶應義塾幼稚舎教諭、1992年慶應義塾湘南藤沢中・高等部教諭。2005年内閣府情報セキュリティ文化専門委員会委員。2006年メディア教育開発センターNEXTプロジェクト推進メンバー。NHK教育テレビ高校講座「情報A」講師。科学技術振興機構にて理科教材コンテンツの普及促進。

編著書「43人が語る『心理学と社会』」（ブレーン出版）、「新しい時代の学力づくり授業づくり」（明治図書出版）、「メディアとコミュニケーションの教育」（日本文教出版）、「デジタル時代の学びの創出」（同）、文部科学省検定教科書高等学校情報科用「情報A」「情報B」「情報C」編修・執筆「ICTE教育の実践と展望」（同）他。



パネリスト：中村 修（慶大）

現在、慶應義塾大学環境情報学部教授。1990年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了、工学博士。同年東京大学大型計算機センター助手。

1993年慶應義塾大学環境情報学部助手となり、専任講師、助教授を経て現職。

1987年よりWIDEプロジェクトに参加し、インターネットに関する研究に従事。

現在同プロジェクトボードメンバー。

上記ほか、パネリスト1名および大学生／高校生各2名参加予定

情報・システム研究開発の今昔—若者の夢をどこまで膨らませる— 9月3日(水) 15:30-17:30 [第2イベント会場 (Ω棟 Ω11教室)]

[企画概要]

最近の研究開発成果例を若手3名が発表し、フェロー団を中心として、テーマ設定・アプローチ・成果出し・評価・応用展開などについて、意見交換を活発に行う。若手研究者・技術者の学位取得や事業化・社会貢献への道を、経験豊かな(?)フェロー団が夢を膨らませながら導いていく。



司 会：白井 良明 (立命館大)

1969年東京大学大学院工学系機械工学専攻博士課程修了。工学博士。同年電子技術総合研究所入所。1988年大阪大学工学部教授。1996年～1999年東京大学大学院工学研究科教授併任。2002年～2007年情報学研究所客員教授。2006年立命館大情報理工学部教授。画像処理、知能ロボットなどの研究に従事。情報処理学会 CV 研究会主査、理事、電子情報通信学会 PRU 研究会委員長、ISS ソサイエティー長等を歴任。現在、学術会議連携会員、フェロー & マスターズ未来技術委員会副委員長。

● [15:30-15:45] 題材発表1「ロボットカメラ協調撮影システムにおける撮影ショット決定手法」

[講演概要]

新しい番組制作支援技術の1つとして、複数のロボットカメラを用いたテレビ番組制作システムの構築に取り組んでいる。本システムでは、番組の状況と撮影ショットの関係を記した撮影規則に従い、各ロボットカメラを自動制御するが、番組ごとに、出演者の人数やフリップが提示される位置など、演出スタイルは異なる。そのため、番組制作者は、毎回、撮影規則の再設定が必要となるが、準備時間が限られた中で、この作業を行うことは、非常に大きな負担となる。そこで、カメラマンの撮影手法を分析した結果に基づき、簡易な情報入力から撮影規則を自動生成するアルゴリズムを考案し、シミュレーション実験により、その有効性を確認した。さらに、番組の状況を自動検出する装置を開発し、これらを複数のロボットカメラとネットワーク接続したシステムをテレビスタジオに構築し、番組撮影実験を行って、本システムを評価した。



奥田 誠 (NHK 技研)

1998年、神戸大学工学部電気電子工学科卒業。2000年、同大学院自然科学研究科電気電子工学専攻博士前期課程修了。同年、NHKに入局。大阪放送局を経て、2003年より、放送技術研究所に所属。主に、テレビ番組を対象とした、自動撮影システムの研究に従事。電子情報通信学会、映像情報メディア学会各会員。

● [15:45-16:10] 意見交換 1

● [16:10-16:25] 題材発表2「動き領域の見えに基づく物体認識」

[講演概要]

本講演では、近年の研究開発成果例として、講演者自身がFIT2006 ヤングリーサーチャー賞を受賞した研究内容を再度紹介する。この事例では、映像から抽出された動物体の種類について、動き領域の見えに基づいて認識する手法を提案した。従来の見えに基づく認識手法では、縦横比に関わる形状変動や非物体領域が大きい場合における特徴量の正規化が困難であるため、本来の勾配角度を保存しながら正規化を行うタイプの特徴抽出法について述べた。さらに非物体領域の影響を抑えるための動き領域を利用した学習方式についても述べた。そして、評価実験を通して、提案手法の効果の調査結果を報告し、今後の課題を抽出した。



細井 利憲 (NEC)

1999年大阪大学基礎工学部機械工学科卒業。2001年同大学院基礎工学研究科システム人間系専攻修了。同年日本電気株式会社入社。同社研究所にて、顔検出・物体認識の研究開発等に従事。2007年FIT2006 ヤングリーサーチャー賞受賞。

● [16:25-16:50] 意見交換 2

● [16:50-17:05] 題材発表3 「唇および口内領域形状に基づくトラジェクトリ特徴量による読唇」

【講演概要】

視覚情報を利用した発話内容の認識、いわゆる読唇に関する研究は、1980年代後半より取り組まれている。音声認識では、周囲の雑音の影響により認識率の低下を招く問題がある。一方、視覚情報は雑音の影響を含まれず、高騒音下での認識が可能となる利点をもつ。しかし、読唇は音声認識に比べ報告率が少なく認識率が低い。この問題を解決するために、講演者らはフレーム毎に計測される特徴量の時間的変化を空間上にプロットし、軌道として表現するトラジェクトリ特徴量を提案した。さらに唇および口内領域形状に着目し、これまで提案されてきた手法に比べ高い認識率を得られることを、比較実験を通して確認した。本講演では、講演者がこれまで取り組んできた読唇に関して、単音認識および単語認識について紹介する。



齊藤 剛史 (鳥取大)

2004年豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。同年鳥取大学工学部助手。現在、鳥取大学大学院工学研究科助教。画像処理、認識に関する研究に従事。2001年電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞、2002年電気通信普及財団テレコムシステム技術学生賞受賞。

● [17:05-17:30] 意見交換3

パネル討論：コ・モビリティ社会の創生に向けて
9月4日(木) 9:30-12:00 [第2イベント会場 (Ω棟 Ω11教室)]

【討論概要】

慶應義塾大学では、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」を受託し、「コ・モビリティ社会の創生」プロジェクトを推進している。コ・モビリティ社会とは、子供からお年寄りまで、すべての人が自由に安全に移動でき、交流が容易で、暮らしやすく、創造的・文化的な社会である。小さな範囲に限定され、情報が不足している地域共同体に、最先端の情報システムによる支援とともに「移動」が加わった多重で新しいコミュニティモデルを提示し、さまざまな社会問題を改善するための、現実的な道筋を描くプロジェクトである。

今回のパネルでは、「移動」や「コミュニティ」といったコ・モビリティ社会の考え方に欠かせない分野から情報提供をいただき、情報通信分野がコ・モビリティ社会の創生をどう受け止め、どうすべきかを会場の人も含めて議論する。コ・モビリティ社会における情報通信の在り方を検討することは、近年急速に社会に浸透した情報通信技術と人間が、どのように共生していくかを検討することに他ならない。



討論司会：植原 啓介 (慶大)

慶應義塾大学環境情報学部准教授。1970年生まれ。1995年電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻(博士前期課程)修了。2000年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科(後期博士課程)単位取得退学。2003年慶應義塾大学より博士(政策・メディア)の学位を取得。インターネット移動体通信やユビキタスコンピューティングに興味を持ち、インターネット自動車プロジェクトなどを推進中。



パネリスト：金子 郁容 (慶大)

慶應義塾大学工学部卒業。スタンフォード大学Ph.D.(オペレーションズ・リサーチ)、ウィスコンシン大学計算機学科准教授、一橋大学教授。1994年より現職。



パネリスト：川嶋 弘尚 (慶大)

1973年慶應義塾大学大学院博士課程を修了。72年同大学助手を経て、92年より同理工学部教授。ITS(Intelligent Transport Systems)におけるヒューマンインターフェースの設計・評価、システム信頼性解析等の研究に従事。ITS標準化委員会委員長(ISO/TC204対応)。



パネリスト：清水 浩（慶大）

1947年生まれ。東北大学工学部博士課程修了。国立公害研究所地域計画研究室長、国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究官などを経て、現在、慶應義塾大学環境情報学部教授。環境問題の解析と対策技術の研究（主に電気自動車開発）に従事。国立環境研究所時代から28年間で8台の電気自動車開発に携わる。2004年には超高性能電気自動車「Elica（エリーカ）」の開発を実現した。
近著に『温暖化防止のために 一科学者からのアル・ゴア氏への提言』（ランダムハウス講談社）がある。



パネリスト：村井 純（慶大）

学校法人慶應義塾常任理事。現職：慶應義塾大学環境情報学部教授。1955年生まれ。1987年慶應義塾大学大学院工学研究科博士号取得。1984年東京工業大学総合情報処理センター助手、1987年東京大学大型計算機センター助手。1990年慶應義塾大学環境情報学部助教授を経て1997年より教授。
1984年JUNETを設立。1988年WIDEプロジェクトを設立し、今日までその代表として指導にあたる。社団法人情報処理学会フェロー、日本学会会議第20期会員、各省庁委員会の主査や委員などを多数務め、国際学会などでも活動する。2005年Internet SocietyよりJonathan B.Postel Service Award受賞、2007年第六回船井業績賞受賞。

パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト 9月4日（木）13:00-16:00 [第2イベント会場（Ω棟 Ω11教室）]

【企画概要】

本イベント企画では、「騎士(ナイト)を数えナイト～画像に含まれる特定物体の計数～」と題した第12回パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテストの入賞者の発表、表彰式、および受賞者自身によるアルゴリズム発表を行う。本コンテストは、パターン認識・メディア理解(PRMU)研究専門委員会が、当該研究分野における若手研究者の育成と研究会活動の活性化を目的として1997年度より、秋の大会併催事業としてを実施している。本事業は、若手研究者およびこれから研究者を目指す学生（主に、高専、学部・大学院生）を主たる対象に、具体的な課題を解決することの楽しさを通して研究の面白さを体験してもらおうことを目指している。募集にあたってはWeb（<http://alcon.imlab.jp/>）でサンプルプログラム・画像データを公開してアルゴリズムを実装したプログラムの提出を求め、このプログラムの処理結果や計算時間等を参考に、審査委員会でアルゴリズムの新規性や性能を審査し、優秀なプログラムを選定している。応募対象者が若手研究者や学生であることから、アルゴリズムの完璧さや実装の工夫よりも、若手研究者や学生ならではの素朴なアイデアを積極的に評価する方針を採っている。



司 会：岩村 雅一（大阪府大）

1998年東北大学工学部通信工学科卒業。2003年同大学院博士課程後期3年の課程修了。
同年、同助手。2004年大阪府立大学大学院工学研究科助手（現在、助教）。博士（工学）。
平成18年度電子情報通信学会論文賞、IAPR/ICDAR2007 The Best Paper Award 各受賞。
パターン認識、コンピュータビジョン、情報検索に関する研究に従事。

● [13:00-13:05] 開会挨拶



馬場口 登（阪大）

1979年大阪大学工学部通信工学科卒業。1981年同大学院前期課程修了。
1996年-1997年カリフォルニア大学サンディエゴ校文部省在外研究員。
現在、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授。
2007年より電子情報通信学会パターン認識・メディア理解専門委員会委員長。
映像メディア処理に関する研究に従事。PCM2006Best Paper Award、2006年ISS活動功労賞受賞。

● [13:05-13:15] 課題概要説明，審査結果発表

● [13:15-13:20] 入賞者表彰

● [13:20-14:50] 入賞者によるアルゴリズム紹介

● [15:00-15:50] 講演「画像照合から始まる画像認識への道程」

【講演概要】

画像照合は、画像解析におけるもっとも基本となる処理の一つである。本講演では、本年度のアルゴリズムコンテストの課題に対して必要であった画像照合に基づき、これをさらに一般化していくことにより、顔検出に代表される物体検出技術、顔識別や一般物体認識などの画像識別技術、さらには巨大な画像・映像データベースから有用な情報を発見するためのマイニング技術にまで発展可能であることを解説する。



佐藤 真一（国立情報学研）

1992年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程了。同年学術情報センター助手。1998年同助教授。2000年国立情報学研究所助教授、2004年同教授、現在に至る。

1995年から1997年まで、米国カーネギーメロン大学客員研究員として Informedia 映像デジタルライブラリの研究に従事。工博。画像理解、画像データベース、映像データベース等の研究に従事。電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE CS、ACM 各会員。

医療現場における異文化間コラボレーション

9月2日（火）9:30-12:00 [第3イベント会場（1棟 123教室）]

【企画概要】

医療現場では、医者と患者、医者と看護師、異分野間の専門医など、異なるバックグラウンドを持った者同士のコミュニケーションが複雑に起こっている。コミュニケーションの中で些細な誤解が生じると医者と患者間の信頼関係に影響を及ぼしたり、時には医療ミスといった致命的な結果を招きかねない。最近では外国人の患者も増え、背景知識の違いに加え、言語の違いも大きな問題として認識されている。電子カルテを初めとして医療現場への情報技術の導入は進んでいるが、コミュニケーション支援を目指した情報技術の応用は少ない。

本シンポジウムでは、医療現場を異文化コラボレーションの観点から捉え、情報技術を使ってどのように医療現場でのコミュニケーションを支援することができるかについて考える場としたい。医療現場において、いくつかの場面を想定し、それぞれの場面において、使えるIT技術や使えないIT技術とは何かについて議論する。



司 会：山下 直美（NTT）

1999年京都大学・情報工学。

2001年京都大学大学院情報学研究科数理工学専攻修士課程修了。

同年、日本電信電話（株）コミュニケーション科学基礎研究所入所。博士（情報学）。

遠隔協調作業支援の研究に従事。

● [9:30-9:40] 講演1「医療現場における相互理解へのアプローチー異文化理解から多文化共生へー」

【講演概要】

近年、日本社会における国際化の潮流はとどまることを知らず、在住及び渡航外国人の数に比例して医療現場での外国人受診者数も増加している。一人一人の医療を受ける患者の権利を尊重し、医療通訳活動を行っている。しかし医療現場におけるコミュニケーションツールとして、言語は大きい要素ではあるものの、医療者と患者間に存在する意思伝達手段は言葉以外のものが存在しうる。

その「非言語」要素が相互認識の一致に重要な要素であることを実感している。

医療提供者と外国人患者のラポール形成が出来ていないと、医療現場では重大な医療事故を起こす可能性がある。通訳事例を通して、医療通訳が伝えるべきもの、また自然に伝わってしまうものは何かを考えたい。



新垣 智子（りんくう総合医療センター市立泉佐野病院）

1993年大阪市立大学医学部付属看護専門学校卒業後、大阪市立大学医学部付属病院、大阪府立母子保健総合医療センターで看護師として従事。2001年3月～国際協力事業団（現国際協力機構：JICA）の青年海外協力隊プログラムで、メキシコオアハカ小児病院に派遣。帰国後、大阪外国語大学地域文化中南米文化専攻（専攻語：スペイン語）で、スペイン語を研鑽しつつ、スペイン語医療通訳を行う。現在、りんくう総合医療センター市立泉佐野病院で看護師兼スペイン語医療通訳に従事する傍ら、大阪大学大学院人間科学研究科にて在日外国人医療問題をテーマに学びを深めている。

● [9:45-9:55] 講演2「電話でつなぐ医療コミュニケーションー電話通訳にできること・できないことー」

【講演概要】

1991年のAMDA国際医療情報センター立ち上げ当初は、母国語で医療・保険・福祉について相談できる窓口としてスタートしたが、母国語で受診できる医療機関が限られていることから、電話通訳サービスもすることになった。従って当センターにとっては電話通訳と相談電話は活動の両輪というべきサービスである。相談電話を受けて医療機関を探し、合わせて派遣通訳を探したり、電話通訳での受診を受け入れてくれるよう医療機関にお願いする、という一連の流れの中で見えてくる様々な可能性と問題について整理してみたい。



鈴木 亮子 (AMDA国際医療情報センター)

1979年早稲田大学法学部卒業。
1993～97年ブラジル・リオデジャネイロ滞在。
1997年ポルトガル語通訳ガイド資格取得。
1998年より日本国際協力センターにてJICA技術研修の同行通訳として勤務。
2004年よりAMDA国際医療情報センター事務局勤務。

● [10:00-10:05] 講演3「言語グリッドを利用した多言語医療支援システム」

【講演概要】

多文化共生センターきょうとは在住外国人患者の支援活動を行っているNPO法人である。当センターは03年より年間1500件を超える医療通訳者の派遣を行っているが、多言語の対応、緊急・24時間対応など多様化する患者ニーズに対してサポートが難しい現状があった。そこで05年より言語グリッドプロジェクトに参加し、和歌山大学、情報通信研究機構と共に言語グリッドを活用した多言語医療支援システムを開発してきた。本会では、既に医療機関での設置運用を行っている多言語の医療受付支援システムM³(エムキューブ)と多言語医療用例収集システム(Tack Pad)のシステムについて現場・利用者の立場から紹介したい。



重野 亜久里 (多文化共生センターきょうと)

北海道札幌市生まれ。大学在籍中に中国雲南省へ留学。1999年より多文化共生センター・きょうとに勤務。中国系コミュニティを支援するプロジェクトマネージャーとして地域住民と共に、多文化共生の地域づくりに取り組む。2003年より医療機関へ通訳を派遣する「医療通訳派遣システムモデル事業」を担当。現在はセンターの保健医療事業全般のマネジメントを担当。2004年より同センターの事務局長に就任、2006年7月より「特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと」理事長に就任。

● [10:05-10:10] 講演4「多言語医療受付支援システムの導入に関する試み」

【講演概要】

現在、在日外国人数の増加に伴い、多言語によるコミュニケーションの機会が増加している。コミュニケーションを行う際、言語の違いは大きな障壁となる。一般に多言語の十分な習得は困難であり、言語の違いを克服するためには、機械翻訳のような支援技術が必要になる。しかし、医療分野のような生命に直接関係する業務では、十分な相互理解が得られなければ医療過誤に繋がるため、コミュニケーションに極めて高い正確性が求められる。

現在は、外国人が診療を受ける際、医療通訳者が同行することにより対応している。しかし、医療通訳者による対応にも限界があり、多言語間における正確なコミュニケーションを支援するシステムが必要とされている。しかし、このようなシステムは需要があるにもかかわらず、実用的なシステムは実現・導入には至っていない。

我々はこれまでに、多言語コミュニケーション支援のための多言語医療受付支援システムM³(エムキューブ)の開発を行ってきた。本研究においては、産学官民の連携により、公的な場である京都市立病院へのシステム導入に至った。

本講演では、医療機関への多言語対話支援システムM³(エムキューブ)の導入における問題点とその対応、および産学官民の連携による京都市立病院へのシステム導入について述べる。



吉野 孝 (和歌山大)

1992年鹿児島大学工学部電子工学科卒業。1994年同大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。1995年鹿児島大学工学部電気電子工学科助手。1998年同大学工学部生体工学科助手。2001年より和歌山大学システム工学部デザイン情報学科助手。2004年より同大学助教授(2007年より准教授に職名変更)。博士(情報科学)東北大学。2001年本会DICOMO2001シンポジウムにおいてベストプレゼンテーション賞、2003年本会大会奨励賞をそれぞれ受賞。2005年よりNICT言語グリッドプロジェクトに参加。異文化コラボレーション支援、モバイルグループウェア、遠隔授業支援システムに関する研究に従事。

● [10:15-10:25] 講演 5 「地域医療のコミュニケーションと情報技術」

[講演概要]

高齢化が進み慢性疾患中心へと疾病構造が変化中、在宅医療に代表されるように組織を越えた多職種が協働して患者のケアに取り組む重要性はますます大きくなっている。しかし、そもそも医療専門職は、それぞれが異なる専門的教育を受けており、各職域の専門的知識については共有されることはほとんどなく、このことが、実際の医療現場での役割の混乱やコミュニケーションの問題にもつながっているという点が指摘されてきた。こうした中、異なる医療専門職種が組織を超えて円滑なコミュニケーションと必要十分な情報共有を実現する手段として、情報技術を生かすことができるのだろうか? 「非同期・蓄積型」という特徴を持つメディアが、地域医療の現場の職種間のコミュニケーションに与える影響について、フィールドで検証した結果を報告する。



秋山 美紀 (慶大)

1991年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。

(株) 仙台放送報道局勤務を経て2001年ロンドン大学経済政治大学院にて修士号取得 (MSC. Media and Communication Regulation)。2006年慶應義塾大学にて博士号取得 (政策・メディア)。21世紀COE研究員、特別研究講師を経て2007年4月より現職。

著書「地域医療におけるコミュニケーションと情報技術」「地域医療を守れ」他。

● [10:30-12:00] パネル討論 「医療現場における異文化間コラボレーション」

[討論概要]

医療現場では、医者と患者、医者と看護師、異分野間の専門医など、異なるバックグラウンドを持った者同士のコミュニケーションが複雑に起こっている。コミュニケーションの中で些細な誤解が生じると医者と患者間の信頼関係に影響を及ぼしたり、時には医療ミスといった致命的な結果を招きかねない。最近では外国人の患者も増え、背景知識の違いに加え、言語の違いも大きな問題として認識されている。電子カルテを初めとして医療現場への情報技術の導入は進んでいるが、コミュニケーション支援を目指した情報技術の応用は少ない。本シンポジウムでは、医療現場を異文化コラボレーションの観点から捉え、情報技術を使ってどのように医療現場でのコミュニケーションを支援することができるかについて考える場としたい。医療現場において、いくつかの場面を想定し、それぞれの場面において、使えるIT技術や使えないIT技術とは何かについて議論する。



討論司会：喜多 千草 (関西大)

関西大学総合情報学部准教授。2002年京都大学大学院文学研究科現代文化学専攻博士後期課程修了(博士号取得)。2003年京都大学学術情報メディアセンター助手、2004年関西大学総合情報学部助教授。「インターネットの思想史」青土社2003で日経BP社BizTech図書賞受賞。IEEE Annals of the History of Computing 編集委員。1986年から1992年までNHK番組制作局ディレクター。現在は言語グリッドアソシエーションの「教育現場の多言語利用環境を支援する情報基盤技術の研究會」主査として、多言語ツールの開発プロジェクトを進行中。



コメンテータ：片桐 恭弘 (はこだて未来大)

1981年3月東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修了。工学博士。

NTT基礎研究所、ATRメディア情報科学研究所を経て現在公立はこだて未来大学教授。

自然言語処理、社会的インタフェース、対話インタラクションの認知科学の研究に従事。

日本認知科学会、日本人工知能学会、社会言語科学会、自然言語処理学会、情報処理学会、Cognitive Science Society、ACL、AAAI、IEEE各会員。

パネリスト：秋山 美紀 (慶大)

写真および略歴は「講演5：地域医療のコミュニケーションと情報技術」を参照。

パネリスト：重野 亜久里 (多文化共生センターきょうと)

写真および略歴は「講演3：言語グリッドを利用した多言語医療支援システム」を参照。

パネリスト：新垣 智子 (りんくう総合医療センター市立泉佐野病院)

写真および略歴は「講演1：医療現場における相互理解へのアプローチ-異文化理解から多文化共生へ-」を参照。

パネリスト：鈴木 亮子 (AMDA国際医療情報センター)

写真および略歴は「講演2：電話でつなく医療コミュニケーション-電話通訳にできること・できないこと-」を参照。

パネリスト：吉野 孝 (和歌山大)

写真および略歴は「講演4：多言語医療受付支援システムの導入に関する試み」を参照。

サイバーワールドとリアルワールドとの接点ーロケーションサービスを中心としてー 9月2日(火) 13:00-16:20 [第3 イベント会場 (1棟 123教室)]

【企画概要】

サイバーワールドとリアルワールドとの接点に技術開発とサービスビジネスが新興しつつある。特に、GPS 関連分野は技術開発と利用技術が進展し、携帯への GPS 組み込みによる急速な普及も予測されている。また、これに関連して地図サービス、CGM サービス、携帯を使った案内システム、無線 LAN を利用した位置情報取得など具体的な取り組みも活発化しており、Where2.0 というキーワードも登場している。

本企画では、サイバーワールドとリアルワールドとの接点で活躍中の方々に講演者に招き、海外を含めて位置情報システムの動向や活用例、活発化する携帯電話での位置情報も含めた携帯ビジネスと技術、ユビキタスマジューリアムとして位置情報システムの活用を含めた実企画、情報大航海での実証実験を踏まえて、携帯電話を利用した位置情報システムを用いたCGMやマーケティングへの活用の可能性等、ロケーションサービス等の活発化する技術や、ビジネスへの展開、成功の秘訣についてお話しいただき、今後のビジネスの方向・必要とされる技術・研究の方向について討論を行う。



司 会：成田 雅彦 (産業技術大)

1980年早稲田大学大学院数学科博士前期課程修了。同年、富士通株式会社入社。ソフトウェア事業本部にてミドルウェア製品の企画や、X consortium, OMG, JCP, OASIS, WS-I, eAC などの標準化に携った。2008年より産業技術大学院大学産業技術研究科専任教授。Web サービスやメッセージングの標準化・相互運用、電子取引・ロボットサービス等への適用に取り組んでいる。電子情報通信学会、精密機械学会の各会員。

● [13:00-13:10] オープニング

● [13:10-14:00] 講演 1 「車社会の利便性向上と環境保全を実現する ITS」

【講演概要】

車社会の利便性向上に伴い、環境負荷軽減は重要なテーマであり、ITSは車両自体の改良と並び、道路インフラの利用効率を計る上で大きな役割を担っている。当社は早くから道路課金システム (ERP) や自動料金支払いシステム (ETC) の開発を手掛け、路側システムや車載器を提供しており、渋滞解消や燃費向上などの効果を高めている。今後は交通流の適正化や制御、また公共交通機関との更なる連携化などを目指していくことで、環境に優しい持続可能な社会の実現に貢献していく。



竹内 久治 (三菱重工)

1986年東京農工大学電気工学科卒業、同年三菱重工業株式会社に入社。さまざまなプラント制御システムの設計開発業務を経て、現在はETC車載器などITS関連システムの開発に従事。

● [14:00-14:50] 講演 2「携帯電話を利用した位置情報システム活用の可能性ー情報大航海での実証実験を踏まえてー」

【講演概要】

経済産業省の2007年度情報大航海プロジェクトにおいて、NTTドコモ、NEC他により、1000人規模の被験者を集めて約3ヶ月間の実証実験を行った。

本実験は、日常生活のなかで、特別な機器を装備したり、特別な動作などを意識することなく、どのくらい意味のある行動ログが取得できるのか、あるいはそれらの情報をどのように活用できるのかを実証した一つの試みである。

本講演では、利用者が持つ携帯電話を利用して収集した、実空間における位置情報やWeb閲覧情報などからなる行動履歴に基づいた情報推薦の方式、位置情報等の極めてプライバシー性の高い情報を扱う上での情報保護のアプローチ、そして得られた行動ログから解析できることとその限界や課題について述べる。



佐治 信之 (NEC)

東京工業大学理工学研究科情報科学専攻修士課程修了。同年NEC入社。プログラミング言語処理系、コンポーネントウェア、CORBA、B2B/EC、モバイルサービス基盤、ビジネスグリッド等の開発に従事。1989年情報処理学会論文賞。DOPGでは各社のCORBA/Webサービス製品の相互接続実験を8年に亘り実施。現在、サービスプラットフォーム研究所研究統括マネージャ、情報処理学会会員。

● [15:00-15:50] 講演3「ユビキタスマュージアムー位置情報システムの活用を含めてー」

[講演概要]

2002年尾道市からスタートした携帯電話を活用した街歩き観光システム「ユビキタスマュージアム（どこでも博物館）」の企画コンセプト、システム概要、これまでの活動、最新状況を紹介します。企画コンセプトとして掲げる、「都市経験のブロードバンド化」「まちの記憶と経験のアーカイブ化」「暗黙知を編集するソーシャルウェア」に基づくシステムの説明を前半に行い、中盤で下諏訪、伊豆、丸の内などで展開してきたGPS対応のユビキタスマュージアムの変遷を紹介します。最後に、丸の内で開催する防災・防犯などでの応用的な活用やアプリやFlashなどを活用した地図表示システムとの連動、タッチパネルタイプのデバイスによる新たな地図ベースの情報環境提供システムの紹介を行う。



池本 修悟（慶大）

2001年慶應義塾大学総合政策学部卒，2003年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。
2003～2004年国際大学グローバルコミュニケーションセンターリサーチアソシエイト（担当：地域情報化）。
2004～2007年慶應義塾大学SFC研究所上席所員（訪問），2007年慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構専門員。NPO法人創造支援工房フェイス代表理事，有限会社うつつ代表取締役，Earth Literacy Program ユビキタスマュージアムディレクター。

共同発表：荒川 健介（Earth Literacy Program）

● [15:50-16:20] パネル討論「サイバーワールドとリアルワールドとの接点ーロケーションサービスを中心としてー」

[討論概要]

サイバーワールドとリアルワールドとの接点に技術開発とサービスビジネスが新興しつつある。特に、GPS関連分野は技術開発と利用技術が進展し、携帯へのGPS組み込みによる急速な普及も予測されている。また、これに関連して地図サービス、CGMサービス、携帯を使った案内システム、無線LANを利用した位置情報取得など具体的な取り組みも活発化しており、Where20というキーワードも登場している。本パネル討論では、サイバーワールドとリアルワールドとの接点で活躍中の方々をパネリストに招き、海外を含めて位置情報システムの動向や活用例、活発化する携帯電話での位置情報も含めた携帯ビジネスと技術、ユビキタスマュージアムとして位置情報システムの活用を含めた実企画、情報大航海での実証実験を踏まえて、携帯電話を利用した位置情報システムを用いたCGMやマーケティングへの活用の可能性等、ロケーションサービス等の活発化する技術や、ビジネスへの展開、成功の秘訣についてお話しいただき、今後のビジネスの方向・必要とされる技術・研究の方向について討論を行う。



討論司会：鈴木 純二（三菱重工）

三菱重工業 機械・鉄構事業本部主席技師。
1983年東京大学工学部船舶工学科卒，1985年同大学院工学系研究科船舶工学専門課程修士課程修了。
同年三菱重工業入社後，船舶・海洋の設計，工作を担当，2001年より人間型ロボットの開発・マーケティングを担当，2006年より東京医科歯科大学非常勤講師を兼任。
造船学会員，電子情報通信学会サイバーワールド研究会専門委員。

討論司会：成田 雅彦（産業技術大）

写真および略歴は「サイバーワールドとリアルワールドとの接点ーロケーションサービスを中心としてー」司会紹介を参照。

パネリスト：池本 修悟（慶大）

写真および略歴は「講演3：ユビキタスマュージアムー位置情報システムの活用を含めてー」を参照。

パネリスト：佐治 信之（NEC）

写真および略歴は「講演2：携帯電話を利用した位置情報システム活用の可能性ー情報大航海での実証実験を踏まえてー」を参照。

パネリスト：竹内 久治（三菱重工）

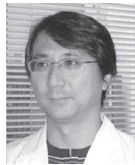
写真および略歴は「講演1：車社会の利便性向上と環境保全を実現するITS」を参照。

エンターテインメント産業におけるモーションキャプチャ技術の将来展望

9月3日(水) 9:30-12:00 [第3 イベント会場 (1棟 123教室)]

[企画概要]

CG映像の制作には不可欠となったモーションキャプチャ(以後, MoCap)技術は, ハードとソフトの両面において現在でも活発な開発競争が繰り返されている。しかし, 日本のエンターテインメント産業における利活用は緒に就いたばかりであり, 伝統的なアニメやゲームの制作現場においても世界的な競争力を維持するために高度な利用方法が模索されている。また, その応用範囲は伝統芸能のデジタル保存やロボットの制御, および身体科学にいたる幅広い分野に拡大しており, それらの分野を横断する技術を展開することにより新たなエンターテインメントの創出が期待できる。本企画では, MoCapに関する最先端の研究事例と映像制作やデジタルアーカイブ化に関する活動事例を, 大学と様々な業界から招いた6名の講演者により紹介する。さらに, アニメやゲームの制作現場が実際に抱える問題や要望の意見を交えて, 講演者と会場の参加者によってMoCapの将来技術をパネル討論する。また, 技術のさらなる進化によって創出する新たなアプリケーションやビジネスの展望等についても自由に議論を交わす。



司 会：栗山 繁 (豊橋技科大)

1987年大阪大学大学院工学研究科修了, 工学博士, 1988年日本IBM(株)東京基礎研究所, 1994年広島市立大学情報科学部助教授, 1998年豊橋技術科学大学情報工学科助教授, 2005年同教授, また現在, 産総研デジタルヒューマン研究センターチーム長と早稲田大学客員研究員を兼務。

主として, CGアニメーション, 画像のコード化技術等に関する研究に従事。

FIT2003 船井ベストペーパー賞等受賞。

● [9:30-9:35] 講演者紹介

● [9:35-9:50] 講演1「プリビジュアリゼーションにおけるモーションキャプチャ技術の活用」

[講演概要]

ここ約10年, エンターテインメント分野において, モーションキャプチャ技術は, 主にゲーム用のキャラクターアニメーションデータ作成のために用いられてきた。アニメーターの手作業に頼らず, リアルな人間の動きを効率的に取り込めることが最大の利点。3次元のポイントデータを解析するためのマーカーセットを除けば, 光学式のリアルタイム・モーションキャプチャはどこかビデオ撮影にも似ている。その手軽さが, 近年米国の映画制作におけるプリビジュアリゼーション(プリビズ)の現場で活用され始めた。つまり, 映像の設計段階でもモーションキャプチャ技術を有効利用しようということである。

本講演では, 弊社での取り組みを紹介しつつ, 今後の方向性について述べる。



福本 隆司 (リンクス・デジワークス)

1981年大阪芸術大学芸術学部映像計画学科卒, 1982年大阪大学工学部CGグループ(Links-1システム開発チーム)にてCG制作を始める。同年6月(株)トーヨーリンクス設立と同時に入社。CGディレクターとしてTVコマーシャル, 博展映像ははじめ多くのCG制作に携わる。1989年~1999年(株)ポリゴン・ビジュアルズ在籍中は, 恐竜やペンギンなどオリジナルCGキャラクターアニメーションの企画開発に携わる。2000年4月(株)リンクス・デジワークス設立に参加。2007年6月同社社長に就任。2000年度より大阪芸術大学芸術学部映像学科, 非常勤講師。

● [9:50-10:05] 講演2「モーションキャプチャと舞踊動作, ロボットによる表現」

[講演概要]

筆者らは2001年より, 文化遺産のデジタルアーカイブ技術の一環として無形文化財に着目し, モーションキャプチャによる無形文化財(舞踊動作)の保存, 解析, およびその利活用を行う研究に取り組んできた。モーションキャプチャは人間の動作を正確に把握することが可能であるが, それを解析する技術や表現する技術が行われなければ, デジタルアーカイブを積極的に活用することができない。まず解析する技術として, 舞踊動作における「止め」動作の検出によるセグメンテーションと, 動作の相関関係の導出による手法を提案した。次に, 舞踊と音楽の関係に着目し, 音楽のリズム(ビート)と, 動作の止め動作のタイミングの間に強い相関があることを明らかにした。

一方, 蓄積されたデータを表現する技術として, モーションキャプチャデータを人型ロボットに入力し再演させる試みを行った。ここでは, データから得られた関節角度をロボットに合うように変形し入力する必要があるが, 元の動作の特徴を保存しながら変形する手法を提案した。

近年では, 舞踊解析から得られた動きと音楽との関係性の知見を使って「音楽からそれに合った動作を生成する」手法を提案している。

このシステムでは, 音楽の信号を入力しリズム情報を得, それに合う動作を自動的に生成する。

これはちょうど, 音楽にあわせて自由に動作を生成するヒップホップダンサーのような能力を実現したものである。

その他本講演では, 筆者が米国で行った, ビデオ画像からの自由動作生成技術についても簡単に紹介する。



中澤 篤志 (阪大)

2001年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了, 博士(工学), 同年東京大学生産技術研究所研究員, 2003年より大阪大学サイバーメディアセンター講師, 2007年~2008年2月までジョージア工科大学GVU Center 客員研究員, 画像計測, 画像認識, 人体動作解析, コンピュータアニメーションの研究に従事。

● [10:05-10:20] 講演3「モーションキャプチャ・データライブラリーの構築」

[講演概要]

モーションキャプチャ技術の普及はアニメ, ゲーム製作の現場に革新をもたらした。しかし製作現場ではプロジェクト間でモーションデータが共有される事例はほとんどなく, データが"使い捨て"されているため, デジタルデータとしての特性が十分に発揮されていないのが現状である。アクトパート合同会社ではモーションキャプチャで収録した人の動きを, ループ処理などの編集を済ませ, 細かい動きのセグメントにしたモーションデータの素材集, "アクトパートモーションライブラリー(AML)"の開発を行っている。本講演では, エンターテインメント制作現場の現状と今後の可能性, アクトパートモーションライブラリー(AML)の使用例などについて述べる。



荒木 シゲル (アクトパート)

アクトパート合同会社代表, マイムアーティスト, 神奈川工科大学非常勤講師。1997年までイギリスに滞在し, パフォーマンス活動を行っていた。1998年に日本に帰国。CG, 映像クリエイターを対象に演技や演出のセミナーを開催, また(株)セガなどのゲーム開発部署で「スペースチャンネル5」「Rez」などの開発に関わる。2004年マイクロソフトゲームスタジオに勤務。「ロストオデッセイ」「ナインティナインナイツ」などの開発に関わる。06年にアクトパート合同会社を設立, 現在に至る。著作: DVD「荒木シゲルのアニメーションサイエンス」, 書籍「動くキャラクター作りの本」。

● [10:20-10:35] 講演4「ロボット視覚としてのモーションキャプチャ」

[講演概要]

高精度の運動データが大量に取得できるモーションキャプチャは, 近年ロボット知能の研究に欠かせないツールとなりつつある。モーションキャプチャを用いて行われている研究の例として, 模倣による運動学習, 人間の運動観察による動作認識と行動予測, 運動パターンの自律的セグメンテーションとシンボル化などがある。マーカレスに人間の運動を計測する試みも行われているが, 現状でロボットに搭載できる程度のハードウェアによる画像では人間の視覚と同等の空間認識能力を実現するのは困難であることから, モーションキャプチャはそれに代わるロボットの"眼"として使われていると言える。

本講演では, 上記のようなロボティクスにおけるモーションキャプチャの活用事例を紹介するとともに, 人間の運動を観察するためのロボット視覚としてのモーションキャプチャの将来像とそれに向けた試みについて述べる。



山根 克 (東大)

2002年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了, 博士(工学), カーネギーメロン大学研究員を経て, 2003年より東京大学情報理工学系研究科勤務, 現在准教授。2004年 IEEE Robotics and Automation Society の Early Academic Career Award, 2005年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞などを受賞。

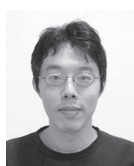
ヒューマノイドロボット, CGアニメーション, バイオメカニクスに関する研究に従事。

IEEE Robotics and Automation Society, ACM SIGGRAPH, 日本ロボット学会, 電子情報通信学会等の会員。

● [10:35-10:50] 講演5「劇団とモーションキャプチャで早10年」

[講演概要]

劇団わらび座は1951年に創立され, 民族芸能をベースに, 多彩な表現で現代の心を描く舞台を創り, 全国で公演を行っている。劇団では創立後まもなく, 日本各地の民族芸能の踊りや祭りを8mmフィルムなどで映像記録を始め, 芸能研究や舞台創作に活用してきている。一方, 十数年ほど前からモーションキャプチャ(MoCap)技術を使ったゲームや映画が出始め, この技術を使って踊りを記録し, 劇団として活用することができないだろうか考えた。そこで, 劇団のコンピュータ部門であるDigital Art Factoryでは, 劇団の本拠地の一角にMoCapスタジオを構築した。踊りを記譜する研究から始まり, 踊りの伝承教材の制作や舞台への活用など, 劇団ならではの試みを紹介する。



海賀 孝明 (わらび座)

1995年茨城大学大学院機械工学専攻博士前期課程了。

1996年株式会社わらび座入社。1997年よりモーションキャプチャによる民族芸能の記録保存および伝承に関する研究に従事。現在, 同社デジタルアートファクトリ, チーフエンジニア。

情報処理学会平成13年度山下記念研究賞受賞。

● [10:50-11:05] 講演6「モーションキャプチャを用いたアニメ制作プロセスの効率化プロジェクト」

【講演概要】

主としてリアル指向のモーションキャプチャ技術を日本のアニメ制作に応用する技術開発を行う研究プロジェクトの紹介である。リミテッドアニメーションの風合を持たせるため、キャプチャしたモーションデータに対してフィルタリングする技術 MoCaToon を利用したアニメ制作事例を紹介し、その表現能力について述べる。また、頭髪のモーションキャプチャ手法を提案し、従来のシミュレーションベースのアプローチとのハイブリッド構成によって、作者の感性を頭髪のモーションに反映させる手法について紹介する。



森島 繁生 (早大)

現職：早稲田大学理工学術院先進理工学部教授。

1959年生まれ。1987年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。

1988年成蹊大学工学部助教授。2001年同教授を経て、2004年より現職。

2004年よりデジタルアニメーションラボ代表。早稲田大学デジタルエンタテインメント研究所所長。

● [11:05-12:00] パネル討論「モーションキャプチャ技術の今後と新エンターテインメントの展望」

【討論概要】

CG映像の制作には不可欠となったモーションキャプチャ技術は、ハードとソフトの両面において現在でも活発な開発競争が繰り返されている。しかし、日本のエンターテインメント産業における利活用は緒に就いたばかりであり、伝統的なアニメやゲームの制作現場においても世界的な競争力を維持するために高度な利用方法が模索されている。また、その応用範囲は伝統芸能のデジタル保存やロボットの制御、および身体科学にいたる幅広い分野に拡大しており、それらの分野を横断する技術を展開することにより新たなエンターテインメントの創出が期待できる。本パネル討論では、モーションキャプチャに関する最先端の研究事例と映像制作やデジタルアーカイブ化に関する活動事例を紹介し、実際の制作現場が抱える問題や要望をふまえた今後の技術開発の方向性を討論する。また、技術のさらなる進化によって創出する新たなアプリケーションやビジネスの展望等についても自由に議論を交わす。

討論司会：栗山 繁 (豊橋技科大)

写真および略歴は「サイバーワールドとリアルワールドとの接点－ロケーションサービスを中心として－」司会紹介を参照。

パネリスト：荒木 シゲル (アクトバート)

写真および略歴は「講演3：モーションキャプチャ・データライブラリーの構築」を参照。

パネリスト：海賀 孝明 (わらび座)

写真および略歴は「講演5：劇団とモーションキャプチャで早10年」を参照。

パネリスト：中澤 篤志 (阪大)

写真および略歴は「講演2：モーションキャプチャと舞踊動作、ロボットによる表現」を参照。

パネリスト：福本 隆司 (リンクス・デジワークス)

写真および略歴は「講演1：プリビジュアライゼーションにおけるモーションキャプチャ技術の活用」を参照。

パネリスト：森島 繁生 (早大)

写真および略歴は「講演6：モーションキャプチャを用いたアニメ制作プロセスの効率化プロジェクト」を参照。

パネリスト：山根 克 (東大)

写真および略歴は「講演4：ロボット視覚としてのモーションキャプチャ」を参照。

EIPの10年

9月3日(水) 15:30-17:30 [第3 イベント会場 (1棟 123教室)]

【企画概要】

情報処理学会 電子化知的財産・社会基盤研究会 (EIP) の10年を振り返る。情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会 (略称 EIP) は設立されて10年の節目を迎えた。そこで、FITにおいてEIPの10年を振り返る特別セッションを行いたい。歴代4人の主査を招いたパネル討論をメインの企画としている。企画意図としては、この10年間の知的財産権の動向を概観するとともに、社会基盤としてのICTのあり方について理解を深めたい。さらに、電子社会の未来に向けての展望についても大いに議論し、研究会を通じて今後のICTの発展の方向性について提言を行うことも考えている。技術系が大部分を占める情報処理学会において、本研究会は人文・社会系の研究者も多く参加している。今後のFITの発展のために、理工系のみならず、人文・社会系の研究者が幅広く参加できる本企画の意義は、大変大きなものがあると言えよう。



司 会：井出 明 (首都大)

京都大学経済学部卒。同大学院修士課程法学研究科修了。京都大学博士 (情報学)。

九州東海大学専任講師、大阪経済法科大学助教授、近畿大学経済学部助教授などを経て、現在は首都大学東京大学院都市環境科学研究科准教授。専門は社会情報学。

EIPでは、2002年から運営委員、2004年から2期幹事を務める。

● [15:30-16:00] 基調講演「コンテンツ流通の足跡を見る10年」

【講演概要】

EIP研究会は、1998年5月28日(木)に第1回が開催され、本年5月30日(水)で第40回を迎えている。設立以来10周年となり、この間の論文発表数は439件を数えている。1980年代初めに結実した、森先生の「超流通」を嚆矢とする世界のコンテンツ流通に関する動きは、1990年代に入って大きな流れとなり、多数の研究者が取り組む領域となってきた。情報処理学会がこの流れを顕在化するために設立した研究会がEIPであり、設立以来、コンテンツ流通、著作権保護、コンテンツアイデンティティおよびこれらを支える諸技術に関わる先端的研究発表の場として、学会をリードし続けている。EIP設立10周年を迎え、EIPの10年の足跡を振り返って、本分野に果たした役割を検証するとともに、次なる発展について考察を試みる。



安田 浩 (電機大)

現職：東京電機大学未来科学部情報メディア学科教授、工学博士、東京大学名誉教授。

1967年東京大学工学部電子科卒業、1972年同大学院博士課程修了。同年4月日本電信電話公社入社。NTT理事・情報通信研究所所長を経て、1997年3月退社。NTT在職中は、画像符号化、画像信号処理、マルチメディアサービスに関わる研究・開発に従事。

1997年4月東京大学教授、先端科学技術研究センター所属。1998年4月から2007年3月同大学教授、国際・産学共同研究センター所属。2003年4月～2005年3月国際・産学共同研究センター長就任。2007年4月より東京電機大学教授、未来科学部 情報メディア学科所属。高速通信網およびその応用、インターネットおよびその応用、画像処理・画像符号化・知的財産権保護技術の研究ならびに感性工学研究に取組中。

● [16:10-17:30] パネル討論「EIPの過去、現在そして未来」

【討論概要】

情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会(略称 EIP)は、創設後、10年の節目を迎えた。この間、社会の情報化は大きく進展し、研究会創設当時には想定していなかった社会的変化も生じている。そこで、本イベント企画では、EIPの過去・現在そして未来を見据えた基調講演を踏まえ、創設メンバーや主査経験者を交えた討論を試みる。扱うテーマは情報化社会における知的財産を主眼として、プライバシー保護やユビキタス論など、今後の制度設計論にまで踏み込みたいと考えている。文科系と理科系の双方に多くの会員を有するとともに、実務家と研究者の高次のコラボレーションが繰り返されてきた本研究会ならではの学際的な討論を期待していただきたい。フロアとの質疑応答時間も十分に準備しているため、FIT参加者の積極的来場をお待ち申し上げる。

討論司会：井出 明 (首都大)

写真および略歴は「EIPの10年」司会紹介を参照。



パネリスト：亀山 渉 (早大)

1985年早大理工学卒。1987年同大学院理工学研究科修士課程了。1990年同大学院理工学研究科博士課程了。1989年早大理工学部助手。1992年(株)アスキー。1994年フランステレコム研究所出向等を経て、1999年早大国際情報通信研究センター助教授、2002年早大大学院国際情報通信研究科教授(現職)。MPEG・MHEG・DAVIC・TV-Anytime フォーラム等の標準化に関わり、ISO/IEC 13522-1及び-8エディタ、ISO/IEC JTC1/SC29/WG12議長、TV-Anytime フォーラム副議長等を務める。2006年より情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会主査、電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、画像電子学会、IEEE、ACM各会員、工学博士。



パネリスト：岸上 順一 (NTT)

北海道大学物理出身。薄膜ヘッドのデザインから磁気ディスクの設計、VODの開発などを行い、94年から5年間NTTアメリカVPとしてIP事業に取り組む。総務省、経産省のコンテンツ流通、著作権、制度などの各種委員会に関わり、現在NTTサイバーソリューション研究所所長、中期経営戦略推進室、ならびに研究企画部門チーフプロデューサー(通信放送連携ならびにRFIDビジネスを担当)。NTT理事。主な著書は「シリコンバレーモデル」NTT出版、「デジタルID革命」日本経済出版社、「コンテンツ流通教科書」アスキー出版、「RFID教科書」アスキー出版。



パネリスト：名和 小太郎 (情報セキュリティ大)

1956年東京大学理学部卒。工学博士。旭化成→新潟大学法学部→関西大学総合情報学部→(現在)情報セキュリティ大学院大学。IPSJ関連：倫理綱領制定委員会委員長→EIP初代幹事。著書：「学術情報と知的所有権」(東京大学出版会)、「情報の私有・共有・公有」(NTT出版)、「個人データ保護」(みすず書房)など。「討論よせて」

1996年、IPSJは倫理綱領を制定した。そのベンチマーク・テストの場として、1997年にEIPを立ち上げた。倫理綱領委員会のメンバーは、名和小太郎(長)、米田英一(幹事)、大谷和子、後藤滋樹、塚本亮治、土屋俊、西村恕彦、松本恒雄、三浦賢一、吉田正夫であった。EIPの初代幹事は、森亮一(長)、工藤育男、名和、松本であった。

パネリスト：安田 浩 (電機大)

写真および略歴は「基調講演：コンテンツ流通の足跡を見る10年」を参照。

KIISE 会長招待講演：International Collaboration between KIISE and Japanese Organizations

9月4日(木) 10:30-12:00 [第3 イベント会場 (1棟 123教室)]

[講演概要]

This speech gives a brief introduction on the international activities of KIISE and states the emerging importance of future cooperative activities. KIISE stands with a noble objective of dealing with increased interdependency, connectivity and integration on a global level among international societies, researchers and academicians with respect to social and technological aspects. To accentuate contemporary research issues and challenges our seventeen special interest groups are working and sharing their viewpoints through international conferences and symposiums. The necessity of research collaboration among KIISE, IEICE-ISS and IPSJ is more important than ever before due to globalization. Mutual cooperative activities among these societies may bring win-win benefits for both the countries as well as increase the research interests of the world. To accelerate the future collaborative research KIISE suggests following mutual agreements with IPSJ and IEICE-ISS: cooperative research projects, international academic activities such as workshop, symposium and conference. Also, academic expert exchange agreement, publication exchange agreement, mutual membership agreement, mutual visiting of presidents/members etc can be considered. Research collaboration and joint activities on science and industrial developments can intensify mutually reinforcing objectives. KIISE seeks to work together with IEICE-ISS and IPSJ in order to make research opportunities better known and a reality for a larger share of young and enthusiastic researchers who look for excitement and inspiration for their future. In this regard, KIISE wants to build trust, mutual understanding and respect that are necessary to develop better research relationship among the academic societies of the two countries. In the long run, the above collaborative research activities will play a noteworthy role in the development of future technologies as well as leverages community networking of both the countries.



Yanghee Choi (KIISE 会長)

President of Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE), received B.S. in electronics engineering from Seoul National University, M.S. in electrical engineering from Korea Advanced Institute of Science, and Doctor of Engineering in Computer Science from Ecole Nationale Supérieure des Telecommunications (ENST) in Paris, in 1975, 1977 and 1984 respectively. Before joining the School of Computer Engineering, Seoul National University in 1991, he has been with Electronics and Telecommunications Research Institute (ETRI) during 1977-1991, where he served as director of Data Communication Section, and Protocol Engineering Center. He was research student at Centre National d'Etude des Telecommunications (CNET), Issy-les-Moulineaux, during 1981-1984. He was also Visiting Scientist to IBM T. J. Watson Research Center for the year 1988-1989. He is now leading the Multimedia and Mobile Communications Laboratory in Seoul National University. He is also director of Computer Network Research Center in Institute of Computer Technology (ICT). He was editor-in-chief of KIISE journals and also chairman of the Special Interest Group on Information Networking. He has been associate dean of research affairs at Seoul National University. He was president of Open Systems and Internet Association of Korea. His research interest lies in the field of Multimedia Systems and Future Internet.

イノベータが語るオブジェクトの世界 —いかに生まれ、浸透し、そしてどこに向かうのか？— 9月4日(木) 13:00-15:30 [第3 イベント会場 (1棟 123教室)]

[企画概要]

オブジェクト指向の概念は1960年代に生まれ、1970～80年代には研究レベルで発展をとげ、その後、爆発的に普及するに至った。今日では、プログラミング言語、フレームワーク、ソフトウェアの設計・分析法などの主要なものが、多かれ少なかれオブジェクト指向のアイデアを取り入れている。オブジェクト指向は、今や空気や水のように当たり前の存在と言えよう。このオブジェクト指向に対する我が国からの貢献は意外に大きく、この分野で最も権威ある AITO の Dahl-Nygaard 賞を、今年には東京大学教授の米澤明憲氏が受賞した。第4回目にして、アジア圏から初の受賞者が生まれたことになる。そこで、これを機会に、オブジェクト指向を今一度見つめ直したい。2件の講演とパネル討論を通して、オブジェクト指向が世の中に与えたインパクト、新しい潮流や今後の展望などについて語りあう場を設ける。



司 会：柴山 悦哉 (東大)

1981年京都大学理学部卒。1983年同大学院修士課程修了。同年、東京工業大学理学部助手。その後、龍谷大学理工学部講師、東京工業大学理学部助教授、同大学院情報理工学研究科助教授および教授を経て、2008年より東京大学情報基盤センター教授、理学博士。

プログラミング言語、ソフトウェアセキュリティ、ユーザインタフェースソフトウェアなどに興味を持つ。

現在、東京工業大学大学院情報理工学研究科連携教授、産業技術総合研究所招へい研究員、情報処理学会理事。

● [13:00-14:00] 講演1「並列オブジェクト—その始まりと将来—」

[講演概要]

まず、並列オブジェクトの着想を得るに至った頃の米国の計算機科学の研究状況について述べ、並列オブジェクトの概念について簡単に説明する。次いで、米澤グループによる、並列オブジェクトにもとづく言語の設計、形式的意味論、自己反映計算、超並列マシン上での処理系の実装等について述べ、また、どのような実際的な応用プログラムを作成したかを説明する。加えて、自立的にネットワークを移動するオブジェクト(モバイルオブジェクト)を実現したことについても触れる。このような研究開発で得られた技術や知見が、マルチコアチップが豊富に使われるようになり、プログラムの並列化が強く求められるような状況となった今日において、どのような応用の意味があるかを、リンデン社のセカンドライフの例を述べつつ、議論する。



米澤 明憲 (東大)

1947年生。1970年東京大学工学部計数工学科卒。1977年マサチューセッツ工科大学計算機科学科博士課程修了。Ph.D. in Computer Science。1988年東京大学理学部情報科学科教授に着任。日本ソフトウェア科学会理事長、政府情報科学技術委員会委員、内閣府総合規制改革会議委員、同教育分野主査などを歴任。

現在、情報システム研究機構監事、(独)産業技術総合研究所情報セキュリティ研究センター副センター長、東京大学情報基盤センター長を兼務。

● [14:00-14:20] 講演2「オープンシステムとオブジェクト指向」

[講演概要]

ありとあらゆるシステムがネットワークで相互に接続されるようになり、全体として巨大な生活インフラを構成するようになった。このとき、設計者はシステム全体の構成や動作を完全に理解したうえで新たなサブシステムの設計や既存サブシステムの変更を行うことが不可能となっている。しかしながら、システムの安全性ならびに継続性の確保がますます重要になっている。また、今後ますます重要になると思われる実世界・実時間シミュレーションにおいても、シミュレーターの継続的な精緻化のために同様な課題を解決する必要がある。このようなオープンシステムの課題に対し、オブジェクト指向の思想と技術をいかに適用するか検討する。



所 眞理雄 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)

慶應義塾大学助手、専任講師、助教授を経て1991年より理工学部電気工学科教授。

1988年に(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所を創立し、取締役副所長を兼務。

1997年慶應義塾大学を退職し、ソニー(株)執行役員上席常務ならびにソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長、ソニー(株)IT研究所、CTO、プラットフォームテクノロジーセンター、技術渉外などを担当し、2008年6月にソニー(株)役員を退任。

● [14:30-15:30] パネル討論「イノベータが語るオブジェクトの世界—いかに生まれ、浸透し、そしてどこに向かうのか?—」

【討論概要】

本パネルでは、並列オブジェクト、モバイルオブジェクト、オブジェクト指向計算などに関する講演を受け、オブジェクト指向の世界が、今後どのように発展していくかを語り合う。オブジェクト指向のすそ野は今や広範に広がっており、さまざまな方向にフロンティアが存在する。パネリストは、アスペクト指向技術、プログラミング言語の設計と実装技術などに関して深い知見を有するオブジェクト指向分野の識者である。現在ホットな技術や将来期待される技術に関する話題を提供していただくとともに、オブジェクトの世界の大局的な動向についても議論をお願いする。

討論司会：柴山 悦哉（東大）

写真および略歴は「イノベータが語るオブジェクトの世界—いかに生まれ、浸透し、そしてどこに向かうのか?—」司会紹介を参照。



パネリスト：小野寺 民也（日本 IBM）

1959年生。1988年東京大学大学院理学系研究科情報科学専門課程博士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム（株）入社。以来、同社東京基礎研究所にて、オブジェクト指向言語の設計および実装の研究に従事。現在、同研究所シニア・テクニカル・スタッフ・メンバー。インフラストラクチャ・ソフトウェア担当。第41回（平成2年後期）全国大会学術奨励賞、平成7年度山下記念研究賞、平成16年度論文賞、平成16年度業績賞、各受賞。理学博士。ACM Senior Member。日本ソフトウェア科学会会員。



パネリスト：千葉 滋（東工大）

東京工業大学大学院情報理工学専攻教授。1991年東京大学理学部情報科学科卒業。1993年同大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。1996年同専攻より博士（理学）。東京大学助手、筑波大学講師、東京工業大学講師・助教授・准教授を経て現職。

プログラミング言語およびオペレーティング・システム等、システムソフトウェアの開発に興味を持っている。平成17年度長尾真記念特別賞（情報処理学会）、平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰などを受賞。

パネリスト：所 真理雄（ソニーコンピュータサイエンス研究所）

写真および略歴は「講演2：オープンシステムとオブジェクト指向」を参照。

パネリスト：米澤 明憲（東大）

写真および略歴は「講演1：並列オブジェクト—その始まりと将来—」を参照。

ユビキタス Web — これからの Web のために必要な技術は何か —
9月4日（木）13:00-16:20 [第4 イベント会場（λ棟 λ13教室）]

【企画概要】

わずか数台の大型計算機が専用線で接続されていたに過ぎない最初のインターネットが誕生してから40年、またインターネット上の情報空間である Web が開発されてから20年が経過している。この間、Web にアクセスするための情報機器は、当初の大型計算機から小型のワークステーション、そしてパーソナル・コンピュータへと変化してきた。近年では、デバイスおよびネットワーク技術の発展により、携帯電話による電子メールの送受信や Web へのアクセスは常識となり、コンピュータによるアクセス数をしのいでいる。Web は、さまざまなアプリケーション開発のためのプラットフォームとして普及しつつあり、より効果的な Web アクセスのための標準仕様を策定することが、多様なデバイス上でのアプリケーション開発にかかるコストを削減するためにきわめて重要である。World Wide Web Consortium (W3C) は、Web 開発者である Tim Berners-Lee により設立された、Web の発展と相互運用性を確保するために必要な各種仕様の開発を行なう国際的な技術コンソーシアムであり、アメリカのマサチューセッツ工科大学 (MIT)、フランスに本部を置く欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)、および日本の慶應義塾大学という三つのホスト機関により共同運営されている。



司 会：芦村 和幸 (W3C/慶大)

1992年京都大学理学部数学科卒業。2005年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期過程単位取得退学。NTT ソフトウェア株式会社、ATR 音声翻訳通信研究所、株式会社アルカディア、JST/CREST「表現豊かな発話音声のコンピュータ処理」研究員を経て、2005年より W3C 音声ブラウザ担当、2006年よりマルチモーダル対話担当兼務。音声およびマルチモーダル対話技術に関する各種 Web 標準策定に従事。

電子情報通信学会、日本音響学会各会員。

● [13:00-13:30] 講演 1 「W3C におけるマルチモーダル対話処理の標準化」

[講演概要]

W3C ユビキタス Web ドメインでは、「誰でも、どこでも、いつでも、そしていかなるデバイスを用いても、Web へのアクセスを可能とする」というユビキタス Web の実現へ向けて、利用者のニーズや各種デバイスの能力、環境の条件に応じた最適な手法を用いて Web にアクセスするための、次世代ヒューマンインタフェース技術標準化に取り組んでいる。

本講演では、そのうち特に、W3C マルチモーダル対話ワーキンググループ (Multimodal Interaction (MMI) WG) の活動に焦点を当て、GUI、音声、手書き情報等、Web アプリケーションで利用される様々なモダリティを統合するためのフレームワークである MMI アーキテクチャを中心に、多様な入出力形態および各種情報の同期等を実現するために必要な各種仕様策定の動向について説明する。

芦村 和幸 (W3C/ 慶大)

写真および略歴は「ユビキタス Web - これからの Web のために必要な技術は何か -」 司会紹介を参照。

● [13:30-14:00] 講演 2 「Web におけるビデオコンテンツの利用」

[講演概要]

近年、Web 上でのビデオコンテンツ利用は、携帯機器へのカメラ搭載や通信ネットワークの高速化・一般化に伴い、世界的に急速に拡大しつつある。本講演では、現在 W3C で検討を進めている、Web 上におけるビデオコンテンツの取扱いに関する新しい活動について紹介する。本活動の目的は、Web 上において、動画や音声情報からなるビデオコンテンツを、今までのような副次的な情報としてではなく、テキスト情報や静止画情報と同様に「第一種」の情報として自由に扱うためのフレームワークを提供することであり、2007 年 12 月にサンノゼおよびブリュッセルにて合同で開催された「W3C Video on the Web ワークショップ」(<http://www.w3.org/2007/08/video/report.html>) の議論を通して明確化された、(1) 動画および音声情報に含まれる断片的情報の位置的・時間的な指定方法、および (2) 動画情報の検索に用いることができるようなメタデータの付与方法等が対象となる。



Felix Sasaki (W3C/ 慶大)

Felix Sasaki joined the W3C in April 2005 to work in the Internationalization Activity.

He is also working in the area of Web Services, and on Video on the Web. He is part of the W3C staff at Keio-SFC. His main field of interest is the combined application of W3C technologies for the representation and processing of multilingual information.

● [14:00-14:30] 講演 3 「Web アプリケーションにおける地理位置情報の活用」

[講演概要]

現在 W3C では、Web アクセスに利用される各種機器の位置情報を、一般的な Web ブラウザ上のアプリケーションで自由に扱うことを可能とするための標準的な API の仕様策定に取り組んでいる。本 API を利用することにより、Web アプリケーションの開発者は、各ブラウザの実装に依存しない形で、位置情報を活用した Web アプリケーションの開発を行なうことができるようになる。例えば、既に一部の携帯電話において提供されているナビゲーションサービスのように、GPS 情報にもとづいて利用者の位置を特定するとともに、その位置情報を住所や地名と対応づけた上で画面上に表示し、さらには、「交差点を曲がる度に、利用者の位置や今後の進路を自動更新する」といった付加的なサービスを提供することもできるようになる。



Michael Smith (W3C/ 慶大)

Michael (tm) Smith is co-chair of the W3C HTML Working Group (helping develop the next version of the Web's core language, HTML5) as well as one-half of a tag team of W3C rowdies who do the grunt work for the Web Applications Working Group. Mike's been involved in design, development, testing, and deployment of Internet applications for more than 10 years - from carrier-grade e-mail delivery systems and server-side content-transformation technologies to Web browsers deployed across a range of devices. Before joining the W3C, he worked on systems for mobile operators in Japan - at Openwave Systems (whose mobile browser has shipped on more than one billion handsets) and at Opera Software (whose mobile browser was the first "full" browser to ship preinstalled on handsets in Japan). At the W3C, he started as the Asia lead for the Mobile Web Initiative before shifting to his current focus on work related to core browser technologies.

● [14:30-15:00] 講演4「わが国におけるマルチモーダル対話記述標準化－現状と将来への期待－」

【講演概要】

マルチモーダル対話は、近未来のヒューマンインタフェース中核技術として、携帯端末、カーナビ、情報家電からロボット応用まで実現への期待が大きい。しかしながら、各種モダリティの統合・分化にあたっての具体的な方法論や、多様なアプリケーションの開発に利用できる柔軟なフレームワークが存在しないこと等により、いまだ実用化への見通しが立っていないのが現状である。本講演では、このような状況を踏まえ、情報処理学会情報企画調査会「音声入出力インタフェース委員会」で取り組んでいる、マルチモーダルシステムのための標準的なシステムアーキテクチャ、およびその記述言語について述べる。



荒木 雅弘 (京都工繊大)

1988年京都大学工学部卒業。1993年京都大学大学院工学研究科博士課程研究指導認定退学。

京都大学工学部助手、同総合情報メディアセンター講師を経て、現在京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。

音声対話システムおよびマルチモーダル対話記述言語の研究に従事。

ACL, ISCA, 情報処理学会等各会員、博士(工学)。

● [15:20-16:20] パネル討論「ユビキタス Web 実現にあたっての課題」

【討論概要】

パネル討論ではこれまでの講演を受け、まず、マルチモーダル対話記述の現状、各種標準仕様がわが国では普及しにくい要因、今後の対話記述言語標準化への展望などについて討議した上で、近い将来利用の増大するであろうマルチモーダル対話応用システムを軸に、「誰でも、どこでも、いつでも、そしていかなるデバイスを用いても、Webへのアクセスを可能とする」というユビキタス Web 実現のための要件について討議する。

討論司会：芦村 和幸 (W3C/慶大)

写真および略歴は「ユビキタス Web - これからの Web のために必要な技術は何か -」司会紹介を参照。

パネリスト：荒木 雅弘 (京都工繊大)

写真および略歴は「講演4：わが国におけるマルチモーダル対話記述標準化－現状と将来への期待－」を参照。



パネリスト：桂田 浩一 (豊橋技科大)

1995年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業。2000年同大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。

同年豊橋技術科学大学工学研究科助手。

2007年豊橋技術科学大学留学生センター、および大学院工学研究科 知識情報工学専攻講師、博士(工学)。

マルチモーダル対話、知識処理に関する研究に従事。

情報処理学会、AAAI、人工知能学会、日本音響学会、言語処理学会、ヒューマンインタフェース学会各会員。



パネリスト：西本 卓也 (東大)

1993年早稲田大学理工学部卒業。1995年同大学院理工学研究科修士課程修了。

1996年京都工芸繊維大学工学部助手。2002年東京大学大学院情報理工学系研究科助手。2002年東京大学大学院情報理工学系研究科助手。2007年同助教。

音声インタフェース、パターン認識、福祉情報工学、音楽情報処理の研究に従事。

電子情報通信学会、日本音響学会、情報処理学会、人工知能学会、ヒューマンインタフェース学会会員。

パネリスト：Felix Sasaki (W3C/慶大)

写真および略歴は「講演2：Webにおけるビデオコンテンツの利用」を参照。

パネリスト：Michael Smith (W3C/慶大)

写真および略歴は「講演3：Webアプリケーションにおける地理位置情報の活用」を参照。

一般講演プログラム

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング（第1分冊）

[アルゴリズム]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 山田 敏規 (埼玉大)
- A-001 USBメモリとRFIDタグを用いた建造物の長期保守管理システム
.....◎中小路公通・近藤明宏・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- A-002 Balanced (C_4, C_{12}) -2-Foil Decomposition Algorithm of Complete Graphs◎潮 和彦(近畿大)
- RA-001 最大クリーク問題の多項式時間的可解性◎中西裕陽・富田悦次(電通大)
- RA-002 An $O(n \log^2 n)$ Algorithm for $L(2,1)$ -labeling of Trees
..... 蓮沼 徹(徳島大)・石井利昌(小樽商科大)・○小野廣隆(九大)・宇野裕之(大阪府大)
- A-003 アドホックネットワーク上でランダム局所近傍を利用した幾何ルーティングアルゴリズムの設計と解析
.....◎佐藤和茂・徳山 豪(東北大)
- A-004 DHTルーティングシステムにおけるデータ分割配置手法の検討
.....原田脩平・◎石川康太・新井雅之・福本 聡・岩崎一彦(首都大)

[コンピューテーション]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 堀山 貴史 (埼玉大)
- RA-003 A Counting-Based Approximation of the Distribution Function of the Longest Path Length in Directed Acyclic Graphs
.....◎安藤 映・小野廣隆・定兼邦彦・山下雅史(九大)
- A-005 逐次計算の検証を分散処理する手法の実装◎豊洋史・山本 宙(東海大)
- A-006 マルチスロット活動選択問題◎千葉英史(法大)・軽野義行(京都工繊大)
- A-007 区間演算を用いたODE Solverにおける任意精度演算の導入とパラメタ最適化◎廣瀬賢一・石井大輔・上田和紀(早大)

[プログラミング]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 西崎 真也 (東工大)
- RA-004 ループレス画像処理記述言語の提案と実装◎桜井寛子・岡田慎太郎・津邑公暁・松尾啓志(名工大)
- RA-005 Ambient Calculusによる物流システム記述に対するモデル検査◎植田直人・加藤 暢・樋口昌宏(近畿大)
- A-008 Erlangを用いたマルチエージェントシミュレーションのための基礎的研究◎川上大輔・松井俊浩・松尾啓志(名工大)
- A-009 Pure Java アプリケーションにおける遠隔イベント通知のための汎用機構の提案◎吉崎順太・中島 潤(北海道情報大)
- A-010 明示的なメモリ管理機能を備えたJava仮想マシンの評価◎足立昌彦・小幡元樹・西山博泰・岡田浩一・浅香真司(日立)
- A-011 An Extension of E-overlapping Notion in Term Rewriting Systems and its applications
.....◎松浦邦博・大山口通夫・三橋一郎(三重大)

[数理モデル化と問題解決]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 堀田 一弘 (電通大)
- RA-006 リストページ自動分割問題の最適グラフ分割を用いた解法の提案と評価◎志賀琴枝・○徳山 豪(東北大)
- A-012 グラフ制約を持つ結託攻撃に対する電子透かしの安全指標◎鈴木一実・草薙良至・能登谷淳一・笠井雅夫(秋田県大)
- A-013 実務環境における知的照明システムの構築◎吉形允晴・三木光範・廣安知之・田中慎吾(同志社大)
- A-014 実務環境における色温度制御機構を組み込んだ知的照明システムの構築
.....◎加来史也・三木光範・廣安知之・吉形允晴・田中慎吾(同志社大)
- A-015 移動パッシブセンサ群配置問題:3次元化の検討◎川上かおり・田中秀俊(三菱)
- A-016 時間発展するソーシャルコミュニティの可視化◎橋本康弘・陳 Yu・大橋弘忠(東大)
- A-017 多変量解析を用いた血友病Bの研究◎宇都宮真・坂本真人・古谷博史(宮崎大)

B 分野：ソフトウェア（第1分冊）

[実装支援]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 吉田 敦 (和歌山大)
- B-001 Javaに対するDaikonを用いたインバリエント自動生成のための汎用基盤ツール
.....◎宮本敬三・堀 直哉・岡野浩三・楠本真二(阪大)
- B-002 ループ展開によるJavaバイトコード最適化システムの試作◎寒川明好・岩澤京子(拓大)
- B-003 メソッド呼び出し列の差分に着目したシーケンス図によるデバッグ支援◎長崎 聡(静岡大)
- B-004 プログラムの振る舞いの差異を用いたデバッグ支援◎鈴木貴治・酒井三四朗(静岡大)
- B-005 思考展開図のソースコード読解支援への適用◎河崎貴宜・村川猛彦(和歌山大)
- B-006 機能に着目したソフトウェア部品の抽象化による特徴抽出◎茅野良洋(電通大)

[プロダクト管理]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 岡野 浩三 (阪大)
- B-007 サービス非依存インタラクションモデルを用いたシステム開発の提案◎天川美那・小形真平・松浦佐江子(芝浦工大)
- B-008 UML/OCLからSQLへの変換◎黒澤慎太郎・小林 洋(東海大)
- B-009 状態遷移図を用いたリソース管理設計◎塩本佳子(三菱)
- B-010 変更・閲覧履歴を利用した成果物間の依存関係予測手法に関する提案◎川崎将人・高橋洋一(三菱)
- B-011 仮想マシン環境におけるゲストの設定容易化方式◎金田典久・飯塚 剛・伊藤孝之・金木佑介(三菱)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[要求工学・WEB]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 松浦佐江子(芝浦工大)
- B-012 実践的なソフトウェア開発実験を通じた要求仕様定義技術者の育成……◎村瀬晴喜・大木幹雄・坂本康治(日本工大)
- B-013 要求定義技術の学習を目的としたチェックリストの有用性……………○太田久貴・伊藤 恵(はこだて未来大)
- B-014 シーケンス図とクラス図の生成に適したユースケース記述形式……………◎奥村和恵・金澤典子・塚本享治(東京工科大)
- B-015 UML 要求分析モデルからの段階的な Web UI プロトタイプ自動生成の実験例 ……◎小形真平・松浦佐江子(芝浦工大)
- B-016 (講演取消)
- B-017 データモデルと UI の相互変換を用いたウェブサービス開発環境「SoS」……………◎中田宏昭・深海 悟(大阪工大)
- B-018 問題領域を特化した Web アプリケーションフレームワーク構築方法の実験と評価 ……◎周 鋒・中所武司(明大)

[ソフトウェア開発]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 奥野 拓(はこだて未来大)
- B-019 組込みシステムのモデル駆動開発実験……………◎伊藤邦彦・松浦佐江子(芝浦工大)
- B-020 UI 設計ツールを用いた開発における効率的運用……………◎岡本啓嗣・中川隆志・小中裕貴(三菱)
- B-021 博物館用メタデータスキーマ間における類似性発見方式の基礎的検討……………◎秋元良仁・村田智紘・亀山 渉(早大)
- B-022 A Basic Consideration on E-mail Classification by Importance……………◎江 珮齡(早大)
- B-023 エージェント向け探索ライブラリ-遺伝的アルゴリズム、ニューラルネットワークの実装報告-
……………◎野口裕貴・Kenneth James Mackin・永井保夫(東京情報大)

[高性能計算]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 南里 豪志(九大)
- B-024 x64 プロセッサ向けメモリアクセス最適化技術……………○高島志泰・伊藤信一・橋本博幸・本川敬子(日立)
- B-025 データ列対分割法を用いた並列2分木マーソソートの高速化の検証……………○山本 登(日大)
- B-026 簡易ニュートン法が生成する近似解の幕級数表示……………○尾関孝史(福山大)
- B-027 カロジェロ・モーザー模型の全保存型差分法による数値計算の試み……………○佐藤 哲(オプトリンクス)
- B-028 超並列システムにおけるディペンダブルな処理環境についての評価実験
……………○柳瀬龍郎・田村信介(福井大)・高津麻希子(ネスティ)
- B-029 グリッド環境における多段的 PNN の実装と評価……………◎肥塚拓也・若谷彰良(甲南大)
- B-030 グリッドを用いたシステムトレード実現方法の検討……………◎江島楨也・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)

[OS]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7F会場(κ棟2階 κ21教室) 座長 笹田 耕一(東大)
- B-031 *AnT* オペレーティングシステムにおける高精度な周期実行制御法の設計……………◎古川友樹・谷口秀夫・田端利宏(岡山大)
- B-032 *AnT* オペレーティングシステムにおける Linux の FD ドライバのプロセス化手法
……………◎鳥崎 泰・谷口秀夫・田端利宏・乃村能成(岡山大)
- B-033 Apache サーバの実行中ライブラリに対する入替えの評価……………◎西野裕一・谷口秀夫(岡山大)
- B-034 仮想計算機の画面転送処理効率化のための Windows ディスプレイドライバ
……………◎坂井成道・後藤真孝・峰松美佳・西林泰如・村井信哉(東芝)
- B-035 形式手法を用いた組み込み用 OS の試作-B メソッドによる仕様検証実験……………◎川守田慶・野口健一郎(神奈川大)
- B-036 拡張状態遷移技法を用いた仕様検証の実験-組み込み用 OS 試作への適用……………○野口健一郎・川守田慶(神奈川大)
- B-037 携帯機器向け適応型サービスプラットフォームの提案と評価……………◎奥山 玄・中川好久・才田好則・白井和敏(NEC)
- B-038 (講演取消)

C 分野：ハードウェア・アーキテクチャ (第1分冊)

[専用システム]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 佐藤 真琴(日立)
- RC-001 ClearSpeed アクセラレータボードを用いた計算機合成ホログラムの高速化……………◎田邊矩之・増田信之・伊藤智義(千葉大)
- RC-002 GPU を用いた2次元定常熱伝導方程式の数値計算高速化
……………○高田直樹(湘北短大)・滝沢 努・増田信之・伊藤智義(千葉大)
- C-001 DHPTV 専用計算機システムの並列化による高速化……………阿部幸男・○増田信之・伊藤智義・濱田 悠(千葉大)・
佐竹信一(東理大)・功刀資彰(京大)・佐藤一穂(豊田自動織機)
- RC-003 複数 FPGA によるアレイ差分法専用計算機のための FPGA 間通信帯域評価
……………◎王 陸洲・佐野健太郎・初田義明・山本 悟(東北大)
- C-002 CDFG からの高速な複合演算抽出法……………加藤俊之・◎三宅貴章・宮内崇旭・大亦真一・大泉雄太・
西門秀人・山内寛紀(立命館大)・小林士朗(旭化成)

[メモリ・システム]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 橋本 幹生(東芝)
- C-003 マルチクライアント向け分散型大容量メモリシステム DLM-M の設計と実装……………◎斉藤和広・緑川博子・甲斐宗徳(成蹊大)
- RC-004 分散共有メモリを用いた同報通信についての1検討……………○田中 晶・寺元光生(NTT)
- C-004 キャッシュ上のタグビットを用いたバッファオーバーフロー防止手法……………◎上田和哉・上原子正利・小柳 滋(立命館大)
- RC-005 DMA で主記憶をアクセスする CPU における不連続アクセスの連続化
……………○田邊 昇(東芝)・太田 淳・金 美善・中條拓伯(農工大)
- RC-006 ウェイアロケーション型共有キャッシュ機構のハードウェア設計に関する研究
……………阿部健太・◎小寺 功・江川隆輔・滝沢寛之・小林広明(東北大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[システム LSI 設計技術]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 小松 聡(東大)
- RC-007 実行可能UMLのリファクタリングに基づく段階的詳細化設計◎木村正裕(東芝ソリューション)・Nurul Azma Zakaria・照屋 朗・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- C-005 実行可能UMLのアスペクト指向記述に基づくシステムレベル設計照屋 朗・岩田英一郎(埼玉大)・木村正裕(東芝ソリューション)・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- C-006 実行可能UMLにおけるアサーションベースの動的検証菅井雅仁・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- C-007 LSI設計支援を指向したC言語からのCDFG作成手法加藤稔之・宮内崇浩・三宅貴章・大亦真一・大泉雄太・山内寛紀・西門秀人(立命館大)・小林士朗(旭化成)
- C-008 OpenMPハードウェア動作合成システム:コードジェネレータの実装と画像処理による評価松崎裕樹・中谷高之・山崎勝弘(立命館大)
- RC-008 Rapid Design of a Multiprocessor System for a JPEG Decoder on FPGA◎Dawei Cao・Keyan Chen・Takahiro Watamabe(早大)
- C-009 学生によるプロセッサ設計実験に基づいたハード/ソフト協調学習システムの評価◎井手純一・志水建太・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- C-010 Power Consideration Multilevel Partitioning Using Voltage Islands◎王 偉(早大)

[アーキテクチャ]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 鳥居 淳(NEC)
- RC-009 自動メモ化プロセッサにおける再利用オーバーヘッド削減◎神谷優志・鳥崎裕介・新美明仁・津邑公暁・松尾啓志(名工大)
- RC-010 自動メモ化プロセッサにおけるアドレス比較削減手法◎高木伴彰・鳥崎裕介・新美明仁・津邑公暁・松尾啓志(名工大)
- C-011 階層型相互結合網ルータのパイプライン処理に関する検討◎茂手木貴彦・金子昌弘・三浦康之(湘南工科大)
- C-012 粗粒度動的再構成回路へのCPU再構成面の実装◎小椋清孝・森下賢幸(岡山県大)
- C-013 タイルアーキテクチャに対するマルチスレッドの空間分割◎矢頭岳人・米澤直記・内田啓一郎(神奈川大)
- C-014 階層統合型粗粒度タスク並列処理のための並列Javaコード生成◎小澤智弘・山本義幸・吉田明正(東邦大)

[ディベンダビリティ・ストレージ]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 米田 友洋(国立情報学研)
- RC-011 A Case Study on Identification of Circuit Variation by Transistor States◎三浦幸也(首都大)
- C-015 必須制当情報に基づくテストデータ削減のためのテストポイント挿入法◎平本和子・吉川祐樹・市原英行・井上智生(広島市大)
- RC-012 フラッシュメモリを用いた大容量SSDのための2段階誤り制御符号◎金子晴彦・松坂拓哉・藤原英二(東工大)
- C-016 デザスタリカバリ構成におけるコピー機能操作のためのアクセス権限管理方式◎岡田 渡・江丸裕教・木原健一(日立)
- C-017 実回線を用いたiSCSIリモートコピー機能の性能検証◎須藤 梓・志賀賢太・村上俊彦・永田幸司(日立)
- C-018 A New File Transfer Protocol for a Hybrid Cluster File System◎Honsali Khalil・津邑公暁・齋藤彰一・松尾啓志(名工大)
- C-019 大規模ストレージにおける動的容量割り当て(Dynamic Provisioning)機能の研究開発◎江口賢哲(日立)

[組み込みシステム]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7L会場(ε棟1階 ε18教室) 座長 天野 英晴(慶大)
- C-020 組み込み向けマルチコア対応ドメイン分離技術◎高橋明生・近藤雄樹・野尻 徹(日立)
- C-021 多軸制御バルスの生成に関するシステム構成の評価◎阿部高也(東海大)・土屋秀和(東海大連)・浅川 毅(東海大)
- C-022 プレーキシステムのモデルベース診断◎平塚 聡(立命館大)・石川恭雄(デンソー)・房岡 璋(立命館大)
- C-023 読み取りエラーの発生したICタグの自動訂正手法◎ジュタマス パンウィライ・野地 保・堀越隼人(東海大)
- C-024 USB無線LANアダプタを用いた小型組み込み機器のデバッグ手法◎綱島健次・志田哲郎・佐藤利光・小坂英明(三菱)
- C-025 ネットワークから制御可能な多機能コンセント◎明山寛史・川村尚生・菅原一孔・齊藤剛史・小西亮介(鳥取大)
- C-026 OSGi FrameworkにおけるBundle共有方式の提案◎小玉哲平・高山洋史・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- C-027 組み込みシステムにおけるシステム工学教育◎井上雅裕(芝浦工大)

D 分野：データベース（第2分冊）

[XML・マルチメディア]

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 鳥川 博光 (立命館大)
- D-001 XPath 式の部分クラスに対する充足可能性判定アルゴリズム ……◎福島雄司・鈴木伸崇 (筑波大)
- D-002 XML データの暗号化に対応した安全な検索方法の提案 ……◎中村伸一・山本博章 (信州大)
- D-003 セマンティック WEB 技術を用いた技術ドキュメントの類似性検出方法とその評価
……………◎柳田憲士郎・塚本享治 (東京工科大)
- D-004 時系列変化を伴う物語における場面の連鎖構造 ……◎藤井美緒・真栄城哲也・中山伸一 (筑波大)
- D-005 3つの潜在的意味空間を用いた顔イメージに対するキーワード付与 ……◎川井優司・伊藤秀昭・興水大和 (中京大)
- D-006 不特定ユーザを対象とする Ajax ウェブサイトのためのコンテンツ先読み手法
……………◎檜崎修二 (長崎大)・田代純規 (熊本計算センター)・野口 翔・平山 陽 (長崎大)
- D-007 A Trial Study of Changing Two Objects - Reconsidering Object Part 7 - ……◎高原利生 (無所属)

[情報推薦・データマイニング]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 渡辺知恵美 (お茶の水女子大)
- D-008 トピック判定における n-gram の組み合わせ手法の検討 ……◎柳原 正・松本一則・小野智弘・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- D-009 Web コンテンツ作成支援のためのリンク目的を意識したリンク先推薦手法
……………◎武吉朋也・服部 元・小野智弘・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- D-010 Web マイニングのためのトピック主導型クローラの試作 ……◎金子昌弘・安藤一秋 (香川大)
- D-011 履歴データ管理方式の評価 ……◎森山令子・平井規郎・郡 光則 (三菱)
- D-012 雑誌広告に着目した消費者の興味推定に基づく個別化した情報提供
……………◎小河真之・田口 浩・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
- D-013 展示会におけるブース推薦のための特徴ベクトルと満足度関数を用いた興味推定
……………◎中川陽介・原田史子・鳥川博光 (立命館大)

[ユビキタス]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 相良 毅 (東大)
- D-014 センサデータ集約を用いた実時間クエリ処理機構の設計と実装
……………◎森田達也・金井圭介・石塚宏紀 (電機大)・戸辺義人 (電機大/JST-CREST)
- D-015 センサデータベースにおけるメモリ消費量を考慮した実時間分割応答の提案
……………◎金井圭介・石塚宏紀 (電機大)・戸辺義人 (電機大/JST-CREST)
- D-016 無線センサネットワークの適用可能性検証用シミュレータの設計
……………◎中谷高明・森 浩佳・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
- D-017 シームレスな屋内ナビゲーションのための地図データのレイヤ化
……………◎埜口良太・石原 俊・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
- D-018 DBによって管理された電子タグ付き空間での位置情報タグの登録・維持支援手法 ……◎山下啓太・富井尚志 (横浜国大)
- D-019 RFID タグを用いた作業手順の比較に基づく行動特徴検出 ……◎吉田高明・小林勇人・原田史子・鳥川博光 (立命館大)

[問合せ]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 河合由起子 (京産大)
- D-020 ファジィクラスタリングを用いた検索語拡張手法 ……◎鈴木裕規・能登谷淳一・草刈良至・笠井雅夫 (秋田県大)
- D-021 単語クラスタリングを用いた検索キーワードの提示 ……◎小西隆太・上原子正利・小柳 滋 (立命館大)
- RD-001 クリックスルーに基づく探検型検索サイトの設計と開発 ……◎酒井哲也・小山田浩史・野上謙一・北村仁美・
梶浦正浩・東美奈子・野中由美子・小野雅也・菊池 豊 (ニューズウォッチ)
- D-022 動画に対するコメントを利用した自動 Web 検索システム ……◎成田龍太・全 眞嬉・徳山 豪 (東北大)
- D-023 2部グラフを用いた概念の階層構造抽出 ……◎滝本知宏・中平勝子・三上喜貴 (長岡技科大)

[検索結果]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 大塚 真吾 (物質・材料研究機構)
- D-024 ユーザの理解度に基づく検索結果の動的な個人化クラスタリング ……◎青野壮志・太田 学 (岡山県大)
- D-025 階層クラスタリングにおける新しい手法の提案 ……◎林 達彦・小柳 滋 (立命館大)
- D-026 ユーザビリティ向上を目指した検索結果の視覚化 ……◎垣崎正宏・小柳 滋 (立命館大)
- D-027 特許の無効資料調査のための類似特許検索とリランキング ……◎古川修平・関 洋平・青野雅樹 (豊橋技科大)

[索引構造]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6V会場(○棟1階 o 18教室) 座長 山口 実靖 (工学院大)
- D-028 遷移先節点集合の管理によるダブル配列の更新手法
……………◎重越秀美・芳本貴男・中川知之・蔵満琢麻・望月久稔 (大阪教育大)
- D-029 ダブル配列における一方方向岐の遷移あたりに要する計算量の抑制
……………◎芳本貴男・重越秀美・蔵満琢麻・望月久稔 (大阪教育大)
- D-030 ファイル更新履歴取得可能なファイルシステムによる高速インデクシングデスクトップ検索システム
……………◎藤澤祐一・伊藤 潤・山口実靖・浅谷耕一 (工学院大)
- D-031 ログ構造の分割インデックスシステム ……◎菅 豊・佐藤隆士 (大阪教育大)
- D-032 複数パターンを高速に照合する遷移関数の実現 ……◎中川知之・蔵満琢麻・望月久稔 (大阪教育大)
- D-033 番組ファイルの差分検出手法の検討 ……◎南 浩樹・金子 豊・竹内真也・藤沢 寛・和泉吉則 (NHK 技研)
- D-034 入退管理・映像監視システム向け統合ログ管理方式 ……◎山岸義徳・郡 光則 (三菱)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[特徴抽出]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7V会場(○棟1階 o18教室) 座長 原田 隆史(慶大)
- D-035 Webページの著者の同定……○加藤義清・河原大輔・乾健太郎(NICT)・黒橋禎夫(NICT/京大)・柴田知秀(京大)
- D-036 Web情報信頼性分析のためのページ外観情報の抽出
……○赤峯 享・加藤義清・乾健太郎(NICT)・黒橋禎夫(NICT/京大)
- D-037 SNSにおけるアクセスコントロールのための信頼値の算出方法……○川村義久・上原子正利・小柳 滋(立命館大)
- D-038 スпамブログを除いたソーシャルメディアにおけるマスメディアの影響分析……○石田和成(鳥根県大)
- D-039 協同作業空間における物体の特性を活かした取納立案……○小林勇人・原田史子・島川博光(立命館大)
- D-040 複雑ネットワーク索引構造を用いた類似探索と結果可視化
……○青山一生(NTT)・斉藤和巳(静岡県大)・山田武士・上田修功(NTT)

E分野：自然言語・音声・音楽(第2分冊)

[Web(1)]

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1Q会場(ι棟1階 ι11教室) 座長 加藤 直人(NHK技研)
- E-001 Web文書からの主観的・客観的評価表現の抽出……○中川哲治・川田拓也・乾健太郎(NICT)・黒橋禎夫(NICT/京大)
- E-002 実験の評価に基づくユーザ固有 Splog 空間の検証・ユーザ適応型 Splog フィルタリングに向けて
……○芳中隆幸(電機大)・福原知宏(東大)・増田英孝(電機大)・中川裕志(東大)
- E-003 大規模ウェブ情報クラスタリングにおけるラベルの組織化……○原島 純・柴田知秀・新里圭司・黒橋禎夫(京大)
- E-004 トピッククラスタを利用した協調フィルタリングに基づく Web 情報推薦システム
……○奥山 透・寺田道生・小原恭介・山田剛一・絹川博之(電機大)・中川裕志(東大)
- E-005 ブログを対象とした地域住民の政治的関心の分析……○木村泰知(小樽商科大)・
洪木英潔(横浜国大/ディクティオ)・高丸圭一(宇都宮共和大/ディクティオ)
- E-006 品詞 N-gram を用いたブログの文体識別……○瀬川 修(中部電力)・坂内和幸・高橋 誠(TIS)
- E-007 Wikipedia のカテゴリを利用した Web 検索結果のフィルタリングの検討
……○榎原敬吾・山本けい子・田村哲嗣・速水 悟(岐阜大)

[抽出]

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1R会場(ι棟1階 ι12教室) 座長 吉田 稔(東大)
- E-008 映画あらすじ文からの登場人物情報の抽出……○服部純次・杉本 徹(芝浦工大)
- E-009 長い複合名詞の構造的な固有表現認識……○船山弘孝・柴田知秀・黒橋禎夫(京大)
- E-010 話題語評価に基づく Web ニュースからの時事情報獲得技術……○河合智弘・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-011 クローズドキャプションを対象とした番組シーン分割手法の検討
……○三浦菊佳・山田一郎・小早川健・住吉英樹・柴田正啓・八木伸行(NHK技研)
- E-012 ブログからの未来に関する表現の抽出……○坂井俊之・佐藤吉秀・川島晴美・奥田英範(NTT)
- E-013 半教師あり学習による事象間の関係を表現する構文構造の抽出
……○山田一郎・三浦菊佳・小早川健・住吉英樹・柴田正啓・八木伸行(NHK技研)
- E-014 新聞記事からの社会課題に対する技術的対策情報の抽出
……○乾 孝司・内海和夫・橋本泰一(東工大)・村上浩司(奈良先端大)・石川正道(東工大)

[多言語処理]

- 9月3日(水) 10:10～12:00 4Q会場(ι棟1階 ι11教室) 座長 大熊 智子(富士ゼロックス)
- E-015 A Study on Enhancing Vietnamese Text Classification by Using an Ontology
……○Giang Son Nguyen・Shigeru Oyanai(立命館大)
- E-016 統計的機械翻訳における翻訳誤り原因自動同定手法の提案……○林 克彦・國重泰秀・山本誠一(同志社大)
- E-017 ウェブ検索を用いた中国語作文支援システムの構築……○王キョウ嘉・柳 クン・村岡洋一・秋岡さやか(早大)
- E-018 日本語の格助詞「で」の分析と日中機械翻訳への適用……○黒田由加・出羽達也(東芝)
- E-019 日中機械翻訳における授受表現「てくれる」構文の翻訳処理について……○黄 曉兵・池田尚志(岐阜大)

[音声言語処理]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4R会場(ι棟1階 ι12教室) 座長 伊藤 克亘(法政大)
- E-020 音声信号の可逆符号化における線形予測器の最適化に関する検討……○川邊博史・松田一郎・伊東 晋(東理大)
- E-021 背景音にロバストな音声・音楽信号の識別方式の検討……○米久保裕・竹内広和(東芝)
- E-022 生活環境下でのボタンレス音声認識のための評価データベース構築……○大淵康成・戸上真人・住吉貴志(日立)
- E-023 ウェブ上の言語知識を利用した音声認識用単語辞書の更新手法
……○鈴木健太郎・西村竜一・河原英紀・入野俊夫(和歌山大)
- E-024 話し言葉音声中のフィルタ抽出精度と音声認識率の関連性……○宗宮充宏・西崎博光・関口芳廣(山梨大)
- E-025 スマートホームにおける音声ニュース提供システムアーキテクチャの構築……○東原智幸・三吉達夫・渥美雅保(創価大)
- E-026 個人適応的音声ニュース提供システムにおける関連ニュース提供戦略……○三吉達夫・東原智幸・渥美雅保(創価大)

[音楽情報科学(1)]

- 9月3日(水) 10:20～12:00 4S会場(○棟1階 o11教室) 座長 松島 俊明(東邦大)
- E-027 骨導音を用いた口笛音楽検定試験システムの開発……○森 幹男・荻原慎洋・谷口秀次・高橋謙三(福井大)
- E-028 演奏者の好みを反映した自動編曲システム……○島田貴宏・鬼沢武久(筑波大)
- E-029 主旋律に着目したピアノ楽譜の難易度別簡易化……○齊藤豪佑・松原正樹・大野将樹・斎藤博昭(慶大)

- E-030 ネットワーク管理・運用のための音楽表現を用いた監視システムの提案とその有効性に関する評価・検証
◎柴田英寛・中島 潤 (北海道情報大)
- E-031 メディアアートのための汎用インターフェースのプラットフォームについて◎長嶋洋一 (静岡文化芸術大)

[情報検索・要約]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5Q会場 (1棟1階 111教室) 座長 橋本 泰一 (東工大)
- E-032 語用論に基づく「論語」検索システムの構築○楊 曄・姜 沛林・土屋誠司・任 福継 (徳島大)
- E-033 ANPを用いた索引語ランキング手法の提案◎横井 健・保福一郎 (都産業技術高専)・柳本豪一 (大阪府大)
- E-034 連想処理を用いた複数文からの質問応答方式◎長東謙吾・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-035 (講演取消)
- E-036 クローズドキャプションを利用した番組紹介コメント自動生成の検討
◎小林彰太 (中大)・山田一郎・柴田正啓・八木伸行 (NHK)・羽鳥光俊 (中大)
- E-037 Multi-Document Summarization using BE-breaking◎Md. Waliur Rahman Miah・福本淳一 (立命館大)

[リソース・システム]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5R会場 (1棟1階 112教室) 座長 井ノ上直巳 (ATR)
- E-038 N語連想を用いた単一文の概念化◎三瀬慶久・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-039 動詞連想概念辞書の構築とその応用◎寺岡丈博・石崎 俊 (慶大)
- E-040 含意・矛盾認識のための事象間関係知識の整備◎松吉 俊・村上浩司・松本裕治 (奈良先端大)・乾健太郎 (NICT)
- E-041 裁判員支援に向けた類似判例に基づく量刑可視化システムの提案○高丸圭一 (宇都宮共和大)・渋谷英潔 (横浜国大)・
 木村泰知 (小樽商科大)・松原雅文 (岩手県大)・Rafal Rzepka (北大)・村上浩司 (奈良先端大)
- E-042 裁判員支援に向けた新聞記事を対象とした刑事事件の性質に基づく量刑推定手法の提案
○松原雅文 (岩手県大)・木村泰知 (小樽商科大)・渋谷英潔 (横浜国大)・
 高丸圭一 (宇都宮共和大)・Rafal Rzepka (北大)・村上浩司 (奈良先端大)
- E-043 裁判員支援に向けた量刑推定に適した判例タグの構築○木村泰知 (小樽商科大)・渋谷英潔 (横浜国大)・
 高丸圭一 (宇都宮共和大)・松原雅文 (岩手県大)・Rafal Rzepka (北大)・村上浩司 (奈良先端大)

[音楽情報科学 (2)]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5S会場 (0棟1階 011教室) 座長 長嶋 洋一 (静岡芸術文化大)
- E-044 楽曲のグラフ表現◎杉山幸恵・河合博之 (函館高専)
- E-045 多重音の基本周波数評価尺度の最小値選択による実時間高音・音源数推定の試み
◎宮坂広純・松島俊明・小田弘良 (東邦大)
- RE-001 周波数スペクトルの谷状点に基づく和音推定◎蔵内雄貴・松原正樹・大野将樹・斎藤博昭 (慶大)
- E-046 ウェブレット変換を用いたユーザの嗜好に基づく楽曲推薦システム◎田仲雅和・○吉富康成 (京都府大)
- E-047 生音源を使った現在演奏位置解析システム◎大日野舞・森 雅智・金澤貴俊・徳田英幸 (慶大)
- E-048 ライブ演奏への応用を目的とした音楽情報アラインメントの特徴量別精度検証◎佐藤博志・村岡洋一 (早大)

[意味解析]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6Q会場 (1棟1階 111教室) 座長 中川 哲治 (NICT)
- E-049 Folksonomyにおけるタグ語の意味的階層関係の抽出○杉本 徹 (芝浦工大)・五十嵐幹 (北陸銀行)
- E-050 動詞の意味情報を用いた代名詞の指示対象の推定法○上條敦史・石川 勉 (拓大)
- E-051 算数問題のような数量の論理関係を含む質問文の意味理解と解決
◎阿部一貴・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-052 テキスト情報の事実性解析◎森田 啓・佐尾ちとせ・松吉 俊・松本裕治 (奈良先端大)・乾健太郎 (NICT)
- E-053 言論マップ生成のための事象間類似・対立関係の認識
○村上浩司・松吉 俊・増田祥子・松本裕治 (奈良先端大)・乾健太郎 (NICT)
- E-054 常識を持つコンピュータの実現に向けた常識的道具判断システムの構築
◎宮柳皓介・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-055 Annotating Semantic Structure of Web Text based on CDLnl
◎ユイラン イェン・松尾 豊・石塚 満 (東大)・横井俊夫 (東京工科大)

[Web (2)]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6R会場 (1棟1階 112教室) 座長 木村 泰知 (小樽商科大)
- E-056 因果関係を用いたユーザ入力文から感情情報の推測◎施 文翰・ラファウ ジェブカ・荒木健治 (北大)
- E-057 話し言葉文章からの感情抽出と文章修飾による感情伝達の効果について◎鈴木 聡・平山正治 (大阪工大)
- E-058 評判情報の素性による信頼性の推定◎福田雅志・佐藤 和・太原育夫 (東理大)
- E-059 単語間の関係に基づく Web 文書クラスタリング◎仁科朋也・内海 彰 (電通大)
- E-060 文書クラスタリングにおけるクラスタタイトルの自動生成◎黒田知宏・内海 彰 (電通大)
- E-061 Blogにおけるイベント体験情報の判別と抽出
○小林 聡 (電機大)・山田剛一 (電機大/JST-CREST)・絹川博之 (電機大)
- E-062 文章構造解析に基づく小論文の自動評価◎藤田 彬・田村直良 (横浜国大)

[コミュニケーション]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7Q会場 (1棟1階 111教室) 座長 松吉 俊 (奈良先端大)
- E-063 話者の個性・嗜好を考慮したコンピュータ会話処理◎吉岡孝治・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-064 ビクトグラムの了解性、記憶性、認識性の色彩デザイン依存性の検討
◎下江優太・小河幸次・濱本和彦・野須 潔 (東海大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

- E-065 過去会話の整合性に着目したコンピュータ会話における違和感の抽出
.....◎山本裕司・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-066 コールセンターのコールメモと通話を対象とした差分マイニング ◎田村晃裕・石川 開・安藤真一 (NEC)
- E-067 (講演取消)
- E-068 車内会話と運転行動の相互作用の分析による運転者モデルの検討 ◎佐藤絵里・間瀬健二・平野 靖・梶田将司 (名大)
- E-069 語の関連性に基づく内容語選択と文生成パターンの置換を用いた発話文生成
.....◎佐藤 和・福田雅志 (東理大)・延澤志保 (武蔵工大)・太原育夫 (東理大)
- E-070 振動パターンを用いた文章了解度◎喜納真里子・三神俊敏・管村 昇 (工学院大)

F 分野：人工知能・ゲーム (第2分冊)

[エージェント・学習]

- 9月2日 (火) 9:30 ~ 12:00 1A会場 (κ棟1階 κ11教室) 座長 藤田 悟 (法政大)
- F-001 探索的な水産資源獲得競争における自律性と利己性を維持した調整機構
.....◎菅野勇紀・斉藤啓介・三上貞芳・長野 章 (ほこだて未来大)
- F-002 改良型デジタル誤差逆伝搬法による2次元ベクトル量子化◎生駒 史・長沼秀典・大堀隆文 (北海道工大)
- RF-001 連続的な状態空間における複素強化学習◎有田秀彰・澁谷長史・濱上知樹 (横浜国大)
- F-003 (講演取消)
- F-004 重みつき類似度を用いたテキスト分類における判別モデルの改善◎板橋広和・松井藤五郎・大和田勇人 (東理大)
- F-005 AIR-NMSにおける汎用的I-AIRの設計 ◎Isha Bhalla・前田 哲 (東北大)・今野 将 (千葉工大)・木下哲男 (東北大)
- F-006 不完全知覚を含む環境におけるQ-learningの学習係数に関する一考察◎澁谷長史・濱上知樹 (横浜国大)

[複雑システム]

- 9月2日 (火) 9:30 ~ 12:00 1J会場 (ε棟1階 ε11教室) 座長 山下 倫央 (産総研)
- F-007 An Efficient Construction of RBF Network Based on First Layer Training by SOM
.....◎山下和彦・Chakraborty Goutam・水野佑治 (岩手県大)
- F-008 An Novel Soft Margin Classifier Using Genetic Algorithm◎水野佑治・Chakraborty Goutam・山下和彦 (岩手県大)
- F-009 機能の利用関係によるデジタル生命モデルの構築◎鈴木輝彦・太原育夫 (東理大)
- F-010 自発的に進化するバーチャルネットワーク環境の構築◎岡部 朗・門脇恒平・小坂隆浩・佐藤健哉 (同志社大)
- F-011 二次割当ての実問題におけるランダム選択と局所探索を導入したMAX-MIN Ant Systemの検討
.....◎石橋 賢・飯村伊智郎 (熊本県大)・中山 茂 (鹿児島大)
- F-012 ワイヤレスセンサネットワークにおけるAnt Colony Optimizationを用いた適応的経路探索
.....◎細川太輔・Chakraborty Goutam・馬淵浩司・松原雅文 (岩手県大)

[モバイル・ユビキタス]

- 9月2日 (火) 13:00 ~ 15:00 2A会場 (κ棟1階 κ11教室) 座長 大須賀昭彦 (電通大)
- F-013 携帯電話における情報閲覧支援のための情報編纂システムについて
.....◎大冢忠親・柿元宏晃・佐野博之・平田紀史・新谷虎松 (名工大)
- F-014 携帯電話向け情報編纂システムのためのパソコン用書類変換機構の試作
.....◎佐野博之・柿元宏晃・平田紀史・大冢忠親・新谷虎松 (名工大)
- F-015 携帯電話向け情報編纂システムのためのコンテンツ作成システムの試作
.....◎平田紀史・柿元宏晃・佐野博之・大冢忠親・新谷虎松 (名工大)
- F-016 カードモデルに基づく情報編纂システムを利用したレシビ検索システムの試作
.....◎柿元宏晃・佐野博之・平田紀史・大冢忠親・新谷虎松 (名工大)
- F-017 携帯電話とプログラマブルな小型センサデバイスによる簡易位置情報検出システムの試作
.....◎辻野孝孝・土井達也・中村正人・大冢忠親・新谷虎松 (名工大)
- F-018 プログラマブルな小型センサデバイスを用いた研究室位置情報管理システムの試作
.....◎土井達也・辻野孝孝・浅見昌平・大冢忠親・新谷虎松 (名工大)

[情報論的学習]

- 9月2日 (火) 13:00 ~ 15:00 2J会場 (ε棟1階 ε11教室) 座長 加藤 毅 (お茶の水女子大)
- F-019 文法推論に基づくlosslessデータ圧縮方法の開発 ◎Yudistira Bayu (山梨大)
- F-020 コルモゴロフ複雑性に基づく画像圧縮と分類に関する実験と考察 ◎齋藤高央・湊 真一・Thomas Zeugmann (北大)
- F-021 情報量と頻度に基づく系列データマイニングにおける非同期パターンの抽出と効率化
.....◎村田順平・岩沼宏治 (山梨大)・大塚尚樹 (山梨大/三洋電機)・鍋島英知 (山梨大)
- F-022 異常検出サポートベクトルマシン ◎藤巻遼平 (NEC)
- F-023 SQLインジェクション攻撃検知のためのアクセスログマイニング
.....◎広瀬俊亮・山形昌也・山西健司 (NEC)・岩井博樹 (LAC)
- F-024 情報拡散モデルに基づいた社会ネットワークのリンク予測◎瀧上晋太郎・木村昌弘 (龍谷大)・斉藤和巳 (静岡県大)

[統計・フィルタリング]

- 9月2日 (火) 15:30 ~ 17:30 3A会場 (κ棟1階 κ11教室) 座長 松原 繁夫 (京大)
- F-025 運転者の危険感受性を考慮した走行環境の階層型危険度推定法
.....◎大濱吉紘・國分三輝・高橋 新・内藤貴志 (豊田中研)
- RF-002 グラフィカルモデルを用いた物体概念モデル◎中村友昭・新地康人・長井隆行 (電通大)
- F-026 ネットワーク構造に基づいたミニブログの統計解析◎瀬戸秀隆・木村昌弘 (龍谷大)
- F-027 ペイジアンフィルタとユーザ認証を組み合わせたspamメールフィルタリング
.....◎遠山清人・松井藤五郎・大和田勇人 (東理大)

- F-028 協調フィルタリングにおけるデータの必要数の分析 ……………◎田村幸之介・松原 仁 (はこだて未来大)
 F-029 ペイジアンフィルタを利用した Web ページ推薦システム
 …………… ◎庭野正義・Kenneth James Mackin・永井保夫 (東京情報大)

[ゲーム・AI]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3J会場(ε棟1階 ε11教室) 座長 橋本 剛 (北陸先端大)
 F-030 CLib:リソース収集性向上を目的としたCGM構築方式 ……………○小林亜令(KDDI研)
 F-031 帰納論理プログラミングを用いた野球ダイジェスト制作システム ……○宮崎 勝・柴田正啓・八木伸行(NHK 技研)
 F-032 マルチエージェントシステムにおける多段的協調動作について ……………戸笈広大(コムニク)・吉原豪謙(ネクストウェア)・大瀧和哉(都立航空高専)・○吉村 晋(都産業技術高専)
 F-033 卓上ゲーム観戦システムII ……………◎下野哲郎・堀口文男(東洋大)
 F-034 エンターテインメントにおける映像酔い測定 ……………◎上田直角・早崎泰弘(東洋大)
 F-035 Evaluation Analysis of a Game-based and Instructional Designed Mobile Learning System
 ……………◎Firdaus Khalid・亀山 渉(早大)

[人工知能一般]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4A会場(κ棟1階 κ11教室) 座長 栗原 聡 (阪大)
 F-036 汎化性能を考慮したデジタル型誤差逆伝搬法 ……………◎長沼秀典・生駒 史・大堀隆文(北海道工大)
 RF-003 概念生成による創造的飛躍と創造的問題解決 ……………◎金盛克俊・太原育夫(東理大)
 F-037 自動メカニズムデザインによる架空名義入札に頑健な組合せオークションメカニズムの構築
 ……………◎大森由総・斎藤恭昌・岩崎 敦・横尾 真(九大)
 F-038 美術館における絵画配置システムの開発 ……………◎庄司 亮・佐藤貴之(仙台電波高専)
 F-039 モデル生成法を用いた極小モデル生成 ……………◎鹿田憲秀・長谷川隆三・藤田 博・越村三幸(九大)
 F-040 KeyGraphを用いた時系列における聖書の比較解析による考察 ……………◎新井智也・伊藤 誠(中京大)
 F-041 決定木学習を用いたWebトラスト形成支援 ……………◎柳澤大祐・八横博史・山口由紀子(名大)

[統計的学習]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4J会場(ε棟1階 ε11教室) 座長 樺島 祥介 (東工大)
 F-042 ノード重要度を考慮したグラフ分割構造の学習 ……………◎藤巻遼平・山西健司(NEC)
 F-043 計量学習を用いたユーザー意図学習システム ……………○門馬道也・森永 聡・河村大輔(NEC)
 RF-004 混合ディリクレ過程モデルを利用したARMAモデルベース時系列クラスタリング
 ……………◎鷲頭祐樹・末松伸朗・林 朗・岩田一貴(広島市大)
 F-044 強化学習におけるパラメータ設定に頑健な行動選択戦略 ……………◎小野兼嗣・岩田一貴・林 朗(広島市大)
 F-045 強化学習によるエコーキャンセラの制御戦略の獲得 ……………◎箱石直土・西山 清(岩手大)
 RF-005 確率環境下での優先度スweep ……………○鶴岡 久・田村剛士・山口明宏(福岡工大)
 F-046 Webアクセス遷移に基づいた優良顧客度スコアリング ……◎小阪勇気・広瀬俊亮・森永 聡・藤巻遼平・山西健司(NEC)

[マイニング]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5A会場(κ棟1階 κ11教室) 座長 市瀬龍太郎 (国立情報学研)
 RF-006 閾値関数による変化分析型アンサンブル学習を用いた商品・サービス普及予測
 ……………○藤原由希子・富沢伸行・井口浩人(NEC)
 F-047 イベント時系列マイニングを目的とする新聞記事からの時系列情報に基づく単語抽出
 ……………◎多田知道・岩沼宏治・鍋島英知(山梨大)
 F-048 回帰診断に基づく医療データの補間の検討 ……………◎中瀬正和・大崎美穂・片桐 滋・畑田由香利(同志社大)
 F-049 ブログ空間における情報伝搬パターンの分析 ……………◎伊藤政志・木村昌弘(龍谷大)・斎藤和巳(静岡県大)
 F-050 ペイジアンネットワークを表現するゼロサブレス型BDDの変数順序付けに関する実験と考察
 ……………◎磯松紘平・湊 真一(北大)
 F-051 SR法を利用した文書ストリームのホットトピック抽出 ……◎東野正行・木村昌弘(龍谷大)・斎藤和巳(静岡県大)

[ネットワーク科学]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5J会場(ε棟1階 ε11教室) 座長 福田 健介 (国立情報学研)
 F-052 単語の重要度と頻度を利用した局所探索に基づくWEBページ発見法 ……………◎上條朋彦・栗原正仁(北大)
 F-053 二部グラフにおけるクラスタリングアルゴリズムの比較 ……………◎原田恵雨・鈴木育男・山本雅人・古川正志(北大)
 F-054 ネットワークモデルを用いた異なるカテゴリ間の嗜好性の解析 ……◎山下 翔・古川正志・山本雅人・鈴木育男(北大)
 F-055 (講演取消)
 F-056 ネットワーク間狭小性に基づくネットワークの時系列解析 ……◎森岡 淳・古川正志・山本雅人・鈴木育男(北大)
 RF-007 センサー間の隣接関係の自動推定の高精度化 ……………◎高橋謙輔・菅原俊治(早大)

G 分野：生体情報科学 (第2分冊)

[バイオと医用画像]

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1E会場(κ棟1階 κ17教室) 座長 田口 善弘 (中央大)・増谷 佳孝 (東大)
 RG-001 概念階層を用いたタンパク質構造・機能情報に基づく関連文献検索支援システムの構築
 ……………◎藤本 亮・宮西一徳・尾崎知伸・大川剛直(神戸大)
 G-001 過去の情報を用いた脳内信号源の追跡 ……………◎川井貴文・堀 潤一(新潟大)
 G-002 ウェブレットによる脳波信号の雑音成分導出法 ……………◎冀 玉涛・呂 建明(千葉大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

- G-003 ガン自動診断支援システムにおける delayed scan による鑑別能力の向上
 ◎ THUY HONG HOANG・佐藤貴子・有澤 博 (横浜国大)
- RG-002 背景成分推定法を用いた網膜血管酸素飽和度計測 ○吉永幸靖・山根 大・末田 聡・松岡 昇・中村大輔・岡田龍雄 (九大)・館 眞利 (ワイズ・ソリューション)・江内田寛 (九州医療センター)・石橋達朗 (九大)
- G-004 暗視野画像を利用した肝病理組織標本からの線維と核位置の抽出
 ◎木谷拓也・高橋正信 (芝浦工大)・中野雅行 (東京女子医大)
- G-005 虹彩認証の回転変化が及ぼす個人認証への影響 ◎西沢和夫・川嵩 剛・高野博史・中村清実 (富山県大)
- G-006 2次元オブジェクトの変形の一方法 ◎嶋田憲史・田村信介・柳瀬龍郎 (福井大)

[医用生体工学]

- 9月3日 (水) 9:30～12:00 4E会場 (κ棟1階 κ17教室) 座長 内山 孝憲 (慶大)
- G-007 音源定位能への視覚と平衡感覚の影響を解析できる音響実験装置の開発
 ◎脇田賢吾 (富山県大)・二口 聡 (金沢星稜大)・高野博史・中村清実 (富山県大)
- G-008 非接触型目入力装置のための AR モデルを用いた目位置予測 ◎畑 昭彦・高野博史・中村清実 (富山県大)
- G-009 脳波に基づく嗅覚刺激に対する生体反応評価の基礎的研究
 ◎熊谷庸之・秋山悠介・沖田善光・高橋 勲・平田 寿・杉浦敏文 (静岡大)
- G-010 看護技術動作における腰部のひねりと表面筋電図の関係 ○前川泰子・汐崎 陽・真嶋由貴恵 (大阪府大)
- RG-003 非接触呼吸計測を用いた漸増負荷試験による換気性作業閾値決定の試み
 ○青木広宙・市村志朗・清岡 智・越地耕二 (東理大)
- G-011 3次元光散乱体の光パルス伝搬解析精度の検討 ◎熊沢秀幸・藤原昇平・谷藤忠敏 (北見工大)
- G-012 時間領域拡散光トモグラフィによるヒト脳光学パラメータ推定 ◎小林 彰・川崎世紀・谷藤忠敏 (北見工大)

[ニューロコンピューティング]

- 9月3日 (水) 15:30～17:30 5E会場 (κ棟1階 κ17教室) 座長 池田 和司 (京大)
- G-013 相互情報量フィルタリングを用いた遺伝的アルゴリズムによる特徴選択 ◎小田原平・森康久仁・松葉育雄 (千葉大)
- G-014 分割最適化クラスタリングの階層的可視化 ◎桑原 俊・森康久仁・松葉育雄 (千葉大)
- G-015 海馬 CA1 の dendrite に沿った情報処理メカニズム ◎近藤将史・池田良輔・福島康弘・塚田 稔・相原 威 (玉川大)
- G-016 海馬 CA1 ニューロンにおけるシナプス入力による逆伝播活動電位への影響
 ◎興石健一 (玉川大)・吉田典弘 (相模女子大)・相原 威 (玉川大)
- G-017 海馬 CA3 の空間・時間選択性の相互作用による T 字迷路課題を想定したループ時系列の曖昧性解消
 ◎佐村俊和 (慶大)・服部元信 (山梨大)・菊地進一・石崎 俊 (慶大)
- G-018 LoG フィルタを用いた AEH モデルによる人物顔認識 ◎山崎勇樹・高野博史・中村清実 (富山県大)

H 分野：画像認識・メディア理解（第3分冊）

[文字・文書画像解析]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2B会場(κ棟1階 κ12教室) 座長 井手 一郎(名大)
- H-001 印刷文書の改ざん検出に適用可能な特徴抽出方式に関する考察 ……○高橋由泰・山田隆亮・洲崎誠一(日立)
- H-002 超解像処理を用いた低解像度文字の認識 ……○大倉 直(名大)・高橋友和(岐阜聖徳学園大)・井手一郎・村瀬 洋(名大)
- H-003 信号面積の多値化による電子透かし画像の情報量改善 ……○和田真宏・堀内隆彦・斎藤一・富永昌治(千葉大)
- H-004 文字区間の不明瞭な空中手書き文字の認識 ……○中井 満・小田川佳樹・櫻本正人(富山県大)
- H-005 文字構造を利用した筆順探索の高精度化 ……○鈴木 綾(富山県大)
- H-006 (講演取消)

[映像解析(1)]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2H会場(κ棟2階 κ23教室) 座長 大谷 淳(早大)
- H-007 検索技術を使う新しいテレビ視聴スタイル CurioView ……○柴田正啓・住吉英樹・藤井真人・八木伸行(NHK 技研)
- H-008 ショット毎の登場人物の把握に適した代表画像抽出・閲覧システムの構築 ……○石川真澄・大網亮磨(NEC)
- H-009 高信頼動き推定に基づくショット切り替え検出および多種類切り替え効果の認識 ……○茂呂駿介・青木恭太(宇都宮大)
- H-010 権利クリアランス支援に向けたクレジット情報閲覧画面の提案 ……○間瀬亮太・大網亮磨(NEC)
- H-011 メタデータ制作フレームワーク(第2版)～データモデルとAPI機能の拡張～
……………○住吉英樹・佐野雅規・八木伸行(NHK 技研)
- H-012 映像/音響ジングルの検出に基づくトピック分割 ……○岩元浩太・大網亮磨(NEC)

[画像検索・分類]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3B会場(κ棟1階 κ12教室) 座長 嶋 好博(明星大)
- H-013 ユーザニーズに応じた距離空間によるハイパスベクトル画像の分類 ……○稲垣佑哉(北大)・石村康生(宇宙航空研究開発機構)・和田充雄(北大)・佐鳥 新(北海道工大)
- H-014 絵画画像の類似検索方式の実験的研究 ……○桑原貴昭・桂川 陽・宮本康正・田方一樹・周東 晃・嶋 好博(明星大)
- H-015 Enabling Diversity in Image Retrieval Task using Clustering Approach with Commonsense Knowledge
……………○Supheakmungkol SARIN・Wataru KAMEYAMA(早大)
- H-016 On Reducing Dimensionality of Dissimilarity Representation ……○Sang-Woon Kim・Jian Gao(Myongji University)
- H-017 医師のフィードバックに基づく胃生検画像の検索のための特徴量生成手法の検討
……………○上野智史・橋本真幸・小池 淳(KDDI 研)・三代川齊之・吉田晃敏(旭川医大)

[映像解析(2)]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3H会場(κ棟2階 κ23教室) 座長 北澤 仁志(農工大)
- H-018 野球中継番組におけるダイジェスト映像自動生成 ……○小方善貴・中村大輔・片岡充照・黒木修隆・沼 昌宏(神戸大)
- H-019 テクスチャ特徴を利用した動物番組からの被写体抽出に関する検討 ……○河合吉彦・住吉英樹・八木伸行(NHK 技研)
- H-020 排他的ブロックマッチングによる移動カメラ映像中の目標物の探索 ……○李 竹・藪田顕一・北澤仁志(農工大)
- H-021 階層隠れCRFによるスポーツ映像のセグメンテーション ……○玉田寛尚・林 朗(広島市大)
- H-022 相撲動画におけるトランジション検出の一手法 ……○齋城嘉孝・佐藤隆太郎・土屋祐太・嶋 好博(明星大)

[画像解析基礎]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4B会場(κ棟1階 κ12教室) 座長 堀内 隆彦(千葉大)
- H-023 局所特徴の相対位置情報を用いたカテゴリ識別 ……吉村功二・○堀田一弘・高橋治久(電通大)
- H-024 アクティブセグメンテーション法：2つの隣接する窓間における類似度の下限に基づく信号分割の高速化手法
……………○大盛善啓(東芝)
- H-025 スケール不変な曲線特徴に関する検討 ……○河村 圭・石井大祐・渡辺 裕(早大)
- H-026 エッジ方向を利用したハフ変換による直線抽出法の検討
……………○関 靖夫・山内俊明(神奈川工科大)・小山祐紀(日本システム開発)
- H-027 近接アレイ型マルチスペクトルカメラの構成 ……○島崎裕太・北澤仁志(農工大)
- H-028 遺伝的アルゴリズムにおけるシステムパラメータの考察 ……○吉田将司・富川武彦(神奈川工科大)
- H-029 Study of Optimizing the Parameters in the Weighted Histogram Equalization for Stereoscopic Enhancement
……………○Xiao Ding・Jun Ohya・Takashi Kawai・Nobuaki Abe(早大)

[顔画像解析]

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4H会場(κ棟2階 κ23教室) 座長 高野 博史(富山県大)
- H-030 Eigenphase of Local Normalized Image ……○Jesus Olivares-Mercado・堀田一弘・高橋治久(電通大)・Hector Perez-Meana(National Polytechnic Institute of Mexico)
- H-031 平均顔表情画像の相関係数に基づく男女の認識方法
……………○石井壮一郎・西村優一・三橋理恵・齋城嘉孝・原 和規・嶋 好博(明星大)
- H-032 手持ちカメラで取得した顔動画からの個人認証の一検討
……………○森住祐介(東工大)・松尾賢治(KDDI 研)・久保田彰・羽島好律(東工大)
- H-033 局所探索法を用いた目周辺特徴チェックの最適化 ……○宮崎翔太・高野博史・中村清実(富山県大)
- H-034 平均顔画像の相関法による顔表情認識 ……○西村優一・石井壮一郎・周東 晃・田方一樹・嶋 好博(明星大)
- H-035 フォトアルバムのための人物仕分けシステムに関する一検討 ……○釜口久史・梶川嘉延(関西大)
- H-036 モーション特徴を用いた顔認証システムのための顔位置補正法に関する一検討 ……○佐々木大輔・梶川嘉延(関西大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

【画像解析応用】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5B会場(κ棟1階 κ12教室) 座長 森本 雅和(兵庫県大)
- H-037 メッシュ・テンプレートをを用いた色と形の同時判定による道路標識の高速検出 ……………◎青木裕太(電機大)・安西俊孝(ザナヴィ・インフォマティクス)・篠崎眞太郎・中島克人(電機大)
- H-038 過去の車載カメラ映像との差分による前方車両の検出 ……………◎久徳遙矢(名大)・高橋友和(岐阜聖徳学園大)・目加田慶人(中京大)・井手一郎・村瀬 洋(名大)
- H-039 金属加工品上の異種欠陥の同時自動検出に関する検討 ……………◎黒川健太・森本雅和・藤井健作(兵庫県大)
- H-040 複比を用いた複数車線検出に関する検討 ……………◎谷 誠一・河村 圭・渡辺 裕(早大)
- H-041 車載ステレオカメラシステムによる3次元情報を利用した歩行者検出の検討 ……………◎服部圭悟・青木孝文(東北大)
- H-042 ステレオ視を利用した識別器に基づく歩行者認識 ……………◎松島宏典・千場浩平・江崎昇二(久留米高専)・胡 振程・内村圭一(熊本大)

【人物画像処理】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5H会場(κ棟2階 κ23教室) 座長 平野 靖(名大)
- H-043 シルエット特徴量のテンソル分解に基づく動画像から人物の動作認識手法の検討 ……………◎堀 隆之(早大)・樹沢 順(千葉商科大)・大谷 淳(早大)
- H-044 平均値シフト法を用いた複数人物追跡 ……………◎小田慧介(九産大)・佐藤元紀(明和eテック)・米元 聡(九産大)
- H-045 Coupled HMMを用いた複数人の行動モデリング ……………◎宋 海俊・平野 靖・梶田将司・間瀬健二(名大)
- H-046 アクティブRFIDリーダーとマルチカメラを用いた追跡手法 ……………◎日高由量・石寺永記(NEC)
- H-047 年齢による歩行モーションデータの自動生成手法 ……………◎新井隆文・高橋時市郎(電機大)
- H-048 Interpretation of Human Action in Daily Life Scene based on Action Decomposition using Terms in Dictionary ……………◎Juanda Lokman・今井順一・金子正秀(電通大)

【画像認識・物体検出】

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6B会場(κ棟1階 κ12教室) 座長 今井 順一(電通大)
- H-049 文脈情報を用いた対象検出のための事前確率の推定 ……………◎鈴木有紀・◎堀田一弘・高橋治久(電通大)
- H-050 条件付確率場を用いた顕微鏡画像からのアスベスト検出 ……………◎森口慶崇・堀田一弘・高橋治久(電通大)
- H-051 尤度ベースの背景モデルを用いた物体検出手法 ……………◎池田浩雄・石寺永記(NEC)
- H-052 画像認識による物体の軌跡取得を用いたユーザインタフェース ……………◎曾原寿允・堀 幸雄・今井慈郎(香川大)
- H-053 領域抽出を利用した一般物体認識に関する研究 ……………◎伊東靖簡・猿田和樹・寺田裕樹・武田和時(秋田県大)
- H-054 スパース空間における情報統合によるロバスト画像照合 ……………◎永井淑朗・川上 肇(龍谷大)
- H-055 ロバストLS-SVMによる雑音環境下での画像照合 ……………◎齋藤 登(龍谷大)

【3次元解析】

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6H会場(κ棟2階 κ23教室) 座長 西尾 孝治(大阪工大)
- H-056 Level Set Methodを用いた電子顕微鏡断面層像の3次元可視化に関する研究 ……………◎山下主税・竹林佑介・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- H-057 ガラスを対象にした受動式位置・形状計測手法の検討 ……………◎伊藤 稔・◎上野健司・吉場拓也(工学院大)
- H-058 光路分析に基づく直接カメラ校正法 ……………◎小川なつき・伊藤 稔(工学院大)
- H-059 位相差スペクトルイメージによるマイクロホンと音源間の距離推定 ……………◎霜山竜一・山崎 憲(日大)
- H-060 エビテラゼ固定支援のための顔の時系列形状復元 ……………◎西田武司・池田 聖・井村誠孝(奈良先端大)・安室喜弘(関西大)・眞鍋佳嗣・千原國宏(奈良先端大)
- H-061 イメージラスタから任意視点画像生成 ……………◎巴因斯仁・土橋宜典・山本 強(北大)
- H-062 複数カメラ画像からの色分け衣服装着人物の3次元姿勢推定についての検討 ……………◎岡崎 潤・大谷 淳(早大)

I分野：グラフィクス・画像(第3分冊)

【三次元計測】

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1K会場(ε棟1階 ε12教室) 座長 國田 豊(NTT)
- I-001 姿勢や表情変化にロバストである三次元顔認証システムの提案 ……………◎遠山泰弘・佐藤幸男・本田郁二(慶大)
- I-002 ビデオカメラと同期するストロボを用いた照度差ステレオ法・点光源モデルの導入 ……………◎高橋信一郎・安武 徹・松田一朗・伊東 晋(東理大)
- I-003 構造要素を用いた動的輪郭モデルによる3次元物体の輪郭抽出法 ……………◎小西勇人・坂本雄児(北大)
- I-004 FASTオペレータを用いた顔の3次元位置推定 ……………◎酒井人史・広瀬真一・松田一朗・伊東 晋(東理大)
- I-005 知能ロボットの自律移動のための実写からの位置・方位・速度の測定 ……………◎猪谷圭英・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- I-006 傾斜焦点面を用いた多重フォーカス画像による距離計測 ……………◎池岡 宏・浜本隆之(東理大)
- I-007 カラー格子を用いた三次元形状計測の高精度化 ……………◎山崎翔吾・吉川宣一(埼玉大)

【モデリング】

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1M会場(ε棟2階 ε21教室) 座長 小堀 研一(大阪工大)
- I-008 入力点密度を考慮した手書き線図形の近似表現 ……………◎上加世田暁・齊藤 剛(電機大)
- I-009 立体モデルの局所変形 ……………◎直江尚範・伊藤 誠(中京大)・古川 進(山梨大)
- I-010 様々な形態の屋根付き建物モデルの自動生成 ……………◎杉原健一(岐阜経済大)
- I-011 LODを利用した3Dモデルの効率的なキャラクターアニメーションの生成法 ……………◎藤井洋佑・土橋宜典・山本 強(北大)
- I-012 流体解析に基づくユーザの意図を反映したセル状の雲の生成法 ……………◎楠元克敏・土橋宜典・山本 強(北大)
- I-013 衛星赤外画像を用いた広範囲の巻雲のモデリングシステムの開発 ……………◎濱 大輔・土橋宜典・山本 強(北大)

- I-014 情報量削減を目的とした点群モデルの情報変換 ○西尾孝治・竹林佑介（大阪工大）・手島裕詞（静岡理工科大）・金谷孝之（広島国際大）・小堀研一（大阪工大）

【画像符号化 (1)】

- 9月2日 (火) 9:30～12:00 1N会場 (ε棟2階 ε22教室) 座長 高村 誠之 (NTT)
- I-015 整数型 WT とブロック適応予測を用いた画像の段階的可逆符号化 ○上田直之・松田一朗・伊東 晋 (東理大)
- I-016 フレーム展開による画像の不確定性符号化に関する検討 ○石川孝明・渡辺 裕 (早大)
- I-017 ブロックソートの画像圧縮への応用に関する検討 ○鈴木正人・三浦康之・小林 学・渡辺重佳 (湘南理工大)
- I-018 動き補償された複数のフレームを用いる適応挿入フィルタの検討 ○中島勝己・高松 慶・松田一朗・伊東 晋 (東理大)
- I-019 変換サイズ拡大による平坦領域画質改善の検討 ○猪飼知宏・山本智幸 (シャープ)
- I-020 挿入符号化による B ピクチャ符号化方式の検討 ○原部智哉・羽島好律・久保田彰 (東工大)
- I-021 動き情報を用いたビットストリームパターン推定による Flash Video の Multiple Description 符号化 ○倉石卓也・牧野正三・伊藤彰則・伊藤 仁 (東北大)・鈴木基之 (徳島大)

【画質】

- 9月2日 (火) 13:00～15:00 2K会場 (ε棟1階 ε12教室) 座長 川田 亮一 (KDDI研)
- I-022 円周配置多眼画像からの視線一致画像の合成と高精細化 ○横山あみ・久保田彰・羽島好律 (東工大)
- I-023 任意の画質制御が可能な MPEG ビデオスクランブル ○豊田陽介・菅野 勝・宮地悟史・米山暁夫 (KDDI 研)
- I-024 動画コンテンツにおける「飽きる」要因の一考察 ○二宮利仁 (電機大)・山本 陵 (マコト印刷)・須田和宏 (コスモプリント)・益田清乃 (大塚商会)・鉄谷信二 (電機大)
- I-025 動きベクトルの変更による動画スクランブル技法の画質制御に関する考察 ○宮川健太郎・姜 錫・坂本雄児 (北大)
- I-026 赤外線サーモグラフィのための超解像手法 ○幸田真和・黒木修隆・沼 昌宏 (神戸大)
- I-027 B スプライン補間を用いた画像拡大法の改善 ○江上勝大・本田郁二 (慶大)

【レンダリング】

- 9月2日 (火) 13:00～15:00 2M会場 (ε棟2階 ε21教室) 座長 齋藤 剛 (電機大)
- I-028 ボリュームレンダリングを用いたエネルギー波のリアルタイム形状変形 ○阿部雅樹・渡辺大地 (東京理工大)
- I-029 点群データを用いた点描レンダリング ○粟野直之・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)
- I-030 点群データからイラストコンテンツ生成のための特徴抽出 ○手島裕詞 (静岡理工科大)・金谷孝之 (広島国際大)・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)
- I-031 大域照明におけるファールのリアルタイムレンダリング ○山田大輔・山本 強・土橋宜典 (北大)
- I-032 Video Texture を用いた動的な雲の高速レンダリング ○江口千央・山本 強・土橋宜典 (北大)
- I-033 雲や煙などの不定形物のセル画調レンダリング ○黒田祐介・土橋宜典・山本 強 (北大)

【画像処理】

- 9月2日 (火) 13:00～15:00 2N会場 (ε棟2階 ε22教室) 座長 八島 由幸 (NTT)
- RI-001 撮影光学系の取差にロバストな直線的画像ブレ推定法 ○江野口章人 (ジェネシア)・中須賀真一 (東大)
- RI-002 CFA Interpolation using Unified Geometry Map ○Yuji Itoh (Texas Instruments Japan Limited)
- I-034 Study of Detecting Primitive Shapes by Local Optimization Method ○謝 英弟・大谷 淳 (早大)
- I-035 デザイン支援のための空間的な色分布を考慮した再配色法 ○南葉宗弘 (東京学芸大)
- I-036 重みの空間分解による高速反復バイラテラルフィルタ 常 セン・○井上光平・浦浜喜一 (九大)
- I-037 エントロピー均等化によるパノラマ画像の横幅縮小 ○井上光平・浦浜喜一 (九大)

【画像とマッピング】

- 9月2日 (火) 15:30～17:30 3M会場 (ε棟2階 ε21教室) 座長 土橋 宜典 (北大)
- I-038 Annular Histogram を利用したサンプル画像提示にもとづく自動配色法 ○大原良介・南葉宗弘 (東京学芸大)
- I-039 環境条件の変更可能なイメージベースアニメ背景画像生成 ○金崎良太・柏崎礼生・高井昌彰 (北大)・高井那美 (北海道情報大)
- I-040 アニメキャラクターの特徴抽出に基づくアニメ度評価とその応用 ○河谷大和・柏崎礼生・高井昌彰 (北大)・高井那美 (北海道情報大)
- I-041 テクスチャ付き 3DCG モーフィングのための UV マップ調整手法 ○飯田英輔・渡辺大地 (東京理工大)
- I-042 パンプマッピングを用いた写真に揺らめき表現を付加した動画生成法 ○森 智美・坂本雄児 (北大)
- I-043 2D 動画クエリによる TVM 検索のための特徴量の検討 ○葛西大佑・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

【動画処理】

- 9月2日 (火) 15:30～17:30 3N会場 (ε棟2階 ε22教室) 座長 筒口 拳 (NTT)
- I-044 コーナーテロップを用いたテレビ番組の構造化 ○山本晃司・高山俊輔・青木 恒 (東芝)
- I-045 ラインとカメラアングルの離散的探索によるサッカー選手配置高速取得法 ○望月貴裕・藤井真人・柴田正啓・八木伸行 (NHK 技研)・酒井善則 (東工大)
- RI-003 サッカー選手配置取得のための選手追跡と選手認識の確率的統合法 ○三須俊枝・松井 淳・Simon Clippingdale・藤井真人・八木伸行 (NHK 技研)
- I-046 ビデオサムネイルのマンガ風効率の配置法に関する一検討 ○明堂絵美・高木幸一・米山暁夫 (KDDI 研)
- I-047 色分布を用いた動的輪郭モデルによる実時間移動体追跡 ○田中良平 (岡山県大)
- I-048 陰影の変動に頑健な屋外広域監視システム ○齊木信仁・青木恭太 (宇都宮大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[キャラクターアニメーション]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5M会場(ε棟2階 ε21教室) 座長 栗山 繁 (豊橋技科大)
- I-049 3Dキャラクターアニメーション作成支援のための人物動作推定
.....◎水野克哉・柏崎礼生・高井昌彰(北大)・高井那美(北海道情報大)
- I-050 感情を付加した動作の生成◎東 路子・竹林佑介・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- I-051 部位の接合に基づく動作生成◎竹林佑介・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- I-052 姿勢変位量の特徴抽出に基づく動作データの高速検出◎浜田祐一・栗山 繁・向井智彦(豊橋技科大)
- I-053 モーションデータの編集および補間◎木平大介・齊藤 剛(電機大)
- I-054 簡略化表現を用いた、アニメ調3DCGの視認性向上手法◎地神知哉・渡辺大地(東京工科大)

[画像符号化(2)]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5N会場(ε棟2階 ε22教室) 座長 甲藤 二郎 (早大)
- RI-004 ブロック歪みを考慮した時空間コントラスト感度特性に基づくH.264/AVC符号化器設計
.....◎坂東幸浩・早瀬和也・高村誠之・上倉一人・八島由幸(NTT)
- I-055 疑似ローカルデコード画像を用いたH.264/AVCイントラ予測モード選択
.....◎中村克行・齋藤昇平・横山 徹(日立)・望月誠二・柴山哲也・岩田憲一(ルネサステクノロジ)
- RI-005 メディアン予測の最適制御に基づくMPEG-4 AVC/H.264動きベクトル予測の性能改善
.....◎吉野知伸・内藤 整・水澤茂之・小池 淳(KDDI研)
- I-056 JPEG/H.264トランスコーダにおけるイントラ予測モード決定手法
.....◎草野勝大・工藤大樹・西川博文・和田 稔・加藤嘉明(三菱)
- I-057 動き補償サイズ選択率適応制御に基づくMPEG-2/H.264トランスコーダの高速化◎望月厚志・児玉知也(東芝)
- I-058 高階調信号に対する映像符号化方式の基礎検討◎山田悦久・井須芳美(三菱)

[コンピュータ・ビジョン]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6K会場(ε棟1階 ε12教室) 座長 内海 章 (ATR)
- RI-006 特徴点を用いた投影画像の幾何補正手法の性能評価◎高橋 徹・沼 徳仁・青木孝文(東北大)・近藤敏志(松下電器)
- I-059 無限遠点を利用した一枚の画像からの正面化画像の生成◎浜田綾人・光本浩士(大阪電通大)
- I-060 高信頼動き推定方式に基づくショット切り替え検出と切り替え効果認識◎青木恭太(宇都宮大)
- I-061 パーティクルの初期配置のための背景更新の自動化
.....◎圓田直樹・藤川拓也(中部大)・福井真二(愛知教育大)・岩堀祐之(中部大)
- I-062 被写体形状を考慮したフラクタル輪郭抽出法◎飯島哲也・本田郁二(慶大)
- I-063 顔認証における前処理の検討◎栗田 進・富川武彦(神奈川工科大)
- I-064 複数の外乱に対するロバスト性を考慮した静止物体検出方法
.....◎山下勝也(NTT東日本)・磯 和之・秦泉寺久美・新井啓之・小島 明・仲澤 齊(NTT)

[エンタテインメントコンピューティング]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6M会場(ε棟2階 ε21教室) 座長 齋藤 英雄 (慶大)
- I-065 「メディアアート」の定義および分類に関しての一考察◎津久井めぐみ・高田明典(フェリス女学院大)
- I-066 商品パッケージ画像の訴求構造分析手法の提案-娯楽制作物の訴求構造分析の一事例として-
.....◎竹野真帆・高田明典(フェリス女学院大)
- I-067 娯楽制作物の訴求構造抽出のための物語構造分析手法の提案
.....◎水越詩緒莉(茨城大)・高田明典(フェリス女学院大)・林 延哉(茨城大)
- I-068 (講演取消)
- I-069 複数カメラによる実世界マーカ読み取り補完システム◎宮寺和彦(電機大)・岩井将行・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- I-070 ガイドライン提示によるポケットビリヤード支援◎高橋正信・葛西孝将・鈴木洋輔(芝浦工大)
- I-071 時空間画像による長時間動画画像の特徴抽出◎磯部俊一・齊藤 剛(電機大)

[透かし]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6N会場(ε棟2階 ε22教室) 座長 越前 功 (国立情報学研)
- I-072 スペクトル分解領域での周期的埋め込み法を用いた3次元モデル用電子透かし方式に関する一検討
.....◎井上清太・小田 弘(電通大)
- I-073 JPEG画像に対する多重化した電子透かしの評価◎玉井悠揮・川村正樹(山口大)
- RI-007 拡散符号を用いた情報隠蔽技術におけるマルチ復号法◎仙田和丈・川村正樹(山口大)
- I-074 数論変換を用いた改ざん検出可能な非対称電子透かし◎田森秀明・山本 強(北大)
- I-075 JPEG画像を対象とした改ざん箇所への復元可能な電子透かし法◎堀 友樹・汐崎 陽・岩田 基・荻原昭夫(大阪府大)
- I-076 ガボールフィルタを用いた人間の視覚特性に基づく電子透かしの埋め込み強度の制御
.....◎金谷智雄・岩田 基・荻原昭夫・汐崎 陽(大阪府大)
- I-077 幾何学的変化と結託攻撃に耐性を持たせた電子透かし法◎田中香菜子・汐崎 陽・岩田 基・荻原昭夫(大阪府大)

[CG]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7K会場(ε棟1階 ε12教室) 座長 境田 慎一 (NHK技研)
- I-078 (講演取消)
- I-079 水溜りの映り込みと波紋を考慮したビルボードによる降雨情景表現手法
.....◎松原典子・安ベヌア友章・高橋時市郎(電機大)
- I-080 ビルボードを用いた落雷・雲内放電の表現法◎高橋健太郎・安ベヌア友章・高橋時市郎(電機大)
- I-081 スケッチ入力による効果線を用いた3Dモーション入力法の拡張◎森谷友昭・高橋時市郎(電機大)
- I-082 家屋モデルのUVテクスチャ自動展開と大規模な町並みの高速レンダリング
.....◎佐久間昭夫・安ベヌア友章・高橋時市郎(電機大)

- I-083 スケッチ入力によりカメラ制御できる絵コンテ作成システム …… ○浦辺一志・高橋時市郎・森谷友昭・金澤功尚 (電機大)
 I-084 パッチモデルを用いた計算機合成プログラムの高速計算法 …… ◎坂田裕辰・坂本雄児 (北大)
 I-085 IT活用による可視化情報数学教育の検討 - オブジェクト指向・スペクトル画像・e-Learning・コンピュータ創造ラボ -
 …… ○今井幸雄 (東海大)

【画像復元】

9月4日(木) 13:00～16:00 7N会場(ε棟2階 ε22教室) 座長 久保田 彰 (東工大)

- I-086 細断文書画像のマッチングによる文書画像復元方法の研究
 …… ◎長元久幸・佐藤隆太郎・土屋祐太・周東 晃・嶋 好博 (明星大)
 I-087 Adoptive Order Statistic Filter Using Flat Pattern Detection for Removal of Impulse Noise from Highly Corrupted image
 …… 佐々木 蒼・○大塚友彦 (東京工業高専)
 I-088 固有空間 BPLP 法における固有空間の最適次元について …… ◎赤平浩規・田中 章・宮腰政明 (北大)
 I-089 時空間 Wavelet Shrinkage による高精細動画の雑音除去法の検討 …… ◎松尾康孝・西田幸博・合志清一 (NHK 技研)
 I-090 階層型 Brock Truncation Coding における擬似輪郭低減の提案
 …… ◎中村 翔 (東邦大)・坂無英徳・長木幸恵 (産総研)・古谷立美 (東邦大)・樋口哲也 (産総研)
 I-091 Total Variation に基づく画像雑音除去の高速化手法 …… ◎大谷宏文・平田健悟・黒木修隆・沼 昌宏 (神戸大)
 I-092 パターン類似度に基づく画像修復法の改善 …… ◎松島知也・本田郁二 (慶大)
 RI-008 カルマンフィルタを用いた劣化画像の復元手法 …… ◎北原俊一・田邊 造 (諏訪東理大)・
 古川利博 (東理大)・辻井重男 (情報セキュリティ大)

J 分野：ヒューマンコミュニケーション & インタラクション (第3分冊)

【データ管理】

9月2日(火) 13:00～15:00 2G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 大西 仁 (メディア教育開発センター)

- J-001 パソコン作業の画面キャプチャ記録に対するインデキシング …… ○細田真道・姜 力・西村 剛・池田 敬 (NTT 東日本)
 J-002 操作履歴に基づく目的を反映した電子ファイル整理 …… ◎寺井政文・田口 浩・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
 J-003 情報整理のための手動クラスタリングによる人の興味抽出 …… ◎樋口賢治・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
 J-004 メタデータによる映像コンテンツの再生制御 …… ◎加藤雅弘・森 靖英・廣井和重・親松昌幸・鳥羽美奈子 (日立)
 J-005 アドホック通信を用いたライブログ取得システムの検討 …… ◎澤田耕司・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

【コラボレーション】

9月2日(火) 15:30～17:30 3G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 片桐 恭弘 (はこだて未来大)

- J-006 時空を越えたコミュニケーションを実現する音声インタフェースの提案
 …… ◎田島大嗣・久保陽太郎・樽松 明・白井克彦 (早大)
 J-007 音声認識を利用した All for one 型多言語会議支援システム SAKIN の開発
 …… ◎井出美奈・吉野 孝 (和歌山大)・重信智宏 (NICT)
 J-008 共同翻訳のためのプロトコルと支援システムの開発 …… ◎森田大翼・石田 亨 (京大)
 J-009 言語グリッドを用いた三次元仮想空間における多言語チャットコミュニケーション支援システムの構築
 …… ◎池信克也・吉野 孝 (和歌山大)・重信智宏 (NICT)
 J-010 階層構造エージェントを用いた遠隔相談システムの提案 …… 松田量夫・○矢島敬士 (電機大)・澤本 潤 (岩手県大)

【ヒューマンコンピュータインタラクション】

9月3日(水) 9:30～12:00 4G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 青木 義満 (慶大)

- J-011 触力覚提示を利用する画像処理ツールに関する考察 …… ◎島本達也・賀川経夫・西野浩明・宇津宮孝一 (大分大)
 J-012 歴史画像閲覧システムにおける解説表示法の検討 …… ◎早野浩章・杉山 精 (芝浦工大)・
 安達文夫・鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館)・徳永幸生 (芝浦工大)
 J-013 絞込み条件の修正を支援する条件別件数視覚化手法の提案 …… ◎鈴木俊輔・仙田修司 (NEC)
 J-014 インターネット閲覧履歴の視覚化 …… ◎鈴木貴文・堀 幸雄・今井慈郎 (香川大)
 J-015 全体像を付加的に表示するインタフェースのユーザビリティ評価 …… ◎森口昌和・辰巳勇臣・旭 敏之 (NEC)
 J-016 リアルタイム遠隔コミュニケーションにおけるアウェアネス情報の対人許容レスポンス時間への影響
 …… ◎宮部真衣・吉野 孝 (和歌山大)
 J-017 ストレージ装置管理におけるユーザビリティ向上 …… ◎池田博和 (日立)

【ヒューマンコミュニケーション支援】

9月3日(水) 15:30～17:30 5G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 松田 昌史 (NTT)

- J-018 高精度屋内測位技術を活用したコミュニケーション支援システムの提案 …… ◎千原晋平・石井健一 (NEC)
 J-019 室内位置情報からの社会的関係の分析 …… ◎竹内啓顕・間瀬健二・梶田将司・平野 靖 (名大)
 J-020 運転者と同乗者間の認知的共同運転 - 危険予測教示を目的とした、路上注目点情報の共有 -
 …… ◎金田哲広・間瀬健二・梶田将司・平野 靖 (名大)
 J-021 The Prototype system of Prompter communication with handwriting and drawing functions …… ◎Li Jen Chen・
 Sven Forstmann・Jun Ohya (早大)・Shunichi Yonemura (NTT)・Yukio Tokunaga (芝浦工大)
 J-022 医療面接における非言語情報データ分析によるモチーフの発見 …… ◎澤本祐一・神山祐一・平野 靖・梶田将司・
 間瀬健二 (名大)・勝山貴美子 (大阪府大)・鈴木富雄 (名大)・山内一信 (藤田保健衛生短大)
 J-023 哀情報を活用する医療管理ネットワークの検討 …… ◎北村浩之・野地 保 (東海大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[表情・感情・感性]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6A会場(κ棟1階 κ11教室) 座長 大和田 茂(ソニー CSL)
- J-024 表情画像を用いた心理状態推定のパラメータの検討 ……○繁田亜友子・小池武士・黒川智哉・野須 潔(東海大)
- J-025 表情画像によるリアルタイム心理状態推定を用いたe-Learning支援システム
……………○小池武士・繁田亜友子・黒川智哉・野須 潔(東海大)・中川邦弘(東海ソフト開発)
- J-026 顔画像からの顔方向推定のための鼻検出法の比較検討 ……○唐 華斌・大谷 淳(早大)
- J-027 オプティカルフローとニューラルネットワークを用いた顔の動き情報検出
……………○井上真紀子・小田英介・伊藤 昭・寺田和憲(岐阜大)
- J-028 音声対話システム利用時における感情表出誘引性に関する考察 ……○宮島崇浩・菊池英明・樽松 明・白井克彦(早大)
- J-029 B-Spline 当てはめを用いた形状誇張空間の導入 ……○星野喬之・舟橋琢磨・藤原孝幸・奥水大和・秦野やす世(中京大)
- J-030 感性情報と時系列情報を導入した衣服の組合せ自動生成手法
……………○小杉涼夏・赤羽根隆広・木村紗耶香・海上 隆・荒井正之(帝京大)

[入カインタフェース]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 梶本 裕之(電通大)
- J-031 マルチモニタ環境のためのウィンドウへのカーソルジャンプによるポインティング法
……………○小笠原慧・小俣昌樹・今宮淳美(山梨大)
- J-032 Design of Myanmar Language Input Method for numeric keypad
……………○Hlaing Myint Oo・Katsuko T. Nakahira・Mikami Yoshiki(長岡技科大)
- RJ-001 Analysis on Four Directional Arrow Keys (4DAK) and Left, Right, Up, Down and Center (LRUDC) Button Text Input Interfaces for Myanmar Language ……○Kyaw Thu Ye・浦野義頼(早大)
- J-033 キーボード上での指の動きによるマウス機能 ……○及川隼人・高橋正信(芝浦工大)
- RJ-002 ディスプレイベゼル上の付箋紙画像認識によるタスク管理インタフェースの実現 ……○水戸祐介・高井昌彰(北大)
- J-034 知的照明システムのための携帯電話を用いたユーザインタフェース ……○鍋藤克敏・三木光範・廣安知之(同志社大)
- J-035 HMDのための眼球運動を用いた非接触入力装置の開発 ……○兼松真志・高野博史・中村清実(富山県大)

[ヒューマン情報処理]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7A会場(κ棟1階 κ11教室) 座長 朝倉 暢彦(金沢工大)・西野由利恵(NICT/ATR)
- J-036 Video Content Analysis from Viewer's Perspective based on Pupil Size and Gazing Point
……………○Kok Meng Ong・Wataru Kameyama(早大)
- J-037 複数カメラの観測統合による広範囲な顔・視線計測
……………○浅野 慧・永末 剛・竹村憲太郎・松本吉央・高松 淳・小笠原司(奈良先端大)
- J-038 口の動きによる低周波生体電気信号を用いたインタフェースの開発 ……○岩下輝彦・堀 潤一(新潟大)
- RJ-003 無線加速度センサを用いた頭部運動の計測 ……○森本泰子・西野隆典・宮島千代美・北岡教英・武田一哉(名大)
- J-039 色と形の情報処理過程における脳の左右差の検討
……………○野々山俊男・西平幸史・沖田善光・高橋 勲・平田 寿・杉浦敏文(静岡大)
- RJ-004 脳波個人識別に向けた脳波形の特異性と再現性の評価 ……○唐山英明・廣瀬通孝(東大)
- J-040 知的照明システムを用いた実業務環境における最適な照度
……………○戸松祐太・三木光範・廣安知之・田中慎吾・吉形允晴(同志社大)
- J-041 照度・色温度可変型知的照明システムを用いた実業務空間における最適な光環境
……………○三木光範・廣安知之・○富島千歳(同志社大)
- J-042 特殊環境光下における文字配色の視認性の評価 ……○辰巳勇臣・池上輝哉・平松健司・福住伸一(NEC)

[コミュニケーションロボット]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7G会場(κ棟2階 κ22教室) 座長 西尾 修一(ATR)・篠沢 一彦(ATR)
- J-043 時空間画像データ構造を用いた情報保障ロボットビジョンシステム ……○鍵山泰尋・塩瀬隆之・川上浩司・片井 修(京大)
- J-044 人間/ロボット間のコミュニケーションにおける相互引き込み制御の評価
……………○向井謙太郎・寺本佳生・宮脇健三郎・佐野睦夫(大阪工大)
- J-045 コミュニケーションエージェントの感情表出に関する基礎的検討
……………○速水達也・高橋直也・木村勇輝・宮脇健三郎・佐野睦夫(大阪工大)
- J-046 コミュニケーションロボットにおける会話参加モデルの検討 ……○山本大輔・宮脇健三郎・佐野睦夫(大阪工大)
- RJ-005 コミュニケーションロボットの印象制御のためのジェスチャ変形手法 ……○中川佳弥子(阪大/ATR)・篠沢一彦(ATR)・石黒 浩(阪大/ATR)・萩田紀博(ATR)
- J-047 自律ロボットのしぐさが与える行動理解のための調査 ……○小田桐良一(園田学園女子大)
- RJ-006 Scaffolding(足場づくり)を利用した学習系の構築 ……○田中一晶・岡 夏樹(京都工繊大)
- J-048 ロボット遠隔コミュニケーションにおける視覚フィードバックの遅れの影響
……………○吉岡昇平・間瀬健二・梶田将司・平野 靖(名大)
- J-049 対向者の歩行動作の観測と予測に基づくロボットの自律的すれ違い ……○伊藤明久・今井順一・金子正秀(電通大)

K分野：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用(第3分冊)

[サイバーワールド]

- 9月2日(火) 10:40～12:00 1P会場(ε棟2階 ε24教室) 座長 青木 義満(慶大)
- K-001 オンラインゲームのセキュリティのための学際的フレームワークの提案 ……○山根信二・馬場 章(東大)
- K-002 Pythonを用いたオブジェクト指向TVMLの提案 ……○浜口斉周(NHK技研)・道家 守(NHKエンジニアリングサービス)・金子浩之・井上誠喜(NHK技研)
- K-003 アニメーションCGMによるコンテンツ創造 ……○角 薫(NICT)

- K-004 TV4U における番組ブラウザの高度化 ○道家 守 (NHK エンジニアリングサービス)・浜口齊周・金子浩之・井上誠喜 (NHK 技研)・岩鼻幸男 (NHK エンジニアリングサービス)

[福祉情報工学 (1) 高齢者]

- 9月3日 (水) 10:20 ~ 12:00 4P 会場 (ε棟2階 ε24教室) 座長 中山 剛 (国立身体障害者リハビリテーションセンター)
- K-005 RFID 技術を用いた屋内における歩行情報取得システムの試作◎中井崇人・山原裕之・原田史子・島川博光 (立命館大)
- K-006 高齢者の物体接触履歴に基づく生活意欲低下の発見支援◎三上達也・山原裕之・原田史子・島川博光 (立命館大)
- K-007 生活パターン同定によるユーザ負担を考慮した家具配置案作成◎脇田昂祐・渡辺 裕・原田史子・島川博光 (立命館大)
- K-008 高齢者の生活保安のためのパーソナル異常検知システムの開発◎平良勇志・長山 格 (琉球大)
- K-009 転倒に伴う危険認識のためのセンサーフュージョン方式に関する研究◎二井田豊・平山正治 (大阪工大)

[マルチメディア・仮想環境基礎]

- 9月3日 (水) 15:30 ~ 17:30 5P 会場 (ε棟2階 ε24教室) 座長 棕木 雅之 (広島市大)
- K-010 立体表示を用いない風インタフェースの評価 ○鈴木由里子・小林 稔 (NTT)
- K-011 デジタル放送受信端末における選局高速化の検討◎富田直史・石黒正雄・東嶋重樹・米川 輝 (日立)
- K-012 計測点群位置合わせのための2次元曲面推定を用いた特徴量抽出法◎金野哲士・高橋哲也・今野晃市 (岩手大)
- K-013 パーチャルスタジオにおけるズームレンズのキャリブレーションに関する考察 ○大久保英彦・山内結子・三ッ峰秀樹 (NHK 技研)
- K-014 4次元シミュレーションデータビューアの開発及び仮想空間用 GUI の研究 ○杉山大祐 (湘南工科大)・川原慎太郎・大野暢亮 (地球シミュレーションセンター)・坂下善彦 (湘南工科大)
- K-015 USB メモリを用いた動的な個人 Web サイトの提案 - 複数 Web サイトを利用する学習者のために -◎榎原伸康・小山幸治・尾崎正弘 (中部大)

[福祉情報工学 (2) 聴覚]

- 9月4日 (木) 10:00 ~ 12:00 6J 会場 (ε棟1階 ε11教室) 座長 西本 卓也 (東大)
- K-016 The Effect of Size and Position Normalization on HMM-based JSL Recognition ◎Abdulkhkim Elghadi・Shingo Asai・Shinji Sako・Tadashi Kitamura (名工大)
- RK-001 明瞭度試験による気導音、骨導可聴音および骨導超音波の音声知覚傾向の比較 中川誠司・○藤崎恵美子・岡本洋輔 (産総研)
- RK-002 日本語発話時における口形変化のコード化の提案 ○宮崎 剛 (神奈川工科大)・中島豊四郎 (椋山女学園大)
- RK-003 SignWriting による手話文記述支援システム ○松本忠博・原田大樹 (岐阜大)・加藤三保子 (豊橋技科大)・池田尚志 (岐阜大)
- K-017 聴覚障害者のための携帯電話を用いたリアルタイム文字提示システムによる講義支援 ○小林正幸・西川 俊・三好茂樹・石原保志 (筑波技術大)・宮岡真也・岡田圭司・福岡寛之 (KDDI 研)
- K-018 携帯電話の Bluetooth 機能を用いた災害時聴覚障害者支援システムの開発 ◎林原めぐみ・鈴木慶太・藤井雅弘・渡辺 裕 (宇都宮大)・伊藤 篤 (KDDI 研)

[教育工学 (1)]

- 9月4日 (木) 9:30 ~ 12:00 6P 会場 (ε棟2階 ε24教室) 座長 赤倉 貴子 (東理大)
- K-019 3次元 CG アニメーションを用いた国語科教材の開発◎堀越啓太・立澤亮太・松下孝太郎・鈴木英男・布広永示 (東京情報大)
- K-020 子供向けコンピュータ科学教育法の e-Learning 化◎多久和希美・福岡久雄 (松江高専)
- K-021 外国人の初級日本語文の誤り検出方式◎杉野勝也・絹川博之 (電機大)
- K-022 電話機能付き携帯型学習支援システムの提案◎水谷見三・荒井正之・渡辺博芳・佐々木茂 (帝京大)
- K-023 教育用オープンコンテンツ配信システムの構築 - 現状と計画 -◎桐山和彦 (鳥羽商船高専)・白石啓一 (詫間高専)・原 元司 (松江高専)・山本喜一 (OpenEdU プロジェクト)・本間啓道 (奈良高専)・白濱成希 (北九州高専)・岡田 正 (津山高専)
- K-024 腕の動作解析に基づく楽器指導の検討 ○野口健太郎・我那覇元基・神里志穂子・水野正志 (沖縄高専)・田所嘉昭 (豊橋技科大)
- K-025 型に着目した実験における腕の角度解析の検討◎比嘉 優・神里志穂子・野口健太郎・池松真也・鈴木龍司 (沖縄高専)

[福祉情報工学 (3) 視覚・一般]

- 9月4日 (木) 13:00 ~ 16:00 7J 会場 (ε棟1階 ε11教室) 座長 今井 篤 (NHK エンジニアリングサービス)
- K-026 災害時の寒冷ストレスに起因する危険の回避に資する情報の提案 ○外間正浩 (NTT)
- K-027 在宅歩行リハビリ支援システムの制作 - 組み込みシステムとインターネットを利用した -◎久原政彦・奥田伸二・伊藤 誠 (中京大)・古川 進 (山梨大)・佐藤 久 (山梨県障害者相談所)
- K-028 歩行リハビリ支援システム (第2報)◎奥田伸二・久原政彦・伊藤 誠 (中京大)・佐藤 久 (山梨県障害者相談所)・古川 進 (山梨大)
- K-029 発声時の頭部方向により制御可能な電動車椅子 ○佐宗 晃 (産総研)
- K-030 駅ホームにおける視覚障害者の転落防止システムに関する研究◎中島祐樹・平山正治 (大阪工大)
- K-031 距離場を用いた力覚歩行支援シミュレータ ○村井保之 (日本薬科大)・巽 久行・宮川正弘 (筑波技術大)・徳増眞司 (神奈川工科大)
- K-032 弱視の視線追跡による公共サインの視認調査 ○巽 久行 (筑波技術大)・村井保之 (日本薬科大)・関田 巖・宮川正弘 (筑波技術大)
- K-033 無線 IC タグを用いた視覚障害者のための鍼灸用ツボ人体模型の開発 ○大武信之・形井秀一・藤井亮輔・小野瀬正美 (筑波技術大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

[教育工学 (2)]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7P会場(ε棟2階 ε24教室) 座長 鈴木 栄幸(茨城大)
- K-034 局所凹弧パターン法を用いた e-Test System 用個人認証の検討 ……◎菊池伸一・古田壮宏・赤倉貴子(東理大)
- K-035 eラーニングにおける本人認証のための筆跡情報の基礎分析 ……◎藤森千博・中平勝子・福村好美(長岡技科大)
- K-036 eテストにおける得点・時間予測システムの開発 ……○ボクボン ソンムアン・植野真臣(電通大)
- K-037 失敗知識を利用したプログラミング学習における内省支援 ……◎野中美希・酒井三四郎(静岡大)
- K-038 習得の度合と過程を把握するためのプログラミング学習カルテ ……◎田口 浩・原田史子・島川博光(立命館大)
- K-039 e-learning 教材における学習者特性への対応 ……○石川浩一郎・篠沢佳久・櫻井彰人(慶大)
- K-040 Collaborative Learning Environment Based on COOP Model
 ……◎Phuong Dinh Thi Dong・原田史子・島川博光(立命館大)
- K-041 動的再構成可能計算機を用いた論理回路デザインシステム ……◎杉江崇繁(東京工科大)

L 分野：ネットワーク・セキュリティ（第4分冊）

【セキュリティ (1)】

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 柄窪 孝也(日大)
- L-001 準同形の一方性関数による無記名の電子投票方式の機能拡張○小林哲二(日本工大)
- L-002 QRコードを用いた安全な個人情報閲覧システム○山内俊明・関 靖夫(神奈川工科大)
- L-003 認証局運用規定における暗号モジュールセキュリティ要件の記述に関する検討○小川博久(みずほ情報総研)
- L-004 バイオメトリック認証システムに対するFTAによるリスク分析○清水将吾・瀬戸洋一(産業技術大)
- L-005 画像を用いた個人認証手法の提案○安齋太基・伊興田光宏(千葉工大)
- L-006 双方向放送サービスのための効率的なプロバイダ認証
.....◎大竹 剛(NHK技研)・花岡悟一郎(産総研)・小川一人(NHK技研)
- L-007 ユーザ認証システムを用いたDHCP認証ゲートウェイ方式検疫ネットワークの提案
.....◎折原義一・安井浩之・松山 実(武蔵工大)

【セキュリティ (2)】

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 三宅 優(KDDI研)
- L-008 コンテキスト依存暗号化ファイルシステム○清水亮博(NTT)
- L-009 改ざん箇所の検出が可能な電子文書のデータ構造◎中村勇介・汐崎 陽・岩田 基・萩原昭夫(大阪府大)
- L-010 バイト値列の類似性に基づく亜種ウイルス検出◎上園智士・小林和朝・高田寛之(長崎大)
- RL-001 ライブラリ関数毎のシステムコール監視による侵入検知システムの開発
.....◎鶴田浩史・榎本裕司・齋藤彰一・松尾啓志(名工大)
- L-011 (講演取消)
- RL-002 サイトの移動判定によるフィッシングサイト検知手法の検討◎五島優美・岡崎直宣(宮崎大)

【システム評価とセキュリティ】

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 岸場 清吾(広島大)
- L-012 仮想マシン環境における逐次の処理の性能評価手法の提案と評価◎馬場輝幸・田中淳裕(NEC)
- L-013 RTTを用いたグリッドシステムにおける計算資源配分の改善◎山小 敦・長坂康史(広島工大)
- L-014 小売店からの商品情報を用いたリコール支援システム◎縄崎北斗・井上雅裕(芝浦工大)
- L-015 通信の証拠保全を目的とする高速通信に対応可能な汎用LAN向けセッションレコーダの開発
.....◎中島 潤(北海道情報大)・居内寛貴・岸本裕之(コムワース)
- L-016 トラフィック特性を利用したネットワークフォレンジックシステム向け高速圧縮手法の提案
.....◎井上喬視・中島 潤(北海道情報大)

【ネットワーク技術】

- 9月3日(水) 9:30～12:00 4U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 計 宇生(国立情報学研)
- RL-003 機器の遠隔制御コントロール・機器利用権○釜坂 等・安田晃久・北上真二・嵩井秀夫(三菱)・石本貴之(三菱電機インフォメーションシステムズ)
- RL-004 IEEE802.11b屋外無線システムを用いたストリーミング配信における動的レート制御手法の評価
.....◎高橋雄一・杉本武之・山口実靖・浅谷耕一(工学院大)
- L-017 帯域監視に基づくマルチキャスト配信木管理方式の研究◎島上洋一・鳥村和典(高知工科大)
- L-018 帯域公平性をもつ輻輳制御◎井上貴照・木村昌弘・中村泰夫(龍谷大)
- L-019 非同期ネットワークにおける高精度同期方式の検討◎宮島春弥(ソフトバンクモバイル)
- L-020 測定・伝送の統合方式によるSCTP最適経路選択◎杉山和優(山形大)・大木紀拓(MHIエアロスペースシステムズ)・平中幸雄・武田利浩(山形大)
- L-021 位置アドレスを用いた経路制御の基本検討◎岡崎成寿・小宮康裕・佐藤 直(情報セキュリティ大)

【P2P】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 5U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 地引 昌弘(NEC)
- RL-005 分散デスクトップコンピューティングにおける安定的性能確保のための負荷分散制御方式の設計と評価
.....◎阪本憲司・吉田 誠(岡山理大)
- RL-006 ノードの局所性と管理の公平性を考慮したOneHop-P2P拡張方式
.....◎金子 豊・竹内真也・南 浩樹・和泉吉則(NHK技研)
- L-022 クライアント側のフロー挙動に着目したP2Pファイル共有ソフトウェア識別手法の提案◎近藤泰彦・中村康弘(防衛大)
- L-023 P2Pコンテンツ共有におけるユーザの集合知適用に関する一検討◎岡田 聡・大島浩太・寺田松昭(農工大)
- L-024 P2P Web Cacheの効率的実装方式の一考察◎子安俊矢・門脇恒平・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- L-025 ALMにおける高速再接続のための親ノード探索法の提案と評価◎篠田智治・中島 潤・廣奥 暢(北海道情報大)

【WWWとメール】

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6U会場(○棟1階 o 13教室) 座長 山井 成良(岡山大)
- L-026 文書管理システムONTDOCでのオントロジー・メタデータの利用◎年岡晃一・鈴木裕利(中部大)
- L-027 自律型Webサービス向けの非同期P2Pミドルウェア
.....◎伊東正起(湘南工科大)・◎澤口宗和(日立情報システムズ)・大谷 真(湘南工科大)
- L-028 パケットフィルタリング最適化問題における多項式時間アルゴリズム
.....◎小出淳一(新潟大)・田中 賢(神奈川大)・三河賢治(新潟大)
- L-029 プレゼンスサービスによる卒業研究着手時間記録システム◎田中宏宗・下川俊彦(九産大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採録論文です。

- L-030 ユーザのメール閲覧サイクルを考慮した遅延評価による迷惑メール検出率の調査
◎奥村慎太郎 (東理大)・鈴木康介 (清水建設)・松澤智史・武田正之 (東理大)
- L-031 NAP-Web へのページスケジューラの導入◎加地智彦・最所圭三 (香川大)
- L-032 マルチ・クエリ検索に基づくページ検索におけるランク手法◎鈴木 泉・三上喜貴・大里有生 (長岡技科大)

[インターネットと運用技術]

- 9月4日 (木) 13:00 ~ 16:00 7U会場 (o棟1階 o13教室) 座長 安東 孝二 (東大)
- L-033 電子透かしによるコンテンツ流出抑止システムの試作◎薄田昌広 (関西電力)・上原哲太郎・岡田満雄 (京大)
- L-034 多視点分析によるミュージアムコンテンツの評価と考察◎星野浩司 歩 大雄・富松 潔 (九大)
- RL-007 ソフトウェア不正コピー対策のための LAN アクセス制御システム◎山本 賢・岡山聖彦・山井成良 (岡山大)
- RL-008 ネットワーク伝送帯域に配慮した蓄積 MPEG 映像伝送方式の開発
◎三嶋英俊・楠 恵明・龍 智明 (三菱)・辻本浩章 (大阪市大)
- RL-009 マルチプラットフォームにおけるネットワーク機能の透過的拡張のためのフレームワークの開発
◎川島龍太 (総研大)・計 宇生・丸山勝巳 (国立情報学研)
- L-035 UCF を使用する基本通信オブジェクトの開発
◎渡邊正裕 (山形大)・田名部創大 (エイチ・アイ・ディ)・平中幸雄・武田利浩 (山形大)
- L-036 ATLAS 実験におけるデータ収集システムの状態可視化システムの開発◎福田宏見・長坂康史 (広島工大)

M 分野：ユビキタス・モバイルコンピューティング (第4分冊)

[MANET とセンサーネットワーク]

- 9月2日 (火) 9:30 ~ 12:00 1S会場 (o棟1階 o11教室) 座長 岩井 将行 (電機大)
- M-001 アドホックネットワークにおける RTT を用いたリンク切断予測機能の開発◎千葉達哉・長坂康史 (広島工大)
- M-002 Network Coding を用いたアドホックネットワーク情報伝送方式の評価◎寺島美昭・河東晴子 (三菱)
- M-003 (講演取消)
- M-004 アドホックネットワークにおける発信者探索の一検討◎佐藤 直 (情報セキュリティ大)・石井和行 (日本エリクソン)
- M-005 3-D 空間上のセンサネットワークにおける適応ルーティングプロトコル◎岩田 歩・原 元司 (松江高専)
- M-006 (講演取消)
- M-007 逐次のセンサネットワーク構築による建物火災の人命救助活動支援
◎奥田裕樹・稲葉大祐・原田史子・鳥川博光 (立命館大)

[マルチメディア通信]

- 9月2日 (火) 9:30 ~ 12:00 1T会場 (o棟1階 o12教室) 座長 藤田 茂 (千葉工大)
- M-008 次世代ネットワークでのグループ通信におけるメディア同期方式◎田坂和之・今井尚樹・磯村 学・井戸上彰 (KDDI 研)
- RM-001 適応スケジューリングのためのサービスクラスコントロール◎青木 健・田邊 造 (諏訪東理大)・川端信吾 (情報工房)
- RM-002 確率的な分散制御最適化手法を用いた分散カメラ網の観測資源割り当ての実装◎加藤伸哉・松井俊浩・松尾啓志 (名工大)
- M-009 VOD サービスのための動的サービス制御方式の実装と評価◎磯村 学・今井尚樹・井戸上彰 (KDDI 研)
- M-010 ROI-based Video Transmission for Wireless Multi-camera Surveillance Systems
◎Ovgu Ozturk・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)
- M-011 VoIP ルータと連携したマルチメディアコミュニケーションシステムの一検討
◎松川尚司・西川嘉樹・井前吾郎・秦泉寺浩史・阿部匡伸 (NTT)
- M-012 マルチコアプロセッサ向き MPEG 符号化の並列処理に関する検討◎三浦康之・柏木文徳 (湘南工科大)

[状況認識]

- 9月2日 (火) 13:00 ~ 15:00 2S会場 (o棟1階 o11教室) 座長 大内 一成 (東芝)
- M-013 3軸加速度センサを用いた隠れマルコフモデルによる人間の行動識別
◎浅野 翔・伊藤真也・竹内伸一・田村哲嗣・速水 悟 (岐阜大)
- M-014 Probing Stick : 3軸加速度センサを用いた杖による路面情報の抽出
◎高木篤大・石田泰之 (電機大)・岩井将行・戸辺義人 (電機大/JST-CREST)
- M-015 Unusual Situation Detector Facilitating Old People to Live Their Own Life
◎Thwin Zar Hein・Hiroyuki Yamahara・Fumiko Harada・Hiromitsu Shimakawa (立命館大)
- M-016 サービス細分化のための接触物と背景情報の有効性比較◎森 浩佳・山原裕之・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
- M-017 端末付近の照度変化に注目した環境非依存行動検知手法の検証◎近藤明宏・原田史子・鳥川博光 (立命館大)
- M-018 関連ファイル内のキーワードに着目した行動項目の具体化◎渡辺 裕・原田史子・鳥川博光 (立命館大)

[ユーザ指向ネットワーク]

- 9月2日 (火) 13:00 ~ 15:00 2T会場 (o棟1階 o12教室) 座長 北形 元 (東北大)
- M-019 P2P ネットワークと Web の連携を特徴とする動画配信方式の提案◎山田 啓・大島浩太・寺田松昭 (農工大)
- M-020 場所の類似性を考慮した多階層位置ネットワークによる情報交換プラットフォーム◎桜打彬夫 (立命館大)
- M-021 位置情報に基づくオーバレイネットワークにおける負荷平準化のための推計統計学的手法の提案
◎小川和真・中村陽一・斉藤裕樹 (電機大)
- M-022 GeoSkip : 位置情報を扱うオーバレイネットワーク構造の提案
◎中村陽一・斉藤裕樹 (電機大)・戸辺義人 (電機大/JST-CREST)
- M-023 (講演取消)
- M-024 無線 LAN における MAC 層の情報を用いた TCP ウィンドウ制御による通信品質制御方式の一検討
◎御子柴健吾 (農工大)

[ユビキタスアプリケーション]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3S会場(○棟1階 o11教室) 座長 今野 将 (千葉工大)
- M-025 RFID タグ規格の統合利用に関する研究 ……………◎野崎辰海・島村和典(高知工科大)
- M-026 ガラス面上の完全透明な RFID アンテナの設計とアプリケーションの開発
……………◎岩井将行(電機大)・和田章嗣・田村芳和(フィグラ)
- M-027 プロトコル変更可能なマルチアプリケーション IC カードシステム ……………◎内山宏樹・梅澤克之・洲崎誠一(日立)
- RM-003 Java バイトコード変換による組み込み機器連携システムの提案 ……………◎綾木良太・門脇恒平・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-028 ハードウェア情報に基づく動的適応型ユーザインタフェース ……………◎白須 光・新井浩志(千葉工大)
- M-029 ZigBee ネットワークと携帯電話ネットワークを併用した SMS システムの提案
……………◎今 宏史・片桐章博・宮本 敦(KDDI)・茂木信二(KDDI研)・中村 武(KDDI)

[位置推定]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3T会場(○棟1階 o12教室) 座長 原 晋介 (大阪市大)
- RM-004 センサネットワークにおける Hop-Vector に基づくノード位置推定手法の検討
……………◎河内康佑・佐藤雄亮(宮崎大)・油田健太郎(熊本県大)・岡崎直宜・富田重幸(宮崎大)
- M-030 Bluetooth を用いたモバイルコンピュータの位置推定システムの開発 ……………◎福本 剛・長坂康史(広島工大)
- M-031 Bluetooth 搭載携帯電話を用いた位置認識システムの実装
……………◎高階孝敏・藤井雅弘・渡辺 裕(宇都宮大)・伊藤 篤(KDDI 研)
- M-032 屋内向けナビゲーションにおける無線 LAN を用いた位置推定の検討 ……………◎今井康平・阿部宏尹(龍谷大)
- M-033 (講演取消)

[ユビキタスネットワーク]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6S会場(○棟1階 o11教室) 座長 今井 尚樹 (KDDI 研)
- M-034 ID に基づく受信制御の自律管理方式とその効果 ……………◎阪本裕介・中山雅哉(東大)
- M-035 携帯端末エージェントによる自動トラスト形成 ……………◎眞壁 聡・八横博史・山口由紀子(名大)
- M-036 P2P 環境下における BSP 探索手法 ……………◎由利 誠・能登谷淳一・草刈良至・笠井雅夫(秋田県大)
- M-037 HF 帯を使用した2種類の PLC の共存に関する研究 ……………◎鈴木彰仁・千田健太・井上雅裕(芝浦工大)
- M-038 PLC ホームネットワークを用いた地震防災システム ……………◎本田大典・原山恭輔・井上雅裕(芝浦工大)
- M-039 サーバとホームゲートウェイおよびエージェントの連携によるホームネットワーク遠隔障害管理手順の実装
……………◎荒井大輔・吉原貴仁・井戸上彰(KDDI 研)
- M-040 ホームネットワークにおける UPnP を用いた IP 電話アーキテクチャの一検討
……………◎井前吾郎・松川尚司・西川嘉樹・秦泉寺浩史・阿部匡伸(NTT)

[Web サービスとインターネット]

- 9月4日(木) 9:30～12:00 6T会場(○棟1階 o12教室) 座長 井上 智雄 (筑波大/国立情報学研)
- M-041 Web サービス標準を用いた Automated Trust Negotiation 基盤の開発
……………◎Indika Harindra Katugampala・八横博史・山口由紀子(名大)
- M-042 Nagatuki : サービスカスタマイズ向けマッシュアップ基盤 ……………◎小山和也・北野貴稔・井口圭一(NEC)
- M-043 Nagatuki におけるマッシュアップ再利用の促進 ……………◎井口圭一・小山和也・北野貴稔(NEC)
- M-044 (講演取消)
- M-045 Wiki におけるグループ活動支援システムの開発 ……………◎田崎潔志・藤田 毅・黒野 繁(九産大)
- M-046 現実世界における行動評価の SNS コミュニティへの反映方式について ……………◎近藤拓也・高橋 修(はこだて未来大)
- M-047 ネットワークによる人を介した情報推薦 ……………◎山崎宏幸・太原育夫(東理大)

[実世界インタフェース]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7S会場(○棟1階 o11教室) 座長 福地健太郎 (JST)
- M-048 雛型を用いた携帯電話向け UI システムの開発 ……………◎中西正洋・小野修一郎(シャープ)・尾上孝雄(阪大)
- M-049 実世界リンクシステムのための GUI の設計
……………◎中田龍太郎・石塚宏紀(電機大)・岩井将行・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-050 SPAL : レーザスキャナを用いた実世界注目度計測 ……………◎焼山康礼・三尋木織(電機大)・Niwat Thepviljanapong・岩井将行(電機大/JST-CREST)・梅田和昇(中大/JST-CREST)・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-051 SPAL v : 歩行者の移動速度に基づいた注目度検出手法
……………◎三尋木織・焼山康礼(電機大)・岩井将行・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-052 自由散策支援ナビゲーションシステムにおける潜在注目度抽出手法の検討
……………◎澤 義和(電機大)・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-053 都市環境データのクラスタリングに関する一考察
……………◎大野貴弘(電機大)・Thepviljanapong Niwat・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-054 走行コンテキスト抽出による自転車の快走支援地図の設計と実装
……………◎菅生啓生・中田龍太郎・石塚宏紀(電機大)・戸辺義人(電機大/JST-CREST)
- M-055 低周波漸増型装置を用いた居眠り運転防止システムの研究 ……………◎足立智也(東海大)

[協調と共有]

- 9月4日(木) 13:00～16:00 7T会場(○棟1階 o12教室) 座長 金井 秀明 (北陸先端大)
- RM-005 t-Room の仮想共有面と過去再生機能を用いたアプリケーションについて ……………◎梶 克彦・平田圭二・原田康徳(NTT)
- M-056 オブジェクト同期によるリアルタイム協調作業支援システム開発基盤の構築
……………◎野口尚吾・◎野村俊太・植田 亘・笠井康寛・高田秀志(立命館大)
- M-057 異種端末間でのリアルタイム協調作業支援を可能にするオブジェクト同期手法の提案
……………◎植田 亘・野口尚吾・高田秀志(立命館大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

- M-058 お裾分けに基づく近隣生活者用献立支援システム
.....◎北原 圭・金井秀明（北陸先端大）・漆原誠二（ACCESS）・國藤 進（北陸先端大）
- M-059 リアルタイム性の高い情報を対象とした地域情報共有サービスの提案◎榎島 量・大島浩太・寺田松昭（農工大）
- M-060 システム開発におけるコミュニケーションをサポートする知識ベースシステムの検討
.....◎亀田栄一・望月雅光・勅使河原可海（創価大）
- M-061 進化的ベトリネットを用いた依存関係のある行動コンテキストの学習◎細田圭悟・濱上知樹（横浜国大）
- M-062 社会的ネットワークにおける媒介者による情報共有方式 ◎佐賀亮介（神奈川工科大）・辻 洋（大阪府大）

N 分野：教育・人文科学（第4分冊）

[授業支援]

- 9月2日（火） 9:30～12:00 1D会場（κ棟1階 κ16教室） 座長 田中 雅章（鈴鹿短大）
- N-001 対話交渉シミュレータによる教材に対する評価と分析◎小島一秀・村山健二・岩成英一・高橋 明（阪大）
- N-002 自学中心初級プログラマ養成コースの分析と改善◎岡本雅子・喜多 一（京大）・吉川直人・寺村 央（キヤミー）
- N-003 携帯電話型文字入力練習システムの評価（III）◎飯倉道雄・吉岡 亨・樺澤康夫（日本工大）
- N-004 学習者間のウェブ上における協調学習効果◎岡野英樹（慶大）
- N-005 歴史事象記述の枠組みを用いた歴史教材入力支援ツールの実装◎安孫子一敏・中平勝子・三上善貴（長岡技科大）
- N-006 ペーパークラフトを活用したデザインプロセス教育◎片岡勲人・森本忠夫（東海大）
- N-007 携帯電話型文字入力装置による入力練習システムの検討と試作◎吉岡 亨・飯倉道雄・樺澤康夫（日本工大）

[プログラミング教育]

- 9月2日（火） 13:00～15:00 2D会場（κ棟1階 κ16教室） 座長 高岡 詠子（千歳科技大）
- N-008 図式操作を用いたアルゴリズムの理解度把握手法◎稲葉大祐・原田史子・島川博光（立命館大）
- N-009 オブジェクト指向プログラミング技法のイメージ理解を目指した学習ソフトウェアの開発
.....◎稲垣 宏・岩橋和哉（豊田高専）
- RN-001 学習者特性適応型eラーニングシステムの構築・実験◎稲葉竹俊・松永信介・中村 峻（東京工科大）
- RN-002 中学生対象コンピュータグラフィックス作成支援システムの開発と教育実践◎菊地卓也・佐藤貴之（仙台電波高専）
- N-010 プログラミング演習の進捗モニタリングシステムの評価◎内藤広志・斉藤 隆・水谷泰治（大阪工大）
- N-011 制御構造グラフを用いたソースコード理解のための演習支援手法 ◎石原 俊・田口 浩・原田史子・島川博光（立命館大）

[人文・社会系応用]

- 9月2日（火） 15:30～17:30 3D会場（κ棟1階 κ16教室） 座長 松村 敦（筑波大）
- N-012 WWWにおけるメディア芸術コンテンツの類推判定システムの構築◎江富功朗・阿崎善之・皆月昭則（釧路工大）
- N-013 共同観賞における閲覧操作と会話記録を用いた写真アーカイブのアニメーション
.....◎永井寿憲・川嶋稔夫（はこだて未来大）
- N-014 Design of Sogd Character Information Processing System
..... ◎Omarjan Osman・Katsuko .T Nakahira・Yoshiki Mikami（長岡技科大）
- N-015 特許情報教育のための教育支援ツール開発◎鈴木 優・中平勝子・三上善貴（長岡技科大）
- N-016 風評被害対策に向けた話題分析に関する基礎研究 ◎須藤一弘・長尾光悦（北海道情報大）・大内 東（北大）
- RN-003 3DCGによる浮世絵構図への変換法◎久保友香・趙 捷・宇佐美貴徳・広田光一（東大）

[知的財産・社会基盤]

- 9月3日（水） 9:30～12:00 4D会場（κ棟1階 κ16教室） 座長 一戸 信哉（敬和学園大）
- N-017 共発明期間分析とその一般性◎犬塚 篤（東大）
- N-018 機関リポジトリ構築と著作権ポリシーの関連性要因分析
..... ◎相澤正人・中平勝子・福村好美・McGown Valerie（長岡技科大）
- N-019 放送コンテンツのネット配信におけるDRMについて◎児玉晴男（メディア教育開発センター）
- N-020 A Proposal of Contents Distribution Model and Analysis of Illegal Contents Distribution on the Small-World Network
..... ◎Pao Sriprasertsuk・亀山 渉（早大）
- N-021 コンテンツの時空間を考慮した権利記述方式の提案◎王 元綱（早大）・関亜紀子（日大）・亀山 渉（早大）
- N-022 情報基盤格差観測のための指標開発とデータベース設計◎新井裕樹・中平勝子・三上善貴（長岡技科大）
- RN-004 互酬的仮想通貨を用いた研究者評価システムの研究◎井出 明（首都大）

[情報教育支援]

- 9月4日（木） 9:30～12:00 6D会場（κ棟1階 κ16教室） 座長 奥村 晴彦（三重大）
- RN-005 プログラミング入門教育におけるモチベーション分布の分析◎土肥紳一・宮川 治・今野紀子（電機大）
- N-023 電子掲示板を用いた大学講義フォーラムのモデル化とシステム構築◎前田 稔（東京学芸大）
- N-024 実習状況を把握するためのリアルタイム操作履歴取得システム◎森田直樹（東海大）
- RN-006 児童対象メロディ付き物語創作支援システムの開発 ◎佐藤貴之（仙台電波高専）・石澤慶子（東北電力）・
亀谷学人・瀬戸敏文・菊地卓也・庄司 亮（仙台電波高専）
- RN-007 LiNeSにおける仮想ネットワーク間接続機能の開発と実用可能性の検討◎立岩佑一郎・安田孝美（名大）
- N-025 3×3分割表を用いたテスト項目関連構造の分析◎北山竜太・鳥 和之・中田明夫・大場 充（広島市大）
- N-026 動きある図式を用いたプログラミング指導の記録・再現とその指導情報の抽出
.....◎岡本悠紀・樋口賢治・田口 浩・原田史子・島川博光（立命館大）
- N-027 感情交換チャットのE-Learning Systemへの実装 ◎Jarawan Puttikarukot・野地 保（東海大）

○ 分野：情報システム（第4分冊）

[社会と情報システム]

- 9月2日(火) 9:30～12:00 1C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 刀川 眞(室蘭工大)
- O-001 レスキューロボットコンテストのための競技運営システムの開発
.....○小島篤博(大阪府大)・山内 仁(岡山県大)・小枝正直(大阪電通大)
- O-002 ユニバーサルデザインに配慮した観光情報システムのためのCMSの提案
.....◎佐々木研弥・市川 尚・窪田 諭・阿部昭博(岩手県大)
- O-003 緊急地震速報時の状況的アシストインタフェースの検討 ◎河野彩光代(釧路工大)・江富功朗(名港海運)・奥崎善之(アイエックス・ナレッジ)・皆月昭則(釧路工大)
- O-004 Application of Synergetic Theory in Municipal Renewable Resource Management
.....趙 一平・◎謝 英弟・大谷 淳(早大)
- O-005 セレンディピティを誘発する地域資源マップ◎高橋 悠・中平勝子・三上喜貴(長岡技科大)
- O-006 (講演取消)
- O-007 ブログ注目情報と株価変動の相関分析に関する検討 ◎原 慎司(松江高専)・灘本裕紀(京大)・堀内 匡(松江高専)

[医療とコンテンツの情報システム]

- 9月2日(火) 13:00～15:00 2C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 辻 秀一(東海大)
- O-008 P2P通信における医療情報共有システムモデルの検討◎有野真史・野地 保(東海大)
- O-009 看護計画作成業務の分析 ◎鈴木 徹・Kenneth James Mackin・永井保夫(東京情報大)・山口千恵美(千葉労災病院)
- O-010 音声を用いた医療現場における業務コンテキストの抽出◎柴垣充哉・細田圭悟・濱上知樹(横浜国大)
- O-011 翻訳メモリ共有による翻訳支援 Web アプリケーションの開発◎岡田正彦・奥野 拓(はこだて未来大)
- O-012 デジタルコンテンツに適した学術情報リポジトリの構築
.....◎高田良宏・笠原禎也・西澤滋人・森 雅秀・内島秀樹(金沢大)
- O-013 高等教育のFDのための学習コンテンツの開発と共有・再利用システム◎児玉晴男(メディア教育開発センター)

[オフィス情報システムと評価]

- 9月2日(火) 15:30～17:30 3C会場(κ棟1階 κ13教室) 座長 関 良明(NTT)
- O-014 テレワーク導入のインセンティブに関する一提案◎豊川正人・箴島 専(早大)
- O-015 レガシーラッピングで提供されるWebサービスの応答高速化手法◎塚本良太・吉村礼子・山足光義(三菱)
- O-016 Web閲覧作業におけるストレス推定ソフトウェアのための評価研究
.....◎藤田将輝・平川正人(島根大)・野村収作(長岡技科大)
- RO-001 WEISER: 企業情報システムのユーザビリティに対する評価手法◎清水浩行・飯尾 淳(三菱総研)
- RO-002 アフィリエーションネットワーク概念を用いた組織内情報分析法のモデル化と情報ネットワーク制御への応用
.....◎栗野俊一・吉開範章(日大)
- RO-003 アクタ関係行列によるゴールモデリングの有効性評価 ◎井部己文・山本修一郎(NTTデータ)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2008年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、査読採択論文です。

ISS：(社) 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ
 HCG：(社) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーションングループ
 IPSJ：(社) 情報処理学会

FIT 委員名簿

FIT 推進委員会

ISS 委員長 末永康仁 (名大)
 IPSJ 委員長 喜連川優 (東大)
 ISS 委員 大和淳司 (NTT), 亀井俊男 (NEC), 谷 聖一 (日大), 片桐雅二 (NTTドコモ)
 HCG 委員 深山 篤 (NTT)
 IPSJ 委員 田中二郎 (筑波大), 山本里枝子 (富士通研), 星 徹 (東京工科大),
 高橋 修 (はこだて未来大)
 実行委員長 木戸出正継 (奈良先端大/FIT2008), 畑岡信夫 (東北工大/FIT2009)
 プログラム委員長 阿草清滋 (名大/FIT2008), 本位田真一 (国立情報学研/FIT2009)

FIT2008実行委員会

委員長 木戸出正継 (奈良先端大)
 幹 事 亀井俊男 (NEC/ISS), 高橋修 (はこだて未来大/IPSJ)
 会計幹事 神田陽治 (富士通研/ISS), 田中二郎 (筑波大/IPSJ)
 ISS 委員 満田成紀 (和歌山大), 伊藤慶明 (岩手県大), 池田和司 (奈良先端大),
 山下直美 (NTT), 赤倉貴子 (東理大), 関 良明 (NTT), 大和淳司 (NTT)
 IPSJ 委員 西崎真也 (東工大), 五島正裕 (東大), 菅 将孝 (日立), 橋本 剛 (北陸先端大),
 向川康博 (阪大), 高木真一 (早大), 木下俊之 (東京工科大), 大内一成 (東芝),
 田中雅章 (鈴鹿短大), 阿草清滋 (名大), 星 徹 (東京工科大)
 委員 (現地) 村井 純 (慶大), 植原啓介 (慶大)

FIT2008プログラム委員会

委員長 阿草清滋 (名大)
 幹 事 大和淳司 (NTT/ISS), 星 徹 (東京工科大/IPSJ)
 ISS委員 入江英嗣 (東大), 鈴木 優 (立命館大), 樺島祥介 (東工大), 増谷佳孝 (東大),
 鷺見和彦 (三菱), 日能政行 (NEC通信システム), 亀井俊男 (NEC)
 HCG委員 西野由利恵 (NICT/ATR), 西本卓也 (東大)
 IPSJ委員 堀田一弘 (電通大), 南里豪志 (九大), 平井重行 (京産大), 倉本 到 (京都工繊大),
 計 宇生 (国立情報学研), 梅津高朗 (阪大), 鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館),
 高橋 修 (はこだて未来大)

FIT2008担当委員

ISS委員 内山孝憲 (慶大), 関 良明 (NTT), 高村誠之 (NTT), 村上浩司 (東工大),
 入江英嗣 (東大), 小柴健史 (埼玉大), 大須賀昭彦 (電通大), 満田成紀 (和歌山大),
 鈴木 優 (立命館大), 鷺見和彦 (三菱), 北神正人 (千葉大), 池田和司 (奈良先端大),
 糸賀裕弥 (立命館大), 伊藤慶明 (岩手県大), 赤倉貴子 (東理大), 増谷佳孝 (東大),
 日能政行 (NEC通信システム), 天野英晴 (慶大), 樺島祥介 (東工大),
 池内克史 (東大), 山下直美 (NTT), 成田雅彦 (産業技術大), 西尾修一 (ATR),
 菱山玲子 (早大), 三宅 優 (KDDI研)
 HCG委員 青木義満 (慶大), 西野由利恵 (NICT/ATR), 椋木雅之 (広島市大), 西本卓也 (東大)
 IPSJ委員 山田敏規 (埼玉大), 堀田一弘 (電通大), 南里豪志 (九大), 吉岡信和 (NII),
 西崎真也 (東工大), 並木美太郎 (農工大), 五島正裕 (東大), 小松 聡 (東大),
 菅 将孝 (日立), 浦本直彦 (日本IBM), 二宮 崇 (東大), 中挾知延子 (東洋大),
 伊藤克巨 (法政大), 平井重行 (京産大), 福田健介 (NII), 橋本 剛 (北陸先端大),
 向川康博 (阪大), 栗山 繁 (豊橋技科大), 高木真一 (早大), 加藤直樹 (東京学芸大),
 関谷貴之 (東大), 計 宇生 (NII), 金子 聡 (日本IBMサービス), 清原良三 (三菱),
 大内一成 (東芝), 菅沼拓夫 (東北大), 柗窪孝也 (日大), 田中雅章 (鈴鹿短大),
 鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館), 橋本誠志 (徳島文理大), 松永賢次 (専修大),
 梅津高朗 (阪大), 木下俊之 (東京工科大), 倉本 到 (京都工繊大), 関嶋政和 (産総研),
 高汐一紀 (慶大)

FIT2008現地実行委員会 *所属はすべて慶應義塾大学

委員長 村井 純
 副委員長 徳田英幸
 幹 事 植原啓介, 高汐一紀
 委 員 佐藤雅明, 渡部陽仁

このたびのFIT開催にあたりましては、慶應義塾大学様より湘南藤沢キャンパスを会場として無償提供頂き誠にありがとうございました。

ここに厚くお礼申し上げます。

FIT 推進委員会